

講義コード	120000401
講義名	解剖生理学 I
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	平林 義章、柴山 久代
ナンバリングコード	19K3Z2102

科目概要	多細胞体である人体は、特殊な機能を持つ細胞群が組織・器官（臓器）を形成している。器官（臓器）はさらに目的に応じて骨・筋・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器・感覚器・神経系の10系統を形成している。本講義では、細胞・組織レベルから各系統を構成する器官（臓器）の主に構造について学ぶ。
達成目標	「人体の構造と機能」「病気の成り立ち」を学ぶ基礎として、人体を構成する細胞と細胞小器官の構造、組織の種類と分布、個々の系統を構成する器官（臓器）の肉眼的構造と組織学的構造の概要を理解し、説明できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	生物学の知識
学位授与方針との関連	1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	解剖生理学総論：解剖生理学の学習法、人体の構成（階層性）、学術用語（解剖学用語）、歴史について 細胞の構造：核と細胞質、細胞膜の構造について 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p2-30, 36, Work（復習と課題）p. 54①②③④⑥⑦およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第2回	組織の種類と分布：上皮組織、筋組織、支持組織（結合組織）、神経組織 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p45-54, Work（復習と課題）p. 54⑬⑭⑮⑯⑰およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第3回	運動器系（1）：骨の形態と組織構造、骨の連結、骨格筋の構造、体幹の骨と筋 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p282-306, Work（復習と課題）p. 354①⑬およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第4回	運動器系（2）：上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋、頭頸部の骨格と筋 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p306-339, Work（復習と課題）p. 354⑭⑰およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第5回	循環器系（1）：循環器系の構成、心臓の構造、血管の構造、主な動脈と静脈 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p150-157, 175-187, Work（復習と課題）p208①②③④およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第6回	循環器系（2）：胎児循環、リンパ管系の構造、リンパ性器官（脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃） 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p206-208, 447-450, 488-489, Work（復習と課題）p208⑱, p457⑥⑦, p499⑨⑩およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第7回	呼吸器系：呼吸器系の構成、上気道・下気道・肺・胸膜・縦隔の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p96-107, Work（復習と課題）p148②③④⑤⑥⑦およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第8回	消化器系（1）：消化器系の構成、口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p56-62, 64, 67-68, 72-74, 80-83, Work（復習と課題）p93①②③⑥⑦およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第9回	消化器系（2）：肝臓・膵臓・胆嚢の構造、腹腔と腹腔の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p84-88, 90-93, Work（復習と課題）p93⑩⑪⑬⑮およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第10回	泌尿生殖器系（1）：泌尿器系の構成、腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造。生殖器系の発生、男性生殖器系の構成、精巣・精巣上体・精管・精嚢・前立腺・外陰部の構造・男性の生殖機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p210-217, 222, 225-226, 460-466, 484-485 Work（復習と課題）p237①②, p499①②③およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第11回	泌尿生殖器系（2）：女性生殖器系の構成・卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部・会陰・乳腺・胎盤・臍帯の構造・女性の生殖機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p466-475, 488-489, Work（復習と課題）p499④⑤⑥およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。

第12回	神経系(1)：神経系の構成、脳と脊髄の構造、神経路の構成 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p367-382, 392, 395, Work (復習と課題) p432①⑥⑦⑧⑬⑭⑰およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。			
第13回	神経系(2)：脳神経・脊髄神経の構成 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p383-391, Work (復習と課題) p432⑮⑯およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。			
第14回	感覚器系(1)：視覚器の構造、嗅覚器の構造、味覚器の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p397-403, 413-415, Work (復習と課題) p432⑱およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。			
第15回	感覚器系(2)：聴覚平衡覚器の構造、皮膚の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p408-412, 435-438, Work (復習と課題) p432⑳, p457①②およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	事前にWebclassで、講義の関係資料および関連する小テストを配布するので、各自のペースで事前学習することが可能で、これにより講義の理解を深めることができる。 講義内容等については、常にWebClassおよびメールにて質問等を行うことができるので活用する。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	人体の構造と機能には密接な関連性がある。解剖生理学Iでは主に構造について学ぶ。解剖生理学を学ぶ上で最も身近な学習対象が自分自身である。講義の内容は必ずしも教科書と同じ内容とは限らないのでノートを作成すること。また図を多く書くので、色鉛筆などを用意すること。WebClassに資料を添付するので、講義前・講義後の自主学習に利用してほしい。また、この授業は解剖生理学Ⅱの基礎となるだけでなく、病期の成り立ち、応用栄養学や臨床栄養等多岐にわたる科目の基礎となるので十分に学習してほしい。			
成績 (達成度) 評価方法・評価基準、割合	Webclassで行う小テスト (30%) および定期試験 (70%) により評価する。レポートを課すこともある。			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の実務経験と授業科目との関連) 臨床検査技師としての実務経験を有しており、また看護学校の非常勤講師も務めている。人体解剖等の実務経験を解剖生理学の人体の構造の理解に役立てた教育を実践している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『系統看護学講座 解剖生理学』	坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀	医学書院	978-4-260-04687-9	2024
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『日本人体解剖学 1,2巻』	金子 丑之助 原著	南山堂	978-4-525-10089-6	2000
『分担解剖学 1,2,3巻』	森 於菟 他	金原出版	978-4-307-05022-7	1991
『Netter解剖学アトラス (電子書籍付)』	相磯貞和 訳	南江堂	978-4-524-25559-7	2016
『栄養科学イラストレイテッド演習版 解剖生理学ノート』	志村二三夫、岡純、山田和彦/編	羊土社	978-4-7581-0890-4	2010
『管理栄養士のためのイラスト解剖生理学』	開道貴信	講談社	978-4-06-518042-6	2021
『Essential Anatomy (電子書籍)』	3D4Medical.com			
からだがみえる 人体の構造と機能	安藤雄一ら監修	メディックメディア	978-4-89632-896-7	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120000501
講義名	解剖生理学Ⅱ
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	平林 義章
ナンバリングコード	19K3Z3102

科目概要	多細胞体である人体は、特殊な機能を持つ細胞群が組織・器官（臓器）を形成している。器官（臓器）はさらに目的に応じて骨・筋・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器・感覚器・神経系の10系統を形成している。本講義では、細胞・組織レベルから、各系統を構成する器官（臓器）の主に機能について学ぶ。
達成目標	「人体の構造と機能」「病気の成り立ち」を学ぶ基礎として、人体を構成する細胞と細胞小器官の働き、個々の系統を構成する器官（臓器）の働きと相互作用について理解し、説明できるようにする。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	生物学、生化学の知識。解剖生理学Iで学習した知識。
学位授与方針との関連	1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	細胞膜と細胞小器官の機能 血液の生理：血液の組成、血液の機能、血液型、血液凝固と線溶 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p27-30, 36-42, 126-147, 440-447, Work（復習と課題）p54⑦⑩⑪, p148⑮⑯⑰⑱, p457⑤およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第2回	循環の生理（1）：心筋の生理学的特性、心電図、心臓のポンプ機能、心機能調節 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p157-175, p348-349, Work（復習と課題）p208①⑤⑥⑦, p355⑳およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第3回	循環の生理（2）：血管の働き、血圧、循環調節、リンパ管系の働き 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p187-206, Work（復習と課題）p208⑧⑨⑩⑪⑫およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第4回	呼吸の生理：換気、ガス交換、血液ガス、肺換気量の調節 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p108-126, Work（復習と課題）p148⑧⑨⑩⑪⑫⑬およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第5回	消化器の生理：消化管の運動とその調節、消化、吸収、排便、肝臓の機能、膵臓の機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p63-64, 65-66, 68-71, 75-8083-84, 88-90, Work（復習と課題）p93④⑤⑧⑨⑫⑬およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第6回	内分泌器の生理（1）：ホルモンの一般的性状、視床下部のホルモン、下垂体のホルモン、甲状腺のホルモン、副甲状腺のホルモン 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p249-263, 273-275, 276-277, Work（復習と課題）p280⑤⑥⑦⑨⑩およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第7回	内分泌器の生理（2）：副腎のホルモン、膵臓のホルモン、性腺のホルモン、松果体のホルモン、その他のホルモン 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p263-273, 275, 278-280, Work（復習と課題）p280③⑩⑫およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第8回	尿の生成と排泄：糸球体濾過、尿管の再吸収と分泌、排尿 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p215-216, 217-225, 227-230, Work（復習と課題）p237③④⑤⑥およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第9回	体液とその調節：体液の区分と水バランス、体液のイオン組成、体液調節、酸塩基平衡 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p38-40, 203, 230-237, Work（復習と課題）p54⑤, p237⑧⑨⑩およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第10回	筋の生理：筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ、骨格筋の収縮の仕方、平滑筋の収縮の仕方、エネルギー代謝 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第3刷）p339-355, Work（復習と課題）p355⑳㉑㉒㉓およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。

第11回	神経の生理(1): 神経の基本的機能、脊髄と脳幹の機能、小脳の機能、大脳の機能、大脳基底核の機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p361-366, 370-371, 372-373, 374, 375, 378-380, 381-382, Work (復習と課題) p432②③④⑤⑨⑩⑪⑫およびWebclassの小テストにより予習(60分)と復習(60分)を行う。
第12回	神経の生理(2): 中枢神経の高次機能、自律神経の機能、内臓反射 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p241-249, 420-431, Work (復習と課題) p280②③, p432⑫⑬およびWebclassの小テストにより予習(60分)と復習(60分)を行う。
第13回	感覚器の生理(1): 体性感覚、内臓感覚、視覚 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p393-397, 403-407, Work (復習と課題) p432⑩⑪およびWebclassの小テストにより予習(60分)と復習(60分)を行う。
第14回	感覚器の生理(2): 聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p412-415, Work (復習と課題) p432⑫⑬およびWebclassの小テストにより予習(60分)と復習(60分)を行う。
第15回	体温とその調節: 熱産生と熱放散、体温調節機構、発熱、高体温と低体温 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第3刷) p451-457, Work (復習と課題) p457⑧⑨⑩⑪およびWebclassの小テストにより予習(60分)と復習(60分)を行う。
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	事前にWebclassで、講義の関係資料および関連する小テストを配布するので、各自のペースで事前学習することが可能で、これにより講義の理解を深めることができる。 講義内容等については、常にWebClassおよびメールにて質問等を行うことができるので活用する。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。
アクティブラーニング	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	人体の構造と機能には密接な関連性がある。解剖生理学IIでは主に機能について学ぶ。解剖生理学を学ぶ上で最も身近な学習対象が自分自身である。講義の内容は必ずしも教科書と同じ内容とは限らないのでノートを作成すること。また図を多く書くので、色鉛筆などを用意すること。WebClass等に参考資料をあげるので講義前・講義後の自主学習の参考にすること。
成績(達成度) 評価方法・評価基準、割合	Webclassで行う小テスト(30%) および定期試験(70%)により評価する。レポートを課すこともある。
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の実務経験と授業科目との関連) 臨床検査技師としての実務経験を有しており、看護学校の非常勤講師も務めている。人体解剖等の実務経験を解剖生理学の人体の機能の理解に役立てた教育を実践している。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『系統看護学講座 解剖生理学』	坂井健雄、岡田隆夫、宇賀貴紀	医学書院	978-4-260-04687-9	2024

参考図書など

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『管理栄養士のためのイラスト解剖生理学』	開道貴信	講談社	978-4-06-518042-6	2021
『やさしい生理学』	彼末一之、能勢 博	南江堂	978-4-524-25417-0	2017
『わかりやすい人体の構造と機能』	塩田浩平	中山書店	978-4-521-73762-1	2013
『栄養科学イラストレイテッド演習版 解剖生理学ノート』	志村二三夫、岡純、山田和彦/編	羊土社	978-4-7581-0890-4	2010
『人体機能生理学』	杉 晴夫	南江堂	978-4-524-25364-7	2009
からだが見える 人体の構造と機能	安藤雄一ら 監修	メディックメディア	978-4-89632-896-7	

参考URL

NO	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			
4.			
5.			

講義コード	120000601
講義名	解剖生理学実験 I
開講期	2026年度前期
単位数	1単位
授業形態	実験
担当教員	平林 義章、松本 貴哉
ナンバリングコード	19K3Z3103

科目概要	解剖生理学I・IIの講義で学んだ知識を、実験を通して再確認する。ヒトの組織標本と動物の組織標本を観察し、実際の器官・臓器の組織構造を理解し、その機能について考察を行う。
達成目標	「人体の構造と機能」「病気の成り立ち」を学ぶ基礎として、講義で学んだ器官・臓器の知識を用いて、実際の器官・臓器が立体的な構造物であることを理解し、その構造や機能について分かりやすく説明できるようにする。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	生物学の知識、解剖学生理学IおよびIIの知識、光学顕微鏡の取扱い方、組織標本の取扱い方、レポートの書き方
学位授与方針との関連	1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につける。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オリエンテーション・組織学総論。解剖生理学実験Iの進め方の説明。組織学総論：上皮組織（単層上皮・重層上皮）、支持組織（軟骨組織・骨組織・結合組織）、筋組織（平滑筋・横紋筋）、神経組織（神経細胞・神経線維）を観察して区別し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第2回	循環器系の観察：心臓、大動脈、中等大動静脈、リンパ性器官の観察。心筋の構造、弾性動脈と筋性動脈の区別、動脈壁と静脈壁の構造の違い、脾臓・リンパ節・胸腺（幼児と成人の違い）などのリンパ性器官の構造を観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第3回	呼吸器系の観察：鼻翼、鼻腔、喉頭、気管、肺の観察。鼻翼：外側面と内側面の組織学的相違、鼻腔：呼吸部と嗅部の区別、喉頭蓋：構造と喉頭面と咽頭面の違い、喉頭：室ひだ、声帯ひだの構造と機能について、気管：気管の構造、肺：肺小葉の構造と気管支の区分について観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第4回	消化器系の観察(1)説明：口唇、口蓋、歯、舌、唾液腺の観察。口唇：皮膚部・移行部・粘膜部の違い、軟口蓋：咽頭面と口腔面の違い、唾液腺：耳下腺・顎下腺・舌下腺の構造の違い、歯：臼歯と切歯（ラット）を用いて、構造の違い、エナメル質・象牙質・セメント質・歯根膜、舌：舌体・舌根・側舌部の区別、味蕾の観察などをおこなう、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第5回	消化器系の観察(2)：扁桃、咽頭、食道、胃、小腸の観察。扁桃：舌扁桃・口蓋扁桃・咽頭扁桃の区別、咽頭：鼻部・口部・喉頭部の区別、食道：上部・中部・下部の区別、胃壁の構造や体部と幽門部の区別、小腸：十二指腸・空腸・回腸の区別などを行い、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第6回	消化器系の観察(3)：大腸、膵臓、肝臓、胆嚢の観察。大腸：虫垂・結腸・直腸の観察、膵臓の外分泌部と内分泌部の区別、肝臓の肝小葉の観察、胆嚢壁の構造を観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第7回	内分泌器系の観察：下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、膵島、松果体の観察。下垂体前葉・中間部・後葉、甲状腺濾胞・傍濾胞細胞、副甲状腺、副腎皮質・髄質、膵島（膵臓内分泌部）、松果体の構造を観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第8回	泌尿器系の観察：腎臓、尿管、膀胱、尿道の観察。腎臓：皮質と髄質の区別、腎小体・遠位尿細管・ヘンレループ・遠位尿細管・集合管の区別、尿管の構造の観察、膀胱壁の構造の観察、男性尿道（海綿体部）と女性尿道（膈膜部）の観察を行い、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第9回	男性生殖系系の観察(1)：精巣、精巣上体、精管、前立腺、精嚢の観察。精巣：曲精細管と精子形成細胞の観察、精巣上体：精巣輸尿管と精巣上体管の区別、精管：精巣上体部・精索部・鼠径部・骨盤部の区別、前立腺（射精管・精丘・尿道前立腺部）・精嚢の構造を観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第10回	男性生殖系系(2)と女性生殖系系(1)の観察。陰茎、陰嚢、卵巣（サル）、卵管の観察。陰茎：皮膚・海綿体の構造、陰嚢：皮膚・汗腺の構造を観察する。卵巣：卵胞・黄体・白体の区別、卵管：膨大部・峡部の違いを観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント（解説および設問）と図譜（PowerPointファイル）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。

第11回	女性生殖器系の観察(2)：子宮、陰、陰核、乳頭、乳腺、胎盤、臍帯の観察。子宮：体部を観察し月経期・増殖期・分泌期を区別する。陰核：粘膜・海綿体などを観察し陰茎の相違を見る。乳腺：組織構造・成人と老人の相違を観察、乳頭の構造、臍帯・胎盤の構造を観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント(解説および設問)と図譜(PowerPointファイル)を用いて予習(60分)を行い、返却されたレポートで復習(60分)を行う。			
第12回	神経系の観察：脊髄、延髄、橋、小脳、大脳、神経節の観察。脊髄：前角の多極神経細胞、延髄：錐体・オリブ・内側毛帯、橋：中脳脚・橋核、小脳：皮質(分子層・プルキンエ層・顆粒層の区別)と髄質、大脳：運動野・感覚野・連合野の細胞構築の区別、有髄神経と無髄神経の構造の違い、知覚性神経節(三叉神経節)と自律性神経節(交感神経節)の構造の違いを観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント(解説および設問)と図譜(PowerPointファイル)を用いて予習(60分)を行い、返却されたレポートで復習(60分)を行う。			
第13回	感覚器系の観察(1)：視覚器、味蕾の観察。サルの前眼部および後眼部：角膜・虹彩・毛様体・水晶体・網膜・篩状野(視神経が眼球線維膜を貫く部)などの構造を観察し、設問に答える。味蕾：ウサギの側舌部を用いて構造や側舌腺を観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント(解説および設問)と図譜(PowerPointファイル)を用いて予習(60分)を行い、返却されたレポートで復習(60分)を行う。			
第14回	感覚器系の観察(2)：聴覚器、皮膚の観察。耳介、外耳道、鼓膜：皮膚の構造の違い、軟骨組織・耳毛・外耳道腺・鼓室粘膜の構造、内耳：蝸牛・コルチ器の構造を観察し、設問に答える。皮膚：陰囊・腋窩・頭皮・指を用いて、皮膚の構造の違い、角質層(毛・爪)の構造、汗腺(小汗腺と大汗腺)の構造を観察し、設問に答える。 事前に配布した実験のプリント(解説および設問)と図譜(PowerPointファイル)を用いて予習(60分)を行い、返却されたレポートで復習(60分)を行う。			
第15回	組織標本の検索：重要な臓器の未分類の組織標本を観察し、組織の種類と働きについて検索する。 事前に配布した実験のプリント(解説および設問)と図譜(PowerPointファイル)を用いて予習(60分)を行い、返却されたレポートで復習(60分)を行う。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	標本の状況により、観察組織の変更や観察順序の変更がある。授業開始時に正確な予定表をWebClassにて配布する。実験開始前にすべての実験のプリント(解説および設問：PDFファイル)と図譜(PowerPointファイルまたはPDFファイル)をWebClassより配布するので、この資料により事前学習と復習を行う。実験の始めに組織標本の説明、観察すべき場所などについて説明を行う。自宅学習した内容について、実験で実際に標本を観察し、組織構造等の確認を行う。観察は班ごとに行い、グループディスカッションをしながら設問を解いてゆき、実験終了時まで各自レポートまとめ提出する。後日、修正・解説したレポートを返却する。			
アクティブラーニング	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)／実習、フィールドワーク／グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	WebClassで事前に実験のプリント(テキストと図譜)を配布する。事前に基礎知識を整理し、当日は、速やかに実験ができるようにしておくこと。実験項目ごとに課題を出すので、レポートにまとめて実験当日に提出する。課題については、事前学習として自宅で行ってもよい。A4レポート用紙(無地のA4用紙でも可)。ルーズリーフは不可)、色鉛筆、スマートデバイスなどを準備すること。			
成績(達成度) 評価方法・評価基準、割合	提出レポート(100%)により評価する。観察した構造物のスケッチの正確性、名称の記入や設問に対して適切十分な解答がレポートに書かれているかどうかを重点に評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	臨床検査技師・助手・講師として医学部解剖学講座で、23年間人体組織標本作製や医学部学生への肉眼解剖学、顕微解剖学等の講義実習を行ってきた。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『入門組織学』	牛木辰夫	南江堂	978-4-524-21617-8	2021
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『標準組織学 総論』	藤田恒夫、藤田尚男	医学書院	978-4-260-04349-6	2023
『標準組織学 各論』	藤田恒夫、藤田尚男	医学書院	978-4-260-04132-4	2022
『diFiore人体組織学図譜』	相模禎和	南江堂	978-4-524-26004-1	2011
からだが見える 人体の構造と機能	安藤雄一ら 監修	メディックメディア	978-4-89632-896-7	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120000701
講義名	解剖生理学実験Ⅱ
開講期	2026年度後期
単位数	1単位
授業形態	実験
担当教員	平林 義章、松本 貴哉
ナンバリングコード	19K3Z4101

科目概要	解剖生理学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識を、実験を通して再確認する。体指数・肥満度の測定、心機能測定、肺機能測定、体温測定、血液検査、感覚器検査など、人体の機能（生理学）検査を中心に、種々の生命現象について理解を深めることを主眼としている。なお、実験の順番は変更する場合がある。
達成目標	「人体の構造と機能」「病気の成り立ち」を学ぶ基礎として、実験で得られた結果に基づき、各臓器や器官系の機能を総合的に理解し、その生命現象を簡潔に説明できるようにする。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	生物学の知識。解剖生理学および生化学、ライフステージ栄養学等の正常な人体の構造と機能、発育に関する知識。病理学（病気の成り立ち）、病態栄養学等の疾患に関する基本的な知識。実験機器の取扱い方など。
学位授与方針との関連	1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につける。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	循環器系および体温調節の実験（実験講義）：1)心臓の位置、2)心音の聴取、3)心電図測定：双極肢誘導と増幅単極肢誘導、4)脈拍測定：安静時脈拍および、運動負荷脈拍と運動強度の測定、5)血圧測定：体位変換による上腕の足首の血圧差について、運動負荷による血圧の変化、6)体温測定：口腔温と腋高温の差異について、運動負荷による体温の変化についての実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第2回	循環器系および体温調節の実験（実験1）：1,2,3班は1),2),3),4)の実験を行う。4,5,6班は5),6)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第3回	循環器系および体温調節の実験（実験2）：1,2,3班は5),6)の実験を行う。4,5,6班は1),2),3),4)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第4回	耐糖試験および唾液アミラーゼ活性測定（実験講義）：1)75g グルコース糖付加試験、2)ヨウ素デンプン反応による唾液アミラーゼ活性測定の実験の実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第5回	耐糖試験および唾液アミラーゼ活性測定（実験1）：1,2,3班は1)の実験を行う。4,5,6班は2)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第6回	耐糖試験および唾液アミラーゼ活性測定（実験2）：1,2,3班は2)の実験を行う。4,5,6班は1)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第7回	肺機能測定、体指数と肥満度の測定および感覚器検査（実験講義）：1)スパイロメーターによる肺活量、努力肺活量、1秒率、最大換気量の測定、2)体指数（BMI）、ローレル指数、ベルベック指数など）の測定と肥満の判定、3)皮膚感覚（感覚点の密度と閾値）の測定、4)深部感覚（重量感覚）の測定、5)二点弁別皮膚感覚の測定、6)味覚の閾値の測定の実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第8回	肺機能、体指数と肥満度の測定および感覚器検査（実験1）：1,2,3班は1),2)の実験を行う。4,5,6班は3),4),5),6)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第9回	肺機能、体指数と肥満度の測定および感覚器測定（実験2）：1,2,3班は3),4),5),6)の実験を行う。4,5,6班は1),2)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第10回	ラットの解剖（実験講義）：1)実験動物の取扱いと関連法規について、2)ラットの解剖の進め方、3)ラットの臓器・器官とヒトの臓器・器官との比較（比較解剖学）についての実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。

第11回	ラットの解剖（実験）：1～6班：実験講義に従ってラットの解剖を行い、各臓器・器官の重量・長さ等を計測する。ラットの臓器・器官の実測値から比体重・比身長を算出し、ヒトの臓器・器官の比体重・比身長と比較を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第12回	血液検査（実験講義）ヒツジ血液、ヒツジ血漿、ヒト血液を用いた、1)赤血球数、2)白血球数、3)ヘマトクリット値、4)白血球百分率、5)赤血球抵抗（低張法と高張法）、6)血液凝固（カルシウム再加試験）、7)線維素溶解の実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第13回	血液検査（実験1）：1,2,3班は1),2),3),4)の実験を行う。4,5,6班は5),6),7)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第14回	血液検査（実験2）：1,2,3班は5),6),7)の実験を行う。4,5,6班は1),2),3),4)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第15回	データの解析：今まで行ってきた実験の解説と、仮想データを用いてそのデータが正常か異常かを判定し、病態について検索を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	実験開始前にすべての実験のプリント（解説および実験方法）と実験ノート（実験結果を書き込むプリント）をWebClassより配布するので、この資料により事前学習を行う。実験当日にその日の実験手技の手順と注意点を解説する。実験は班ごとに行い、グループディスカッションをしながら結果および考察をまとめ実験終了時に各自レポートを提出する。実験対象として学生自身を用いることがあるので、体調を整えておくこと。後日、修正・解説したレポートを返却する。なお、実験材料の納入等の関係により、実習予定が変更になることがある。			
アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート／実習、フィールドワーク／グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	実験内容を示したプリント、実験ノートは、WebClassを通じて事前に配布する。第1週目に実験講義を行う。第2週目、第3週目に実験を行うので、当日までに基礎知識を整理し、当日速やかに実験ができるようにしておくこと。実験項目ごとに課題を出すので、レポートにまとめて提出する。課題については、事前に自宅学習として自宅で行ってもよい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	提出レポート（100%）により評価する。実験結果をわかりやすいようにグラフ・表などにまとめてあるか、考察（どのようにしてその様な結果になったか）が簡潔かつ適切に書かれているかどうかを重点に評価する。冗長な回答については減点する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 臨床検査技師としての実務経験を有しており、解剖生理学実験IIで行う心電図、肺機能測定、血液検査などの実験を行う折、実験の指導、検査結果の考察と理解に役立てた教育を実践している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『系統看護学講座 解剖生理学』	坂井健雄、岡田隆夫、宇賀貴紀	医学書院	978-4-260-04687-9	2024
からだが見える 人体の構造と機能	安藤雄一ら 慣習	メディックメディア	978-4-89632-896-7	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120004101
講義名	臨床栄養管理実習 I
開講期	2026年度後期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	岡田 有司
ナンバリングコード	19K4Z4104

科目概要	臨床栄養管理実習 I では、医療機関における基本的な献立作成方法、患者の栄養状態の収集、栄養アセスメント技法について学び、演習を通して各種スキルを高める。実習 I では特に高齢者の低栄養リスクを改善するための栄養食事療法について理解を深める。 指定教科書に加えて「病態栄養学 I」の教科書、配布資料を毎回持参すること。 食品成分表、電卓等も必要に応じて持参すること。
達成目標	患者の栄養状態を正確に評価できるよう栄養アセスメント技術を身につける。 栄養アセスメントの結果に基づく適切な評価・判定を行うことができ、総合的な栄養ケア計画が実践できる。 ディプロマポリシーの一つである病気の治療を目的とした「臨床栄養分野」の専門的知識を演習・実習を中心に身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	傷病者の栄養状態を正確に評価するためには健全な人体構造と機能を知っておくことが重要となる。そのため解剖生理学、生化学、基礎栄養学、ライフステージ栄養学の知識は必須である。また傷病者の栄養管理を学ぶために病気の成り立ちの知識も必須である。 傷病者の栄養補給の多くは経口栄養（食事）である。一般治療食に分類される常食、軟食に合わせた献立作成および調理を行うために、調理学・実習や食品学なども随時復習を行っておくこと。また、軟食を嚥下調整食等に應用・変化させるため、食品の加熱調理による物性の変化など学んでおくこと。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オリエンテーション 臨床栄養の基礎 医療機関における食事療法（経口栄養）について 基本的献立作成方法について 実習・演習：常食献立作成 教科書「臨床栄養学実習」 P15-18、関連科目の予習60分 第1回実習の復習60分
第2回	医療機関における食事療法（経口栄養）について 献立展開について 実習・演習：献立展開（常食→軟食） 教科書「臨床栄養学実習」 P17-22、関連科目の予習60分 第2回実習の復習60分
第3回	栄養アセスメント：バイタルサイン・栄養スクリーニング 実習・演習：症例検討 教科書「臨床栄養学実習」 P1-3、教科書「栄養管理プロセス」 P16-23、関連科目の予習60分 第3回の復習60分
第4回	栄養アセスメント：臨床診査（医療面接）、身体計測 実習：医療面接、身体所見、身体計測 教科書「臨床栄養学実習」 P3-5、教科書「栄養管理プロセス」 P40-45、関連科目の予習60分 第4回の復習60分
第5回	栄養アセスメント：ODA（Objective Data Assessment） 実習・演習：症例検討 関連科目の予習60分 第5回の復習60分
第6回	血液検査データの見方 実習・演習：症例検討 関連科目の予習60分 第6回の復習60分
第7回	栄養アセスメント：食事摂取量調査 実習：食事摂取量調査 関連科目の予習60分 第7回の復習60分
第8回	栄養介入：必要栄養量の算定 実習・演習：症例検討 教科書「栄養管理プロセス」 P27-40、関連科目の予習60分 第8回の復習60分
第9回	栄養管理と記録：POS（Problem Oriented System）に基づくSOAP形式の記録 実習・演習：症例検討 教科書「臨床栄養学実習」 P11-12、教科書「栄養管理プロセス」 P178-183、関連科目の予習60分 第9回の復習60分

第10回	<p>軟食について・軟食調理実習：軟食の説明および調理実習          実習：軟食調理実習          教科書「臨床栄養学実習書」P17-22の予習、第2回実習の復習60分          第10回の復習60分</p>			
第11回	<p>軟食適応疾患：軟食適応疾患および症例検討          実習・演習：症例検討          関連科目の予習60分          第11回の復習60分</p>			
第12回	<p>嚥下調整食について・嚥下調整食調理実習：嚥下調整食の説明および調理実習          実習：嚥下調整食調理実習・既製品試食          関連科目の予習60分          第12回の復習60分</p>			
第13回	<p>嚥下調整食適応疾患：嚥下障害の説明および症例検討          実習・演習：症例検討・食事介助体験          教科書「臨床栄養学実習」P125-133、関連科目の予習60分          第12回の復習60分</p>			
第14回	<p>褥瘡栄養ケア：褥瘡について、高エネルギー・高たんぱく質食調理実習          実習：高エネルギー・高たんぱく質食調理実習 既製品試食          関連科目の予習60分          第14回の復習60分</p>			
第15回	<p>褥瘡栄養ケア：褥瘡症例検討          実習・演習：症例検討          教科書「臨床栄養学実習」P119-125、関連科目の予習60分          第15回の復習60分</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>教科書等による講義・説明を行い、演習・実習を通して知識や手順・方法を学ぶ。模擬症例検討を通して栄養管理プロセスの一連の流れを身に着ける。そして、栄養管理計画書を作成する。調査などは、実習時間外の時間についても記載が必要となる。また、課題については期限があるため、実習時間で完了しない場合は実習時間外に作成する必要がある。調理実習時には怪我をしないよう注意し、服装や爪なども調理従事者として適切なものとし、作業管理・衛生管理に気を付けること。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。</p>			
アクティブラーニング	<p>実習、フィールドワーク/グループワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>各自、シラバスを確認し、事前に予習を行うこと。病態栄養学 I ともリンクするため、測定方法などは座学でもイメージできるように十分に復習を行う。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>実習時の記録や課題70%、実習への取り組み30%の総合評価。本講義の学修の達成目標に照らし、到達しているか否かで評価する。また、課題未提出は大幅な減点対象となるので注意すること。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>医療機関において管理栄養士としてNST directorなど20年の実務経験を有する教員が当該科目を担当する。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床栄養学実習 傷病者の Nutrition Care Process演習	塚原丘美 他	医歯薬出版株式会社	978-4-263-72034-9	
改訂新版 栄養管理プロセス	木戸康博 他	第一出版株式会社	9784804114453	
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編	本田佳子 他	株式会社 羊土社	978-4-7581-1369-4	病態栄養学 I の教科書
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120004201
講義名	臨床栄養管理実習Ⅱ
開講期	2026年度前期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	岡田 有司
ナンバリングコード	19K4Z5106

科目概要	臨床栄養管理実習Ⅱにおいては、各種疾患の病態の理解、患者個々の病態の把握に基づいた適切な栄養ケアプラン作成のための方法を学ぶ。適正栄養量の決定、栄養成分や調味料などの制約の中で、適切な食材・調理法の選択と、より美味しく個人に対応した食事を提供のための実践能力を養う。 実践的な経腸栄養管理、静脈栄養管理の方法、クリティカルケアにおける栄養管理についても学ぶ。 指定教科書に加えて「病態栄養学Ⅰ」「病態栄養学Ⅱ」の教科書、配布資料等を毎回持参すること。 食品成分表、電卓等も必要に応じて持参すること。
達成目標	各種疾患別の治療食献立作成、食品の選択、展開食の対応、調理上の工夫と実践などの知識を習得し、実践する力を身に付ける。 ディプロマポリシーの一つである病気の治療を目的とした「臨床栄養分野」の専門的知識を演習・実習を中心に身につける。 また経腸栄養管理、静脈栄養管理が必要な傷病者の栄養ケアプランの作成方法を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	臨床栄養管理実習Ⅰに引き続き、解剖生理学、生化学、基礎栄養学、ライフステージ栄養学、病気の成り立ち、調理学・実習や食品学など復習を行っておくこと。また臨床栄養管理実習Ⅰで学修した栄養アセスメント（栄養評価）等の復習を行っておくこと。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オリエンテーション エネルギーコントロール食適応疾患①：エネルギーコントロール食適応疾患および症例検討 「糖尿病食事療法のための食品交換表」の理解と応用 実習・演習：症例検討（肥満症）、「糖尿病食事療法のための食品交換表」の使い方演習 教科書「臨床栄養学実習」P41-47、「糖尿病食事療法のための食品交換表」の予習60分 第1回の復習60分
第2回	エネルギーコントロール食について・エネルギーコントロール食調理実習：エネルギーコントロール食の説明および調理実習 実習：エネルギーコントロール食調理実習 関連科目の予習60分 第2回の復習60分
第3回	エネルギーコントロール食適応疾患②：エネルギーコントロール食適応疾患および症例検討 実習・演習：症例検討（糖尿病） 教科書「臨床栄養学実習」P48-54、「糖尿病食事療法のための食品交換表」の予習60分 第3回の復習60分
第4回	「腎臓病食品交換表」について 「腎臓病食品交換表」の理解と応用 実習・演習：「腎臓病食品交換表」の使い方演習 「腎臓病食品交換表」の予習60分 第4回の復習60分
第5回	たんぱく質コントロール食（ナトリウムコントロール食（食塩制限食）含む）について・たんぱく質コントロール食調理実習：たんぱく質コントロール食（ナトリウムコントロール食（食塩制限食）含む）の説明および調理実習 実習：たんぱく質コントロール食（ナトリウムコントロール食（食塩制限食）含む）調理実習 関連科目の予習60分 第5回の復習60分
第6回	たんぱく質コントロール食適応疾患：たんぱく質コントロール食適応疾患および症例検討 実習・演習：症例検討（CKD） 教科書「臨床栄養学実習」P100-112の予習60分 第6回の復習60分
第7回	透析療法時の食事について・透析療法時の食事の調理実習：透析療法時の食事の説明および調理実習 実習：調理実習（透析療法時の食事） 関連科目の予習60分 第7回の復習60分
第8回	透析療法適応疾患：透析療法適応疾患および症例検討 実習・演習：症例検討（透析療法患者） 教科書「臨床栄養学実習」P112-118の予習60分 第8回の復習60分
第9回	脂質コントロール食について・脂質コントロール食調理実習：脂質コントロール食の説明および調理実習 実習：調理実習（脂質コントロール食） 関連科目の予習60分 第9回の復習60分

第10回	脂質コントロール食適応疾患：脂質コントロール食適応疾患および症例検討 実習・演習：症例検討（脂質コントロール食適応疾患） 教科書「臨床栄養学実習」P54-60、P94-99の予習60分 第10回の復習60分
第11回	低残渣食適応疾患：低残渣食適応疾患および症例検討 実習・演習：症例検討（IBD、CD） 教科書「臨床栄養学実習」P72-80の予習60分 第11回の復習60分
第12回	BCAA製剤併用疾患：BCAA製剤併用疾患（肝硬変非代償期）および症例検討 実習・演習：症例検討 教科書「臨床栄養学実習書」P86-93の予習60分 第12回の復習60分
第13回	食物アレルギーについて・アレルギー食調理実習：アレルギー食の説明および調理実習 実習：調理実習（アレルギー食） 教科書「臨床栄養学実習書」P212-215の予習60分 第13回の復習60分
第14回	経腸栄養管理、静脈栄養管理について 実習：症例検討（経腸栄養管理・静脈栄養管理） 関連科目の予習60分 第14回の復習60分
第15回	クリティカルケアについて 実習：症例検討（急性期疾患） 関連科目の予習60分 第15回の復習60分
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	教科書等による講義・説明を行い、演習・実習を通して知識や手順・方法を学ぶ。模擬症例検討を通して栄養管理プロセスの一連の流れを身に着ける。そして、栄養管理計画書を作成する。 調査などは、実習時間外の時間についても記載が必要となる。また、課題については期限があるため、実習時間で完了しない場合は実習時間外に作成する必要がある。 調理実習時には怪我をしないよう注意し、服装や爪なども調理従事者として適切なものとし、作業管理・衛生管理に気を付けること。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク/グループワーク
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	各自、シラバスを確認し、十分事前に予習を行うこと。
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	実習時の記録や課題70%、実習への取り組み30%の総合評価。本講義の学修の達成目標に照らし、到達しているか否かで評価する。 また、課題未提出は大幅な減点対象となるので注意すること。
教員の実務経験と授業科目との関連	医療機関において管理栄養士としてNST directorなど20年の実務経験を有する教員が当該科目を担当する。
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床栄養学実習 傷病者のNutritionCare Process演習	塚原丘美 他	医歯薬出版株式会社	978-4-263-72034-9	臨床栄養管理実習Ⅰの教科書
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病協会	文光堂	978-4-8306-6046-7	
腎臓病食品交換表	黒川清	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70674-9	

参考図書など

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂新版 栄養管理プロセス	木戸康博 他	第一出版株式会社	9784804114453	臨床栄養管理実習Ⅰの教科書
栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編	本田佳子 他	株式会社 羊土社	978-4-7581-1369-4	病態栄養学Ⅰの教科書
栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患編	本田佳子 他	株式会社 羊土社	978-4-7581-1370-0	病態栄養学Ⅱ・臨床栄養管理論Ⅰの教科書

参考URL

NO	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			
4.			
5.			

講義コード	1200003301
講義名	栄養教育論Ⅲ
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	加藤 清子
ナンバリングコード	19K4Z6101

科目概要	管理栄養士が活躍する事業所、学校及び学校給食センター、病院などの職域面から捉えた栄養教育の効果的な方法を具体的に学ぶ。一次予防から三次予防において、それぞれの対象者が自分の生体能力を十分発揮して食品側の情報や生体側の情報を駆使し、行動科学に基づいた理論やモデルを応用して栄養マネジメント能力を養う。
達成目標	各職域での管理栄養士業務が理解できること。 次いで、学生自らモデリングをもとに基礎知識と専門技法に基づいてオーダーメイドの栄養指導の実践ができる。特に臨床での栄養教育を中心とする。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	病態栄養学を基本とし、臨床栄養管理論で学んだ症状に合わせた適切な指導ができることを目標とする。栄養教育論をベースに心に届く教育を目指す。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	栄養教育論Ⅲの講義ガイダンス 職域の施設別における栄養指導の意義 栄養教育の場（特に病院）について考えてみる。 【事前学修】シラバス等を確認し予習をおこなう（60分） 【事後学修】医療での管理栄養士の活躍、栄養補給法について考える（60分）
第2回	病院での栄養指導の概要（慢性腎臓病 ①） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】慢性腎臓病の食事療法を復習しておく（60分）
第3回	病院での栄養指導の概要（慢性腎臓病 ②） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】慢性腎臓病の食事療法を復習しておく（60分）
第4回	病院での栄養指導の概要（糖尿病性腎症 ①） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】糖尿病性腎症の食事療法を復習しておく（60分）
第5回	病院での栄養指導の概要（糖尿病性腎症 ②） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】糖尿病性腎症の食事療法を復習しておく（60分）
第6回	病院での栄養指導の概要（透析療法期の食事） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】血液透析、腹膜透析の食事療法を復習しておく（60分）
第7回	病院での栄養指導の概要（肝臓病 ①） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】慢性肝臓病のステージに合った食事療法と糖尿病の食事療法を復習しておく（60分）
第8回	病院での栄養指導の概要（肝臓病 ②） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】慢性肝臓病のステージに合った食事療法と糖尿病の食事療法を復習しておく（60分）
第9回	病院での栄養指導の概要（膵炎 ①） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】膵炎の食事療法、特に脂質の制限方法を復習して
第10回	病院での栄養指導の概要（膵炎 ②） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】膵炎の食事療法、特に脂質の制限方法を復習して

第11回	病院での栄養指導の概要（摂食嚥下障害 ①） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】摂食嚥下障害の食事療法を復習しておく（60分）			
第12回	病院での栄養指導の概要（摂食嚥下障害 ②） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】摂食嚥下障害の食事療法を復習しておく（60分）			
第13回	病院での栄養指導の概要（栄養プランのまとめ ①） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】疾患ごとの食事療法を復習しておく（60分）			
第14回	病院での栄養指導の概要（栄養プランのまとめ ②） 疾患や病態を理解し、食事療法・指導を考える。症例に応じた指導プランが出来るようにする。 【事前学修】シラバスを確認しテキスト等で予習をおこなう（60分） 【事後学修】疾患ごとの食事療法を復習しておく（60分）			
第15回	第1回から第14回の重要事項・キーワードの整理と確認をおこなう 【事前学修】14回までを振り返りテキスト等で予習しておく（60分） 【事後学修】半期を振り返り、質問を考える（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	一連の栄養教育科目の集大成であることから、実践を常にイメージして取り組んでほしい。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	前期に学んだ臨床栄養管理論を基本に指導・教育内容の確認が必要である。特に指導後の反省が重要である。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	定期試験の成績（90%）に、授業態度、レポートの提出状況（10%）により評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	この授業を担当する教員は、医学部付属病院において健康・栄養教育を実践してきた経歴を持つ教員である。実務経験に基づき、到達目標に記載した知識・技術を習得し、対象者に向き合う心構え・態度を身に付けられるようにこの授業は実施する。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『わかりやすい疾患別栄養ケア・アセスメント』	江上いすず・岡本夏子	学建書院	978-4-7624-1885-3	2023
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
イラスト症例からみた臨床栄養学第3版	福井富穂・加藤昌彦・田村明他	東京教学社	978-4-8082-6064-4	2020
栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり・足達淑子・木村典代・林芙美	南江堂	978-4-524-22677-1	2021
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200003601
講義名	カウンセリング実習
開講期	2026年度後期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	加藤 清子
ナンバリングコード	19K4Z6204

科目概要	栄養教育においては、対象者中心の支援が求められている。そのためには栄養カウンセリングの理論や技法を学び、カウンセリングマインドを身につけた対応が必須となる。自分のコミュニケーションのあり方を見直し、有効な栄養カウンセリングの方法を体験的・具体的に学習する。 栄養カウンセリング論で基礎的内容を学習し、その知識を栄養カウンセリング実習で実践する。
達成目標	専門的知識を身につけ、修得した知識と技能を活用することを目標とする。 ①知識（理解）カウンセリングを行ううえでの姿勢や基本的技法があることを知る。 ②態度（関心・意欲）ロールプレイングに積極的に取り組むことができる。 ③技能（表現）栄養士として対人援助を行うための技術を身につけることができる。 ④思考・判断 有効な栄養カウンセリングの方法を判断することができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	各回の授業内容について、テキストの該当箇所を予め読んでおく。授業終了後は、テキストおよび配布資料を参考に、学修目標に沿って復習する。各ライフステージや疾患別に個別的特徴的内容を意識し予習復習をすること。各授業の予習を90分間程度行うこと。復習は、予め提示された学修目標の各項目に沿って90分間程度行うこと。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	栄養カウンセリングとは何か 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】個別栄養指導の概要を見ておく（90分）。 【復習】聴く時の好ましい態度を実践する（90分）。
第2回	カウンセリングと自己理解 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】自己理解の項目を見ておく（90分）。 【復習】単純受容を実践する（90分）。
第3回	栄養カウンセリングの基本的技術①：初回面接の実際 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】24時間思い出し法を見ておく（90分）。 【復習】実施した食事調査の栄養価計算をする（90分）。
第4回	栄養カウンセリングの基本的技術②：傾聴と確認 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】栄養カウンセリングの基本的技術項目を見ておく（90分）。 【復習】傾聴法、確認法を実践する（90分）。
第5回	栄養カウンセリングの基本的技術③：開かれた質問と閉ざされた質問 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】栄養カウンセリングの基本的技術項目を見ておく（90分）。 【復習】開かれた質問と閉ざされた質問を実践する（90分）。
第6回	栄養カウンセリングの訓練①：ロールプレイング 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】栄養カウンセリングの訓練項目を見ておく（90分）。 【復習】実施した身体活動調査より消費エネルギーを計算する（90分）。
第7回	栄養カウンセリングの訓練②：グループ学習講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】栄養カウンセリングの訓練項目を見ておく（90分）。 【復習】栄養カウンセリングの訓練を理解する（90分）。
第8回	栄養カウンセリングに必要な心理学の基礎知識 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】心理学の基礎知識項目を見ておく（90分）。 【復習】気持ちを受けとめるを実践する（90分）。
第9回	変化ステージモデル 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】変化ステージモデル項目を見ておく（90分）。 【復習】変化ステージモデルを理解する（90分）。
第10回	行動変容プログラム 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】行動変容プログラム項目を見ておく（90分）。 【復習】行動変容プログラムを理解する（90分）。

第11回	エンパワーメント・アプローチ 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】教科書のエンパワーメント・アプローチ項目を見ておく（90分）。 【復習】エンパワーメント・アプローチを理解する（90分）。			
第12回	グループカウンセリング 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】教科書のグループカウンセリング項目を見ておく（90分）。 【復習】グループカウンセリングを理解する（90分）。			
第13回	家族への栄養カウンセリング・食の問題に対する心理カウンセリング 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【予習】教科書の家族への栄養カウンセリング項目を見ておく（90分）。 【復習】動機づけ支援のロールプレイングの準備をする（90分）。			
第14回	ライフステージ別栄養カウンセリング 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【課題・予習】ライフステージ別栄養カウンセリングの準備をする（90分）。 【復習】振り返り、質問を考える（90分）			
第15回	臨床の場における栄養カウンセリング 講義および実習一斉講義形式およびグループワーク 【課題・予習】臨床の場における栄養カウンセリングの準備をする（90分）。 【復習】振り返り、質問を考える（90分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	レポートについては、提出後の講評により全体へのフィードバックを行い、各自には評価したレポートの返却をもってフィードバックとする。 学修態度については、リアクションペーパー等に対する説明等によりフィードバックする。			
アクティブラーニング	グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	栄養教育の理論や手法を基に、基本事項を復習しながら、ライフステージ別や疾患別に対象者の心身の特徴を十分に把握し、栄養教育が実践できる応用力を培いましょう。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	課題・レポート（評価を行い学生にフィードバックする）（60%）、受講態度、発表など（40%）			
教員の実務経験と授業科目との関連	この授業を担当する教員は、医学部付属病院において健康・栄養教育を実践してきた経歴を持つ教員である。実務経験に基づき、到達目標に記載した知識・技術を習得し、対象者に向き合う心構え・態度を身に付けられるようにこの授業は実施する。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践栄養カウンセリング	久保克彦	メディカ出版	978-4840449-045	
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養カウンセリング論	小松啓子、大谷貴美子	講談社	978-4-06-539718-3	
改訂実践に役立つ栄養指導事例集	井川聡子、斎藤トシ子、廣田直子	理工図書	978-4-8446-0925-4	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120003901
講義名	臨床栄養管理論 I
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	加藤 清子
ナンバリングコード	19K4Z5105

科目概要	専門基礎で学んだ「病気の成り立ち」を踏まえ、各疾患の病態生理や食事療法について学習する。
達成目標	病気の原因と病態、症状、臨床検査と診断治療（食事・栄養療法・運動療法・薬物療法）を理解し、栄養療法における栄養基準、治療方針が理解できるようになる。 ディプロマポリシーの一つである生活習慣病などの予防・治療や慢性疾患の治療を目的とした「臨床栄養分野」の専門的知識を講義を中心に身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	傷病者に対して栄養管理を行うには、該当する器官の働きや代謝などを理解する必要がある。また、食品に含まれる栄養素の働きや消化吸収機構、代謝についても理解しておく必要がある。講義中にも適宜説明を行うが、食品学、生理学、病気の成り立ち、栄養学などの関連科目で学修したことについて復習をしておくこと。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	1章 代謝疾患・栄養障害： 糖尿病 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p14-20 1章 代謝疾患・栄養障害： 糖尿病 の予習60分、第1回の復習60分
第2回	1章 代謝疾患・栄養障害： 脂質異常症 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p20-24 1章 代謝疾患・栄養障害： 脂質異常症 の予習60分、第2回の復習60分
第3回	1章 代謝疾患・栄養障害： 肥満症、メタボリックシンドローム の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p24-28 1章 代謝疾患・栄養障害： 肥満症、メタボリックシンドローム の予習60分、第3回の復習60分
第4回	1章 代謝疾患・栄養障害： 高尿酸血症、低栄養 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p28-31 1章 代謝疾患・栄養障害： 高尿酸血症、低栄養 の予習60分、第4回の復習60分
第5回	8章 呼吸器系疾患： 上気道疾患、気管・気管支疾患、肺疾患 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p139-143 8章 呼吸器系疾患： 上気道疾患、気管・気管支疾患、肺疾患の予習60分、第5回の復習60分
第6回	8章 呼吸器系疾患： 慢性閉塞性肺疾患（COPD） の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p144-146 8章 呼吸器系疾患： の予習60分、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、第6回の復習60分
第7回	2章 消化器疾患： 下部消化器疾患 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p47-54 2章 消化器疾患： 下部消化器疾患の予習60分、第7回の復習60分
第8回	4章 循環器系疾患： 高血圧、動脈硬化 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p70-76 4章 循環器系疾患： 高血圧、動脈硬化 の予習60分、第8回の復習60分
第9回	4章 循環器系疾患： 虚血性心疾患、心不全 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p76-78 4章 循環器系疾患： 虚血性心疾患、心不全の予習60分、第9回の復習60分

第10回	4章 循環器系疾患 : 不整脈、脳血管疾患 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p78-82 4章 循環器系疾患 : 不整脈、脳血管疾患 の予習60分、第10回の復習60分			
第11回	6章 内分泌系疾患 : 下垂体異常 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p106-109 6章 内分泌系疾患 : 下垂体異常の予習60分、第11回の復習60分			
第12回	6章 内分泌系疾患 : 甲状腺異常、副甲状腺異常 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p111-113 6章 内分泌系疾患 : 甲状腺異常、副甲状腺異常の予習60分、第12回の復習60分			
第13回	6章 内分泌系疾患 : 副腎異常 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p113-118 6章 内分泌系疾患 : 副腎異常の予習60分、第13回の復習60分			
第14回	第1回から第6回までの栄養管理の要点、キーワードの整理・確認をおこなう 授業の資料を持参すること。補足説明と全体を通しての質問にも対応する。 要点、キーワードの整理・確認をおこなう予習60分、半期の学びの復習をし、質問事項をまとめる事後学修90分。			
第15回	第7回から第13回までの栄養管理の要点、キーワードの整理・確認をおこなう 授業の資料を持参すること。補足説明と全体を通しての質問にも対応する。 要点、キーワードの整理・確認をおこなう予習60分、半期の学びの復習をし、質問事項をまとめる事後学修90分。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	指定の教科書に沿って講義を行っていく。講義中のスライド内容については各自情報を選択しながらノートなどにまとめ、その後の講義等に活用できるようにしておくこと。臨床栄養管理実習IIなどの講義・実習につながるため、十分講義内容を復習し理解しておくこと。 毎回の授業において、リアクションペーパーの提出を求める。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	検査データの基準値を覚えることにより、栄養アセスメントをスムーズに行うことができる。疾患と関連した検査項目、医学用語の略語を記憶すると良い。栄養食事基準の基礎知識をマスターしておくことと良い。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	定期試験（90％）の成績と、授業態度、提出物（10％）により評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	この授業を担当する教員は、医学部付属病院において健康・栄養教育を実践してきた経歴を持つ教員である。実務経験に基づき、到達目標に記載した知識・技術を習得し、対象者に向き合う心構え・態度を身に付けられるようにこの授業は実施する。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド『臨床栄養学』疾患別編 第3版	本田佳子、曾根博仁	羊土社	978-4-7581-1370-0	2024
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120004001
講義名	臨床栄養管理論Ⅱ
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	加藤 清子
ナンバリングコード	19K4Z6103

科目概要	病態栄養学を基礎にベッドサイドにおける管理栄養士は何をすべきか。栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養処方と効果判定、手技、栄養管理方法の修正など臨床栄養管理の基礎について学ぶ。代表的な疾患において臨床症例を提示して具体的な栄養管理について学ぶ。
達成目標	病態・栄養状態について各種データの意味を理解し、栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランを作成する技術および能力を身につける。 病態別アセスメント・栄養ケアプラン作成・栄養ケアの実施・モニタリング・再プランという一連の栄養ケア・マネジメントを理解できるようになる。 ディプロマポリシーの「臨床栄養分野」を講義、演習によって身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	臨床で適切な栄養ケア・マネジメントを行うために、各教科の集大成である。よって疾患の成因を知り、傷病者への細心の注意と対応が必要である。病態栄養学を中心に予習・復習が必須である。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	1章 代謝疾患・栄養障害： ビタミン異常症、ミネラル異常症、アシドーシス、アルカローシスの病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p31-39 1章 代謝疾患・栄養障害： ビタミン異常症、ミネラル異常症、アシドーシス、アルカローシスの予習60分、第1回の復習60分
第2回	2章 消化器疾患： 口腔・歯科疾患、上部消化器疾患の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p40-47 2章 消化器疾患： 口腔・歯科疾患、上部消化器疾患の予習60分、第2回の復習60分
第3回	9章 血液・造血器系疾患： 出血性疾患とは、貧血の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p147-153 9章 血液・造血器系疾患： 出血性疾患とは、貧血、第3回の復習60分
第4回	9章 血液・造血器系疾患： 造血系腫瘍の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p154-159 9章 血液・造血器系疾患： 造血系腫瘍、第4回の復習60分
第5回	10章 運動器（骨格系）の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p154-163 10章 骨粗鬆症、第5回の復習60分
第6回	10章 運動器（骨格系）の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p163-177 10章 骨軟化症、くる病、変形性関節症、サルコペニア、ロコモティブシンドローム 第6回の復習60分
第7回	18章 小児疾患の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p261-265 10章 たんぱく質・エネルギー栄養障害、栄養失調症、乳幼児下痢症 第7回の復習60分
第8回	18章 小児疾患の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p265-269 10章 周期性嘔吐症、アレルギー疾患 第8回の復習60分
第9回	18章 小児疾患の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p269-269 10章 小児肥満 第9回の復習60分

第10回	18章 小児疾患 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p269-269 10章 先天性代謝異常症 第10回の復習60分			
第11回	19章 妊産婦疾患 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p280-284 19章 肥満とやせ、貧血 第11の復習60分			
第12回	19章 妊産婦疾患 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p284-286 19章 妊娠高血圧症候群 第12の復習60分			
第13回	19章 妊産婦疾患 の病態生理とその栄養食事療法について学ぶ 教科書「臨床栄養学 疾患別編 第3版」p287-293 19章 妊娠糖尿病 第13の復習60分			
第14回	第1回から第6回までの栄養管理の要点、キーワードの整理・確認をおこなう 授業の資料を持参すること。補足説明と全体を通しての質問にも対応する。 要点、キーワードの整理・確認をおこなう予習60分、半期の学びの復習をし、質問事項をまとめる事後学修90分。			
第15回	第7回から第13回までの栄養管理の要点、キーワードの整理・確認をおこなう 授業の資料を持参すること。補足説明と全体を通しての質問にも対応する。 要点、キーワードの整理・確認をおこなう予習60分、半期の学びの復習			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	できる限り症例や写真などを取り入れ、臨床現場に対応できる知識を学んでいく。授業開始時にスライドのプリントを配布し、病態栄養学の復習をしながら、病態に適した栄養管理の重要性を身につけていく。検査データや医学用語に慣れるよう、自学自習をすすめる。特に復習に努めて欲しい。 成績フィードバック期間において、成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	検査データの基準値を覚えることにより、栄養アセスメントをスムーズに行うことが出来る。疾患と関連した検査項目を記憶すると良い。栄養食事基準の基礎知識をマスターしておくが良い。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	定期試験（90%）の成績と、授業態度、症例検討への取り組み、提出物（10%）により評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	この授業を担当する教員は、医学部付属病院において健康・栄養教育を実践してきた経歴を持つ教員である。実務経験に基づき、到達目標に記載した知識・技術を習得し、対象者に向き合う心構え・態度を身に付けられるようにこの授業は実施する。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 『臨床栄養学 疾患別編』第3版	本田佳子、曾根博仁	羊土社	978-4-7581-1370-0	2024
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200004601
講義名	給食経営管理学
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	石川 豊美
ナンバリングコード	19K4Z4106

科目概要	給食運営や関連サービスを総合的に判断し、栄養面・安全衛生面・経済面など全般のマネジメントを行う能力を養うことを目的とする。フードシステム、マーケティング、フードサービスの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習し、給食の経営管理を修得する。
達成目標	給食の経営管理に必要なマネジメントの技術を修得し、各施設に応じた給食実務、経営管理、給食計画を応用展開できる能力を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	経営管理に必要な給食経営資源を的確に把握するためにも、他の教科と深い関連があるので、基礎知識を身につけておいてほしい。また、給食経営管理実習および臨地実習において、理解力と実践力が評価されるので予習・復習を含めた積極的な受講を期待する。応用栄養学・栄養教育・衛生学・社会科学等の関連分野を統合化し、広範囲な視野を養うよう努力してほしい。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	マネジメントの基本 経営管理の意義目的、組織、経営資源、経営戦略 給食の定義・健康増進法を再確認し、外食産業市場における給食の規模、特定給食施設数の推移や構成割合、管理栄養士・栄養士の配置数などについて現状を把握する。 キーワード：給食・特定給食施設・管理栄養士・栄養士配置、 キーワードの予習に60分、管理栄養士・栄養士の配置規定の復習に60分。
第2回	原価管理（1） 原価管理の意義・目的、原価の構成 計画的に原価管理を進めていくために必要な原価管理の意義・目的、原価の構成について理解する。 キーワード：原価、原価の三要素、直接費、間接費 キーワードの予習に60分、原価の要素の復習に60分。
第3回	原価管理（2） 財務諸表、評価 代表的な財務諸表と原価の分析評価法を解説する。 キーワード：貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、損益分岐点分析 キーワードの予習に60分、損益分岐点分析の復習に60分。
第4回	人事・労務管理 人事・労務管理の意義・目的、範囲、労働基準法と労働災害について解説する。さらに人材育成、人事考課について特徴を整理する。 キーワード：労働三法、労働災害、OJT、Off-JT、人事考課 キーワードの予習に60分、授業後労働事例について原因と対策を考えるのに60分。
第5回	危機管理 危機管理の意義・目的、災害・事故の種類と影響、危機管理対策について解説する。地震・水害等の災害発生時にも給食を継続するためには日頃からの準備が必要である。災害時に臨機応変に対応できるようになるにはどのようなスキルを身につけておく必要があるのかについても検討する。 キーワード：危機管理、インシデント、アクシデント、ハインリッヒの法則、 キーワードの予習に60分、授業後、備蓄食材を使用した非常食献立等の立案に60分。
第6回	給食におけるマーケティング マーケティングの定義、機能、戦略 喫食者を中心にして満足度の高い食事を提供するためにどうすればよいのかについて考える。 キーワード：ニーズとウォンツ、市場調査、マーケティングミックス キーワードの予習に60分、メニュー、食材のそれぞれの観点からまとめるのに60分。
第7回	給食における顧客サービス 顧客管理の意義・目的、顧客満足度の把握と評価 顧客との良好な関係を維持するため必要な顧客管理の意義・目的や顧客満足度について解説する。 キーワード：顧客満足度、従業員満足度、潜在クレーム、顕在クレーム キーワードの予習に60分、プリントのまとめに60分。
第8回	生産管理 給食における生産システムと生産計画・工程管理 各種生産システムの特徴を理解し、常に一定の品質の食事を提供するためには献立や調理作業をどのように標準化すればよいのかについて考える。 キーワード：コンベンショナルシステム、レディフードシステム、セントラルキッチンシステム、アッセンブリーサブシステム キーワードの予習に60分、各生産システムの特徴のまとめに60分。
第9回	給食における品質管理 品質の概念、品質基準、標準化、品質管理活動の評価 給食における品質の概念、品質基準、標準化、品質管理活動の流れについて理解する。 キーワード：設計品質、適合品質、総合品質 キーワードの予習に60分、品質の定義のまとめに60分。
第10回	食事サービス管理 食事サービス、適温管理、利用者サービス 食事環境も含め、利用者の満足度を高めるためのサービスについて考える。 キーワード：適温管理、食数管理、食事環境整備 キーワードの予習に60分、授業後、各供食システムの要点のまとめに60分。

第11回	給食運営の委託 委託の目的、形態および方法、外部委託の状況について委託と受託の違いを理解する。施設ごとに根拠法が異なり、委託できる業務と委託できない業務がある。 キーワード：管理費契約、食単価契約 キーワードの予習に60分、授業後に施設ごとに根拠法を確認し、委託できる業務の整理に60分。			
第12回	各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（1） 病院、院外調理、配食サービス 医療法、健康保険法の入院時食事療養制度等の根拠法の本文を確認し、制度について理解する。 キーワード：医療法、健康保険法および入院時食事療養制度 キーワードの予習に60分、栄養管理の基準、診療報酬、入院時食事療養費等のまとめに60分			
第13回	各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（2） 学校 学校給食法・学校給食摂取基準について解説する。 キーワード：学校給食法、学校給食摂取基準 キーワードの予習に60分、学校給食法・学校給食摂取基準、学校給食衛生管理の基準の復習に60分。			
第14回	各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（3） 福祉施設（児童・高齢者・障害者） 施設別の根拠法を確認し、それぞれの施設の運営上の特徴について解説する。 キーワード：児童福祉法、老人福祉法、介護保険法、障害者総合支援法 キーワードの予習に60分、施設別に栄養士の配置基準・栄養管理の基準等についてまとめるのに60分。			
第15回	各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（4） 事業所 労働安全衛生規則、事業付属寄宿舎規定を確認するとともに、企業に実施が義務付けられている特定健診・特定保健指導についても内容を把握しておいてほしい。 キーワード：特定健診・特定保健指導、健康経営 キーワードの予習に60分、THPIについてまとめるのに60分。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎回授業の初めに、前回の講義内容の理解度チェックのための確認テストを行う。フードシステム、マーケティング、フードサービスの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習し、給食の経営管理を修得する。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	特定給食施設の種類は多く、それぞれ根拠法が異なり、利用者のニーズも異なる。各種施設の特徴について情報を収集し、理解の一助としてほしい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	毎回の確認テストと課題、定期試験の得点を総合して評価する。毎回授業の最初に、前回の講義内容の理解度チェックのための確認テストを行う。定期試験では論述問題を中心に出題し、小項目がつかがり、それぞれのシステムとして理解できているかどうかを確認する。定期試験80%、確認テスト20%			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 事業所給食に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の給食の運営および経営管理の内容に生かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践給食マネジメント論	高城孝助他	第一出版	978-4-8041-1437-8	2023
カレント給食経営管理論	松井元子・富田圭子	建帛社	978-4-7679-0696-6	2023
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論	三好恵子他	第一出版	978-4-8041-1468-2	2023
管理栄養士・栄養士必携		第一出版		2026
給食経営管理用語辞典	日本給食経営管理学会	第一出版	978-4-8041-1420-0	2020
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120004701
講義名	給食実務論
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	石川 豊美
ナンバリングコード	19K4Z3103

科目概要	近年管理栄養士を取り巻く社会環境は大きく変化し、保健・医療・福祉等における食生活の課題に対応できる給食施設が求められている。管理栄養士の実務の基本である給食管理・運営に必要なマネジメントの基礎能力を養い、喫食者のニーズに対応した食事提供ができるよう、給食実務の基本全般について学習する。
達成目標	特定給食施設において、経営・栄養・衛生・作業・施設管理等円滑な給食運営を行うために必要な実務内容について知識と技術を習得し、実践できる能力を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	ライフステージ栄養学・栄養教育・衛生学・社会科学等の関連分野を統合化し、広範囲な視野を養うよう努力してほしい。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	給食の概念 特定給食施設の意義・役割・種類・特徴について理解する。 キーワード：給食・特定給食施設・管理栄養士・栄養士配置基準 キーワードの予習に60分、健康増進法および健康増進法施行規則の復習に60分。
第2回	給食の運営とマネジメント 給食経営の資源、組織の原則、組織の形態等について理解する。 キーワード：経営資源（5M） キーワードの予習に60分、プリントの復習に60分。
第3回	栄養・食事管理 栄養計画の意義・目的、アセスメント、給食栄養目標量 栄養計画の意義・目的、アセスメント、栄養補給法、献立作成基準について理解する。 キーワード：栄養アセスメント、献立作成基準、栄養補給法 キーワードの予習に60分、栄養アセスメント項目・献立作成基準の復習に60分。
第4回	献立管理（1） 食品群別荷重平均成分表、食品構成 「日本人の食事摂取基準（2025年版）」を集団に用いる方法について理解し、集団の給食栄養目標量を設定する。さらに食品構成を作成するために必要な荷重平均食品成分表の作成方法を理解する。 キーワード：給食栄養目標量、荷重平均食品成分表 キーワードの予習に60分、授業後荷重平均食品成分表作成の演習問題に60分。
第5回	献立管理（2） 食品構成 給食栄養目標量を献立にするためのステップとしての食品構成の作成について理解する。献立の役割について理解し、食品構成を活用して期間献立を作成できるようにする。 キーワード：食品構成、期間献立 キーワードの予習に60分、授業後食品構成表作成の演習問題に60分。
第6回	献立管理（3） 食事計画、栄養補給法 献立とレシピの違いについて理解し、レシピの作成に必要なスキルについて確認する。 キーワード：献立・レシピ・重量変化・調味濃度 キーワードの予習に60分、授業後期間献立の立案に60分。
第7回	献立管理（4） 献立計画 モデル献立を用いて立案された献立を調理・供食するために必要な帳票類について理解する。 キーワード：レシピ・作業工程表 キーワードの予習に60分、授業後レシピ、作業工程表の作成に60分
第8回	食材管理（1） 食材管理の目的、食材の分類、食材の購入管理 食材管理の目的、食材の分類、献立に基づいた大量の食材料の選定について理解する。 キーワード：T-T・T、相見積もり、随意契約、競争入札、単価契約 キーワードの予習に60分、授業後契約方法のまとめに60分。
第9回	食材管理（2） 発注、検収、保管、在庫管理、評価 発注、検収、保管、在庫管理、評価までの一連の流れについて理解する。 キーワード：発注・発注係数・検収・期間食材料費 キーワードの予習に60分、発注量の算出・発注書の作成に関する課題プリントに60分。
第10回	安全・衛生管理（1） HACCP 給食施設における食中毒の発生状況について現状を把握し、食中毒予防のためのHACCPについて理解する。 キーワード：HACCP、二次汚染 キーワードの予習に60分、食中毒の原因・近年の特徴・予防の復習に60分。
第11回	安全・衛生管理（2） 大量調理施設衛生管理マニュアル 大量調理施設衛生管理マニュアルの制定の経緯と内容について理解する。 キーワード：大量調理施設衛生管理マニュアル キーワードの予習に60分、大量調理施設衛生管理マニュアルの暗記に60分。

第12回	調理工程計画（1） 大量調理の特徴 大量調理と少量調理との相違点を認識し、大量調理の特徴や留意点について理解する。 キーワード：付着水、廃棄率、重量変化、調味濃度、標準化 キーワードの予習に60分、大量調理の特徴の復習に60分。			
第13回	調理工程計画（2） 調理工程計画の実際 レシピから作業工程計画を計画するための留意点について解説する。 キーワード：水にかかわる調理操作、廃棄率、重量変化、調味濃度、標準化 キーワードの予習に60分、課題レシピの作成に60分。			
第14回	施設・設備管理（1） 施設・設備管理の概要、調理室の形態、内装、関連設備 給食の運営に大きな影響を及ぼす施設・設備の概要、調理室の形態、内装、関連設備について理解する。 キーワード：作業動線、ドライシステム キーワードの予習に60分、大量調理施設衛生管理マニュアルと設備との関連についてまとめるのに60分。			
第15回	施設・設備管理（2） 調理室内の機械・器具、食器、調理用具類 調理室で使用する各種機器の特徴と保守点検、施設に応じた食器類について理解する。 キーワード：厨房機器、レイアウト、保守点検、材質、自助具 キーワードの予習に60分、調理室の図面を理解し、作業動線等についてまとめるのに60分。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定多数人に対して栄養・食事管理に必要な知識と、給食業務を円滑に進めるための基本的な知識と技術（方法）について講義する。毎回授業の初めに前回の講義内容のポイントについて小テストを行う。さらに給食の運営に必要な実務知識を習得するため、講義だけでなく演習を多く取り入れる。演習は講義だけでは理解不十分な点を補完するものであるため、主体的に取り組み、理解を深めてほしい。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	給食は限られた条件（人員、時間、設備、予算等）で栄養管理されかつ安心・安全な食事を特定多数の人を対象に調理・提供しなければならない。今まで学んできた少量調理との違いを整理し、大量調理の特徴を把握する。また、衛生管理においては「大量調理施設衛生管理マニュアル」を理解し、大量調理ならではの調理手順・食材の扱い方・温度管理の方法などを身につけ、後期の給食経営管理実習で実践できるようにしておくことが望まれる。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	毎回の小テストと課題、定期試験の得点を総合して評価する。毎回授業の初めに、前回の講義内容の理解度チェックのための小テストを行う。食品構成や期間献立の立案等の演習課題は必ず期限内に提出すること。定期試験60%、小テスト20%、課題20%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 事業所給食に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の給食の運営および経営管理の内容に生かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論	三好恵子他	第一出版	978-4-8041-1468-2	2023
日本人の食事摂取基準2025年版の実践・運用	食事摂取基準の実践・運用を考える会	第一出版	978-4-8041-1499-6	2025
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
管栄養士栄養士必携	公益社団法人日本栄養士会	第一出版		2026
給食経営管理用語辞典	日本給食経営管理学会	第一出版	978-4-8041-1420-0	2020
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120004901
講義名	給食経営管理実習 I
開講期	2026年度後期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	石川 豊美
ナンバリングコード	19K4Z4107

科目概要	給食実務論、給食経営管理学で得た基本的な知識や技術を基礎に、給食管理運営業務について実習室を使用し、管理者として実践できるように体得することを目的とする。施設の組織体を想定し、グループ編成による役割分担で、健康人を対象とした給食運営の実習を行い、計画から評価まで一連を通して給食マネジメントを実践する。
達成目標	栄養・食事管理に基づいた給食の提供を大量調理施設衛生管理マニュアルに沿って実践し、一連の実習を通して、経済・流通・安全・組織を会得し、給食施設における管理栄養士の役割と業務内容を理解し、体得できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	調理学・応用栄養学・栄養教育・衛生学・社会科学等の関連分野を統合化し、広範囲な視野を養うよう努力してほしい。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オリエンテーション(実習の目的・方法・日程・グループ編成他) 栄養計画演習(1) 給与栄養目標量の決定・食品構成の作成・HACCP(大量調理衛生管理マニュアル)について 食品構成表の作成の予習に60分、大量調理衛生管理マニュアルの復習に60分。
第2回	実習室内厨房機器の説明および大量調理基礎実習 実習室内厨房機器のマニュアルの予習に60分、大量調理の手順の復習に60分
第3回	栄養計画・実習計画演習(2) 品質管理及び作業管理に必要な各種測定機器および備品類(食器含む)の説明 作業指示書・作業工程表の作成 各種測定機器のマニュアルの予習に60分、帳票の復習に60分
第4回	栄養計画・実習計画演習(3) 実習室準備 実習計画の検討(品質基準の設定および食材予算の検討) 使用食材の価格調査に60分、品質基準の復習に60分、
第5回	供食サービス実習(1)への準備 実習計画を仕上げ、発注、調理担当班との打ち合わせを行い実習当日の作業分担と作業内容の確認をする。 実習中のHACCPのモニタリングポイントを確認する。 HACCPのモニタリングポイントの予習に60分、実習計画の復習に60分
第6回	供食サービス実習(1) 1班:管理栄養士班 2班:調理師班 実習計画に基づき、調理・供食を行う。大量調理は1人ではできない作業であることを自覚し、協調性を持って作業にあたる。 3班:演習班 指定献立の実習計画の仕上げ 作業分担および作業動線表の作成・確認に60分、実習記録のまとめに60分
第7回	供食サービス実習(2)への準備 実習計画を仕上げ、発注、調理担当班との打ち合わせを行い実習当日の作業分担と作業内容の確認をする。 実習中のHACCPのモニタリングポイントを確認する。 供食サービス実習(1)のまとめ HACCPのモニタリングポイントの予習に60分、実習計画の復習に60分
第8回	供食サービス実習(2) 2班:管理栄養士班 3班:調理師班 実習計画に基づき、調理・供食を行う。各自の役割を自覚し行動する。 1班:演習班 実習後の反省・まとめおよび関係帳票の記入 作業分担および厨房機器のマニュアルの確認に60分、実習記録のまとめに60分
第9回	供食サービス実習(3)への準備 実習計画を仕上げ、発注、調理担当班との打ち合わせを行い実習当日の作業分担と作業内容の確認をする。 実習中のHACCPのモニタリングポイントを確認する。 供食サービス実習(2)のまとめ HACCPのモニタリングポイントの予習に60分、実習計画の復習に60分
第10回	供食サービス実習(3) 3班:管理栄養士班 1班:調理師班 実習計画に基づき、調理・供食を行う。各自の役割を自覚し行動する。 2班:演習班 実習後の反省・まとめおよび関係帳票の記入 作業分担および厨房機器のマニュアルの確認に60分、実習記録のまとめに60分
第11回	実習のまとめ(I)実施献立表の作成 供食サービス実習(3)のまとめ 実習記録から摂食量を求め、実施献立表を作成し、予定献立表と比較・検討する。 実施献立表の予習に60分、実施献立表の作成に60分

第12回	実習のまとめ（2）栄養管理の評価 各班から提出された実施献立表をもとに栄養出納表を作成し、栄養管理の評価について理解を深める。 評価会に向けまとめた内容を制限時間内で発表できるように工夫する。 栄養出納表の予習に60分、評価会のまとめに60分
第13回	実習のまとめ（3）経営管理の評価 関係帳票の記入、仕上げを行い、実習後の問題点、改善点を発見し、反省点を含めてまとめる。 評価会に向けまとめた内容を制限時間内で発表できるように工夫する。 帳票の作成方法の予習に60分、問題点の整理に60分。
第14回	評価会 班ごとに実習内容の反省点、問題点、改善点等について報告し、情報の共有化を図る。 実習の反省会記録の確認に60分、評価会のまとめに60分。
第15回	施設別経営計画検討 対象者の把握・栄養計画 対象者ごとの特徴の予習に60分、献立の修正に60分。
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	実習はグループ分け（3班）をし、管理栄養士班、調理員班、演習班に分かれ、ローテーションで行う。それぞれ役割分担に従い、リーダーシップを発揮し、協調性を持って取り組んでほしい。 実習で使用する帳票類は、適宜プリントを配布する。 実習時間内に班で情報の共有化を図り、そのうえで協力して帳票の作成を行い、評価会終了後にすべての帳票類をファイルに綴じ込み指示された期限までに提出する。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	大量調理の実習は事前の入念な準備が必要である。実習に当たっては自分に与えられた役割を十分理解し、担当する業務については予習しておくことが大切である。 実習中の記録は各自がとるのではなく、全員で決められた用紙に記入するようにし、情報の共有化を図るようにする。 平素より規則正しい生活習慣を心がけ、体調管理に努めることが求められる。
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業への取り組み姿勢・実習中の貢献度・評価会報告内容のまとめ方等から、実習内容の理解度や学修度を評価する。提出物については期限を厳守する。遅れた場合は減点の対象となる。 実習態度60%、レポート30%、その他10%
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） 事業所給食に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の給食の運営および経営管理の内容に生かした実践的な教育を実施している。
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
トレーナーガイド PDCAによる給食マネジメント実習 第2版	松月弘恵他	医歯薬出版	978-4-263-70728-9	2025
改訂新版 大量調理	殿塚婦美子	学建書院	978-4-7624-3872-1	2025

参考図書など

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂 対象者別給食献立	殿塚婦美子・長田早苗	建帛社	978-4-7679-0730-7	2021
調理のためのベーシックデータ	松本仲子	女子栄養大学出版部	978-4-7895-0325-9	2022
給食経営管理論	三好恵子ほか	第一出版	978-4-8041-1468-2	2023

参考URL

NO	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			
4.			
5.			

講義コード	120002601
講義名	ライフステージ栄養学 I
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	高橋 圭
ナンバリングコード	19K4Z2102

科目概要	ライフステージ栄養学ではⅠ～Ⅲに分けて、ライフステージ(妊娠・授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期)および運動・環境に合わせた栄養ケアを学ぶ。それぞれの身体的・栄養学的特性を知り、栄養ケアプロセスのあり方について理解する。 ライフステージ栄養学Ⅰでは栄養ケアプロセスの概要(栄養管理の流れ)、栄養評価の方法(臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査の方法と注意点、栄養出納とエネルギーの算出方法、食事摂取基準の策定根拠・各栄養素の科学的根拠)、成長・発達・加齢について習得する。
達成目標	「応用栄養学」としての栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。具体的には以下の通りである。人々の健康の維持・増進を担うために必要である栄養関連指標の特徴を理解し、正確な栄養評価を行うことができる。また、食事摂取基準の概要と科学的根拠を理解し、健康増進・疾病予防のためのエネルギーおよび栄養素の摂取量を設定する実践的な能力を身につけている。 ライフステージ栄養学Ⅱ・Ⅲでの各ライフステージ別の内容を理解するために、成長・発達および加齢についての基本的な流れがイメージできる。
履修に必要な予備知識や技能(関連科目等)	調理学、基礎栄養学、食品学などの科目と関連する。また、今後学修する臨床栄養学や病気の成り立ち、公衆栄養学などの分野にも関連する。 体重の評価(BMIや標準体重など)を行うための基本的な計算能力、教科書や資料を読むための基本的な読解力・日本語力、口頭での説明や板書をメモする能力、休まずに出席する体調管理能力や90分離席せずに受講できる集中力、予習・復習・試験勉強の計画性とその実行力などが必要。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス ライフステージ栄養学Ⅰ～Ⅲの概要、栄養で出来ること・出来ないこと キーワード：ライフステージ、応用栄養学、ストレス、特殊環境、QOL 【事前学修】シラバスおよびガイダンス資料の確認をする(60分) 【事後学修】授業後にノートをまとめる。スライドを見直す(60分)
第2回	栄養ケアプロセス キーワード：栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、栄養ケアプロセスにおける各段階の用語を理解し、覚える(60分)
第3回	栄養アセスメント(1) 臨床診査 キーワード：問診、病歴、既往歴、診察、バイタルサイン 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。健康診断や病院を受診したときのことを思い出す(70分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)
第4回	栄養アセスメント(2) 臨床検査 キーワード：糖代謝系、脂質代謝系、肝臓系、腎臓系、急速代謝回転たんぱく質、静的アセスメント・動的アセスメント 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、検査項目の見直しをする(60分)
第5回	栄養アセスメント(3) 身体計測 キーワード：体格指数(BMI)、標準体重、体重減少率、通常時体重比、体脂肪率 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。体重を測定する(65分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、各計算が出来るように練習する(75分)
第6回	栄養アセスメント(4) 食事調査、測定誤差 キーワード：秤量記録法、陰膳法、24時間思い出し法、過大申告・過小申告、日間変動 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。前日の食事内容を思い出す(70分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、自身の食事内容を24時間思い出し法でチェックする(75分)
第7回	栄養アセスメント(5) 栄養出納、エネルギー量の推定 キーワード：窒素出納、エネルギー出納、ハリス・ベネディクトの式、身体活動量 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)
第8回	日本人の食事摂取基準(1) 策定方針、エネルギーの指標、栄養素の5つの指標 キーワード：健康の維持・増進、推定エネルギー必要量、推定平均必要量、推奨量、目安量、耐容上限量、目標量 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、各指標の目的・内容を説明できるようにする(70分)
第9回	日本人の食事摂取基準(2) 策定の基本事項・留意事項 キーワード：レビューの方法、参照体位、中央値と平均値の違い、摂取源、摂取期間、外挿法 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)

第10回	日本人の食事摂取基準(3) 活用に関する基本的事項 キーワード: PDCAサイクル、食事調査の測定誤差、活用の留意点・指標の使い方 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。食事調査について復習しておく(75分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)			
第11回	日本人の食事摂取基準(4) エネルギー キーワード: エネルギー収支バランス、BMI、基礎代謝基準値、身体活動レベル 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。普段の活動量について振り返る(65分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。自身の推定エネルギー必要量を求める(65分)			
第12回	日本人の食事摂取基準(5) たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス キーワード: たんぱく質維持必要量、基準が設定されている脂肪酸の種類、エネルギー比率 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、エネルギー比率の計算が出来るように練習する(65分)			
第13回	日本人の食事摂取基準(6) ビタミン キーワード: 脂溶性ビタミン4種類、水溶性ビタミン9種類 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。ビタミンの働きについて復習しておく(75分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)			
第14回	日本人の食事摂取基準(7) ミネラル キーワード: 多量ミネラル、微量ミネラル 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。ミネラルの働きについて復習しておく(75分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)			
第15回	成長・発達、加齢 キーワード: スキャモンの成長曲線、体水分率の変化 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】スライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。試験勉強(120分)			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式で行い、WebClassなどを使用します。スライドを中心に進めていき、板書は補足程度となります。口頭でポイントや追加の説明を行うため、各自でノートなどに記録してください。スライドはWebClassにアップします。</li> <li>・毎回、前回授業の復習を行います。質問等があればその部分を重点的にもう一度説明します(フィードバック)。</li> <li>・ワークプリントは授業内容を整理するために、各自必要に応じて利用してください。</li> <li>・本科目の内容はもちろんですが、なるべく他科目とも関連付けられるように説明をしていくつもりです。</li> <li>・まとめたワークプリントや定期試験のフィードバックを希望する人は研究室まで来てください。</li> </ul>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>&lt;講義前&gt;シラバスを読み、内容の概略を予習しておいてください。事前に授業スライドはWebClassにアップします。</p> <p>&lt;講義後&gt;なるべく早いうちに教科書やノートを確認しておくことで理解が深まります。また、各項目でワークプリントをWebClassにアップするので、スライドを見直ししながら指示された内容をまとめてください。理解しにくい部分などがあれば、質問してください。</p> <p>本科目だけではなく他の科目内容とも関連するため、他の科目で習った内容を意識して予習・復習をしてください。また、講義の前後に関わらずテレビ(特にNHK)などで行われている身体や病気に関する番組も参考になります。</p>			
成績(達成度) 評価方法・評価基準、割合	<p>定期試験で評価を行う(100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 欠席回数分の欠席レポートを提出していることが条件</li> <li>* 定期試験55点以上の者を対象に加点レポート提出で上限8点の加点を行う(レポート1本につき1~2点。欠席・遅刻回数により上限点数減少)</li> <li>* 加点・欠席レポート内容はWebClassを参照</li> </ul>			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の実務経験と授業科目との関連) 病院における栄養管理業務の実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目において管理栄養士としての役割、栄養評価・栄養診断を行うための検査・測定・調査項目の特徴について、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学 第4版』	江上いすず, 多賀昌樹編	朝倉書店	978-4-254-61672-9	2025年
『日本人の食事摂取基準(2025年版)』	「日本人の食事摂取基準(2025年版)」策定検討会	第一出版	978-4-8041-1492-7	2025年
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業中に適宜指示する				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	授業中に適宜指示する			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120002701
講義名	ライフステージ栄養学Ⅱ
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	高橋 圭
ナンバリングコード	19K4Z3102

科目概要	ライフステージ栄養学ではⅠ～Ⅲを通し、ライフステージ(妊娠・授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期)および運動・環境に合わせた栄養ケアプロセスを学ぶ。それぞれの身体的・栄養学的特性を知り、栄養ケアプロセスのあり方について理解する。 ライフステージ栄養学Ⅱでは、妊娠・授乳期、新生児・乳児期、幼児期、学童期、思春期について取り上げ、各時期における生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態、栄養補給法について習得する。
達成目標	「応用栄養学」としての栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。具体的には以下の通りである。 妊娠・授乳期ならびに新生児・乳児期～思春期の身体的な変化や代謝の変化など、各ライフステージに応じた栄養状態の特徴について理解し、栄養ケアの方法を身につけている。また、乳汁栄養や離乳食、アレルギーなどについても理解し、適切なアドバイスができる。
履修に必要な予備知識や技能(関連科目等)	ライフステージ栄養学Ⅰの知識を前提とし、調理学、基礎栄養学、食品学、解剖生理学、生化学、臨床栄養学などの科目と関連する。 栄養評価を行うための基本的な計算能力、教科書や資料を読むための基本的な読解力・日本語力、口頭での説明や板書をメモする能力、休まずに出席する体調管理能力や90分離席せずに受講できる集中力、予習・復習・試験勉強の計画性とその実行力などが必要。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	妊娠期(1) 月経、妊娠の成立、ホルモン キーワード：月経、ホルモン 【事前学修】ライフステージ栄養学Ⅰの復習をする。事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(80分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)
第2回	妊娠期(2) 胎児と付属物、母体の変化 キーワード：性ホルモン、胎盤、羊水、血液状態の変化 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)
第3回	妊娠期(3) アセスメント、体重変化、食事摂取基準(付加量) キーワード：代謝の変化、高齢出産、目標とする体重増加量、付加量 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。BMIの計算方法を見直す(65分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、食事摂取基準の指標の定義を覚え直す(75分)
第4回	妊娠期(4) 疾患と栄養 キーワード：つわり、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、体重管理 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、糖尿病の仕組み・基準値を見直す(70分)
第5回	産褥期・授乳期(1) ホルモン、食事摂取基準 キーワード：授乳関連ホルモン、授乳量の付加量 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。妊娠期の栄養管理問題を解く(75分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)
第6回	乳児期(1) 発育・発達、生理的特徴、新生児反射 キーワード：乳児の発育(身長、体重、運動)、哺乳反射 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。乳児(赤ちゃん)と自身(成人)の違いについて思いつくことをまとめる(80分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)
第7回	乳児期(2) 乳汁栄養(母乳栄養、人工乳栄養) キーワード：母乳栄養、母乳の利点、初乳、感染防御因子、成熟乳、乳児用調製乳 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。ドラッグストアなどで乳児用調製乳の種類を確認する(80分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。ドラッグストアなどで乳児用調製乳の種類やメーカーによる成分・特徴の違いを確認する(80分)
第8回	乳児期(3) 離乳食、食事摂取基準 キーワード：離乳の開始、離乳の進行、離乳の完了 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。ドラッグストアなどで市販の離乳食の種類を確認する(80分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。ドラッグストアなどで市販の離乳食の表示(パッケージの特徴)や栄養量等を確認する(80分)
第9回	乳児期(4) 栄養と疾患(生理的黄疸、乳児性下痢症、先天性異常) キーワード：母乳量、乳児下痢症、先天性異常、貧血 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。乳児期の栄養管理問題を解く(75分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)
第10回	幼児期(1) 成長・発達、食事摂取基準 キーワード：成長、目標量、間食 【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分) 【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)

第11回	<p>幼児期(2) 疾患(やせ、肥満)          学童期(1) 成長・発達、食事摂取基準、食育基本法          キーワード：ローレル指数、カウプ指数、肥満、スキヤモンの成長曲線          【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。幼児期の栄養管理問題を解く(75分)          【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)</p>			
第12回	<p>学童期(2) 学校給食、栄養教諭          キーワード：身体活動レベル、食育基本法          【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。小学生時代の給食や習い事、体格等を思い出す。学童期の栄養管理問題を解く(90分)          【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。小学校での給食について振り返る(75分)</p>			
第13回	<p>アレルギー(1) 免疫学的機序、症状、診断、アレルギー、食品表示          キーワード：I g E抗体、感作、アナフィラキシー、食物依存性運動誘発アナフィラキシー          【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。小学校で行われていたアレルギー対応方法等を思い出す(75分)          【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。市販食品の食品表示のアレルギー表示を比べる(75分)</p>			
第14回	<p>アレルギー(2) 食事療法、耐性獲得、各アレルギーの性質、給食での対応          キーワード：最小限の除去、交差反応性、耐性獲得、低アレルギー化、代替食          【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。アレルギーの栄養管理問題を解く(75分)          【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。普段自身が食べている食事を代替食にする方法を考える(90分)</p>			
第15回	<p>思春期(1) 発育急進現象          キーワード：思春期スパート、スキヤモンの成長曲線、第二次性徴、摂食障害          【事前学修】事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする。成長期について振り返る(80分)          【事後学修】授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。試験勉強(120分)</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式で行い、WebClassなどを使用します。スライドを中心に進めていき、板書は補足程度となります。口頭でポイントや追加の説明を行うため、各自でノートなどに記録してください。スライドはWebClassにアップします。</li> <li>・毎回、前回授業の復習を行います。質問等があればその部分を重点的にもう一度説明します(フィードバック)。</li> <li>・ワークプリントは授業内容を整理するために、各自必要に応じて利用してください。</li> <li>・本科目の内容はもちろんですが、なるべく他科目とも関連付けられるように説明をしていくつもりです。</li> <li>・まとめたワークプリントや定期試験のフィードバックを希望する人は研究室まで来てください。</li> </ul>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>&lt;講義前&gt;シラバスを読み、内容の概略を予習しておいてください。事前に授業スライドはWebClassにアップします。          &lt;講義後&gt;なるべく早いうちに教科書やノートを確認しておくことで理解が深まります。また、各項目でワークプリントをWebClassにアップするので、スライドを見直ししながら指示された内容をまとめてください。理解しにくい部分などがあれば、質問してください。          本科目だけではなく他の科目内容とも関連するため、他の科目で習った内容を意識して予習・復習をしてください。また、講義の前後に関わらずテレビ(特にNHK)などで行われている身体や病気に関する番組も参考になります。</p>			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	<p>定期試験で評価を行う(100%)。          * 欠席回数分の欠席レポートを提出していることが条件。          * 定期試験55点以上の者を対象に加点レポート提出で上限8点の加点を行う(レポート1本につき1~2点。欠席・遅刻回数により上限点数減少)。          * 加点・欠席レポート内容はWebClassを参照。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の実務経験と授業科目との関連)          病院における栄養管理業務の実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目において妊娠期・乳児期・幼児期各時期での栄養管理方法や対応方法、アレルギー対応方法など卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学 第4版』	江上いすず, 多賀昌樹編	朝倉書店	978-4-254-61672-9	2025年
『日本人の食事摂取基準2025年版』	「日本人の食事摂取基準(2025年版)」策定検討会	第一出版	978-4-8041-1492-7	2025年
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業中に適宜指示する				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	離乳授乳の支援ガイド(2019年改定版)	<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.htm">https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.htm</a>	厚生労働省HP	
2.	第4次食育推進基本計画	<a href="https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html">https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html</a>	農林水産省HP	
3.	学校保健統計調査	<a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm">https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm</a>	文部科学省HP	
4.				
5.				

講義コード	120003001
講義名	ライフステージ栄養学実習
開講期	2026年度前期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	高橋 圭
ナンバリングコード	19K4Z5101

科目概要	ライフステージ栄養学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を基に、妊娠期、乳幼児期、高齢期などライフステージ別の栄養管理について、実習を通して学ぶ。自身で考えた症例を用いて栄養のアセスメント(SOAP記録)を行い、食事摂取基準に基づいた栄養基準の作成、食事計画、献立作成、そして調理実習を行い、栄養管理の実際について実習する。
達成目標	各ライフステージの栄養上の特性と留意点を十分把握し、個々の事例に基づいた栄養アセスメントの方法を理解できる。さらに、それぞれの対象の特性に合わせた食事計画、献立作成、調理実習などを通して栄養ケアのあり方を身につけ、対象者への食事アドバイス・指導ができる。 また、介護報酬様式に合わせ栄養摂取下アセスメントの記載や褥瘡の評価ができる。
履修に必要な予備知識や技能(関連科目等)	ライフステージ栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を前提とし、調理学、臨床栄養学、食品学、解剖生理学、病気の成り立ち、病態栄養学、給食経営管理論、栄養教育論などの科目と関連する。また、テレビ(特にNHK)などで行われている料理番組や健康番組の内容なども献立作成や栄養状態の評価に必要な知識となる。 栄養評価を行うための基本的な計算能力、献立作成能力、調理技術、班員と連携して作業や課題を行うためのコミュニケーション能力とリーダーシップが必要。 また、グループワークが基本であるため遅刻や欠席をしない体調管理能力や課題を計画的に行う能力も必要。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ライフステージ栄養学実習の概要 食事摂取基準の具体的な使用方法 キーワード：実習概要、諸注意、食事摂取基準(推定平均必要量、推奨量、目標量)、栄養量の設定 【事前学修】事前に食事摂取基準の使い方、栄養評価・管理の方法を学び直しておく(30分) 【事後学修】食事摂取基準について授業とは別の年代でも使えるか復習しておく(30分)
第2回	献立作成の概要 品数・彩りの注意点、栄養計算ソフトの使い方 キーワード：献立作成、主食・主菜・副菜、彩り 【事前学修】献立の立て方について学び直しておく(30分) 【事後学修】栄養計算ソフトの使い方について復習しておく(30分)
第3回	栄養管理のための計算、褥瘡管理 キーワード：塩分濃度、エネルギー比率、DESIGN-R(2020年版) 【事前学修】基本的な献立作成に必要な栄養計算やDESIGN-R(2020年版)について学び直しておく(30分) 【事後学修】栄養計算方法やDESIGN-Rについて復習する(30分)
第4回	乳児期の栄養(1) 各種調製乳とベビーフードの食味試験、調乳、離乳食の特性と留意点 キーワード：調乳、粉ミルク、液体ミルク、フォローアップミルク、特殊ミルク(アレルギー、乳糖不耐症)、ベビーフード 【事前学修】事前に調乳の作成方法、調乳の種類、ベビーフードの種類などについて学び直しておく(30分) 【事後学修】授業後に乳児用調製乳およびベビーフードの食味まとめ(レポート)(30分)
第5回	乳児期の栄養(2) 離乳食の調理実習 キーワード：離乳食、固さの調整、味付け 【事前学修】事前に自身が調理する献立および調理方法を確認する(30分)。当日の事前準備(食材の分配)をする(30分) 【事後学修】授業後に献立・栄養計算・食品構成の修正およびまとめ(レポート)を行う(90分)
第6回	幼児期の栄養(1) 対象者の設定、栄養評価・栄養ケアプランの作成 キーワード：間食、偏食、栄養ケアプラン 【事前学修】事前に幼児期の栄養管理、注意点を学び直しておく(30分) 【事後学修】授業後に栄養ケア計画作成の残りを(30分)
第7回	幼児期の栄養(2) 対象者に合わせた献立の作成、栄養価計算 キーワード：献立作成、栄養価計算、ランチプレート、発注書作成 【事前学修】事前に対象者の情報と栄養ケア計画の内容を見直しておく(30分) 【事後学修】授業後に班で調理実習用献立の決定および発注書の作成(30分)、予定献立・栄養量・食品構成の確認(班レポート)を行う(30分)
第8回	幼児期の栄養(3) 調理実習 キーワード：調理時間、味付け、見た目、分量、おいしさ、対象へのふさわしさ 【事前学修】事前に自身が調理する献立および調理方法を確認する(30分)。当日の事前準備(食材の分配)をする(30分) 【事後学修】授業後に献立・栄養計算・食品構成の修正およびまとめ(レポート)を行う(90分)
第9回	思春期・妊娠期・運動実施者の栄養(1) 対象者の設定、栄養評価・栄養ケアプランの作成 キーワード：妊娠期、間食、低栄養、成長期、ダイエット、スポーツ、栄養ケアプラン 【事前学修】事前に選択した対象に対する栄養管理・注意点を学び直しておく(30分) 【事後学修】授業後に栄養ケア計画作成の残りを(30分)
第10回	思春期・妊娠期・運動実施者の栄養(2) 対象者に合わせた献立の作成、栄養価計算 キーワード：献立作成、栄養価計算 【事前学修】事前に対象者の情報と栄養ケア計画の内容を見直しておく(30分) 【事後学修】授業後に班で献立の決定(30分)、献立・栄養量・食品構成の確認(班レポート)を行う(30分)
第11回	幼児期の栄養(4) 思春期・妊娠期・運動実施者の栄養(3) プレゼンテーション キーワード：ライフステージ別ケアプランの確認、対象者別の改善点 【事前学修】事前に班でプレゼン資料の作成を行う(30分) 【事後学修】授業後に本科目で実施した内容について復習を行う(30分)

第12回	<p>高齢期の栄養(1) 栄養摂取嚥下アセスメント、間食のレシピ作成          キーワード：栄養評価、嚥下調整食学会分類、栄養摂取嚥下アセスメントシート          【事前学修】栄養アセスメント方法、介護報酬および嚥下の学会分類、嚥下対応方法について学び直しておく(30分)          【事後学修】介護報酬様式・摂食嚥下アセスメントについて復習する(30分)。授業後に班で調理実習用レシピの決定および発注書の作成をする(30分)</p>			
第13回	<p>高齢期の栄養(2) ユニバーサルデザインフード、ソフト食等の試食          キーワード：高齢期、ユニバーサルデザインフード、ソフト食、酵素によるやわらか食          【事前学修】ユニバーサルデザインフードや嚥下調整食学会分類について学び直しておく(30分)          【事後学修】授業後に試食した食品についてのレポートを作成(60分)</p>			
第14回	<p>高齢期の栄養(3) 間食の調理実習          キーワード：調理時間、味付け、見た目、分量、おいしさ、対象へのふさわしさ          【事前学修】事前に自身が調理するレシピおよび調理方法を確認する(30分)。当日の事前準備(食材の分配)をする(30分)          【事後学修】授業後にレシピの修正およびまとめ(レポート)を行う(60分)</p>			
第15回	<p>栄養管理のための知識整理(ワークプリント)          キーワード：栄養素の基準、栄養評価方法・検査値、疾患と栄養素、栄養素と食材          【事前学修】今までに学修した栄養量の決定方法、栄養評価方法、食材に含まれる栄養素などを復習しておく(30分)          【事後学修】各科目で学修した栄養管理に関する知識について復習する(30分)</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>・内容は基本的にライフステージごとに(1)症例作成、栄養評価・計画作成、(2)献立作成、実習献立の決定・発注、(3)調理実習の流れで行う。その他、献立作成方法や栄養管理計画の記載方法などについても随時講義・演習を行う。          ・実習の順番は発注や実習室等の都合で変更する場合がある。          ・症例作成、献立の決定や調理実習などはグループで行う。レポートは指定のフォーマットに記載し、必ず提出すること。          ・疑問や分からないところがあれば随時質問をするようにしてください。          ・提出レポートは随時返却し、フィードバックする。</p>			
アクティブラーニング	<p>PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／プレゼンテーション／グループワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>&lt;講義前&gt;ライフステージ栄養学の講義を基礎として実習を行うので、実習日程を確認し、ライフステージ栄養学の各単元を復習しておくことと実習がスムーズに行く。          &lt;講義後&gt;栄養ケアプラン作成レポートとそれに伴う調理実習後レポートがあるので、提出日を確認しておくこと。また、実習が終了したら記憶が鮮明な早い時期にレポート作成を行い、提出が遅れないようにすること。          テレビ(特にNHK)などで行われている料理番組や健康番組の内容なども献立作成や栄養状態の評価に対して参考になります。          また、実習の多くを班単位で実施するため、班同士の連絡を密にし、きちんと情報共有を行えるようにしておいてください。</p>			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	<p>基本的にレポートでの評価とし、全て提出することを前提とする(100%)          レポートの内容は調理実習前の対象別食事摂取基準や栄養ケアプランの内容、作成献立および調理実習後の考察・反省など。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の实務経験と授業科目との関連)          病院における栄養管理業務の実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の栄養評価・栄養診断・栄養介入およびその対象者に合わせた献立作成について、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ライフステージ実習栄養学健康づくりのための栄養と食事第7版』	城田知子, 林辰美 編著	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70809-5	2021年
『日本人の食事摂取基準2025年版』	「日本人の食事摂取基準(2025年版)」策定検討会	第一出版	978-4-8041-1492-7	2025年
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学 第3版』	江上いすず, 多賀昌樹	朝倉書店	978-4-254-61659-0	2021年
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	適宜指示する			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120008501
講義名	フードサービス論
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	河木 智規
ナンバリングコード	24F2E3201 19F2C3101

科目概要	<p>わが国の食市場は70兆円と言われる。その中のフードサービス市場も新型コロナウイルス禍からの回復基調にあり、24兆円とされている。</p> <p>この主要産業のひとつであるフードサービス産業の歴史や業態別の構造・特徴を解説するとともに、新型コロナウイルス禍を乗り越え、将来に向け生産性の高い持続可能な取り組みを加味した業態開発が喫緊の課題となっている。</p> <p>フードサービス産業の現状を正しく把握するとともに、将来の課題についても理解を深めることに重点を置いている。</p>
達成目標	<p>フードサービス産業の今後の業態開発の方向を食の安全・安心の担保や高齢化社会対応、健全な雇用の創出といった課題を持続可能な形で網羅したものが不可欠であるとの見識を身につける。</p>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<p>基礎的な「損益計算書」の復習とプレゼンテーション資料を「パワーポイント」で作成できるように準備していただきたい。</p>
学位授与方針との関連	<p>1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。</p> <p>4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。</p>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>ガイダンス（講義全体の流れ、授業のすすめ方、課題レポートの提出方法、評価方法の説明） フードサービス産業の歴史 「外食産業元年・1970年から50年間のフードサービスの産業化」の解説</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>
第2回	<p>フードサービス産業の形態 「個人経営・チェーンストア経営・フランチャイズ経営等」の解説</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>
第3回	<p>フードサービスの業態（1） 「ファスト・フードサービス」と「ファスト・カジュアル」の解説 事例研究「マクドナルド」と「モスバーガー」の比較</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>
第4回	<p>フードサービスの業態（2） 「ファミリー・レストラン」の解説 事例研究「サイゼリヤ」と「大戸屋」の戦略の違い</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>
第5回	<p>フードサービスの業態（3） 「珈琲専門店」の解説 事例研究「スターバックスコーヒー」と「コメダ珈琲」のサードプレイス</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>
第6回	<p>フードサービスの業態（4） 「回転寿司」の解説 事例研究「スシロー」「くら寿司」の取り組みと低価格回転寿司の今後の課題</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>
第7回	<p>フードサービスの業態（5） 「パフェ・サブスクリプション・デリバリー」の解説 事例研究「焼肉きんぐ」や「ドミノ・ピザ」の特徴</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>
第8回	<p>フードサービス店舗の評価（1） QSCの理解とストアコンパリゾン・商品構成グラフの理解</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>

第9回	<p>フードサービス店舗の評価（２） 店舗の人気を左右する付加価値（ブランディング）の理解 「ホスピタリティの理解」「顧客をファンにさせるもの」「求められる新商品」</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第10回	<p>フードサービス店舗の収益構造 売上と収益の構造・投資と投資回収の理解 《課題設定 「私のフードサービス店開業提案」グループワークによるパワーポイント発表》</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第11回	<p>フードサービス業の人財育成とES向上の方向性 「人手不足」を打開し、魅力あるフードサービス業とするための理解 これからのフードサービスに求められるもの 「持続可能な開発目標（SDGs）」や「フードテック」の考え方の理解と具体的な事例紹介</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第12回	<p>《グループワーク》 課題「私のフードサービス店開業提案」①</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第13回	<p>《グループワーク》 課題「私のフードサービス店開業提案」②</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第14回	<p>《グループワーク》 課題「私のフードサービス店開業提案」③ 《模擬試験》</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第15回	<p>課題発表 グループによる「私のフードサービス店開業提案」 パワーポイントによるプレゼンターとコメントーターを実践する</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（90分程度）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>毎回資料をWebclassにアップし、パワーポイントによる説明と映像を参照しながら授業を進める。 毎回のレポートで授業の理解度を確認しつつ、次回の授業の冒頭でフィードバックをする。 プレゼンテーション課題は、全員がプレゼンテーションし、他の発表に対しコメントーターの役割も実践してみる。</p>			
アクティブラーニング	<p>PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／グループワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>履修とともに学ぶフードサービスの店舗で、実際に喫食を通じて、学んだことが現場でどのように反映されているのか、こういったところに問題点があるかなどを客の目線で判断する習慣を持ってもらいたい。 今後、フードサービス業界でこういった業態が求められるかを自身の視点から創造してみる。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>試験結果（40%）、毎回レポートの内容（40%）、プレゼンテーション課題の内容（20%）により総合的に評価する。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>（教員の実務経験と授業科目との関連） フードサービス企業で40年間、店舗の実務・スーパーバイジング経験から店舗開発の立地選定や投資収益管理、フランチャイズ提携の可否判断等幅広い経験をもとに、本授業科目の業界全体の理解から実務ツールを使った実践的なマネジメント教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜紹介する』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200011201
講義名	チェーンストアシステム
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	河木 智規
ナンバリングコード	24F2E6201 19F2C6201

科目概要	人々の日常生活に欠くことのできなくなった、チェーンストアの本質と今後の可能性について解説する。チェーンストアを支える広範な分業システム、標準化の重要性、マス・マーチャンダイジング・システムによる独特の商品づくりを実際の企業をケーススタディとして取り上げ研究するとともに、新型コロナウイルス禍の経験や将来に向けた持続可能な取り組みを加味した、新たな業態開発の方向性を理解する。更に、独自性の高いプライベート・ブランド商品を開発、信頼性の高いブランディングで付加価値を高めながら、SDGsをはじめ社会的責任にも十分配慮しながら先導する企業へ転換しようとするプロセスを学ぶ。
達成目標	チェーンストアの特徴である標準化や単純化、分業システムとそのマネジメント、そのためのスペシャリストづくりなどの考え方が、一般の業界や職種の基本部分に大きく役立つことが理解できる。 企業の社会的責任とその必要性が理解できる。 一方で、安価で豊富な労働力を基盤に発展してきたチェーンストアも、少子高齢化や労働人口の減少により、「人手不足」に四苦八苦している。この難関を乗り越えるためには、根本的なシステムの変更と体質の改善が必要となってきたことにも認識を持ってもらいたい。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	身近に接するチェーンストア（小売業・フードサービス業など）の店舗と個人店の違い、ナショナル・ブランド商品とプライベート・ブランド商品の違いを実経験の中で感じ、それを実現するための裏側にあるシステムを理解してもらいたい。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス（講義全体の流れ、授業のすすめ方、レポートの提出方法、評価の仕方を説明する） チェーンストアの理解（1） 「チェーンストアの定義」「チェーンストアの絶対原則」 「チェーンストアと本支店経営の違い」  事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）
第2回	チェーンストアの理解（2） チェーンストアの歴史、種類とその経営の本質 「チェーンストアとフランチャイズシステムの関係性を解説」  事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）
第3回	チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（1） 「フードサービスのパーティカル・マーチャンダイジング」 事例研究「サイゼリヤ」  事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）
第4回	チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（2） 「ホーム・ファニチャーのクリエイティブ・マーチャンダイジング」 事例研究「イケア・ニトリ」  事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）
第5回	チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（3） 「アパレルのユニット・マーチャンダイジング」 事例研究「ユニクロ・GU」  事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）
第6回	チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（4） 「小売業のマス・ストアーズ・オペレーション」 事例研究「無印良品」  事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）
第7回	チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（5） 「グローバル企業のフィジカル・ディストリビューションマネジメント」 事例研究「しまむら・ニトリ」  事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）

第8回	<p>「マーケティング」と「マーチャンダイジング」 同様に求めるものと担う役割の違い 事例研究「アサヒビール・イケヤ・USJ」</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）</p>			
第9回	<p>チェーンストアの商品の考え方 「ナショナル・ブランド」と「プライベート・ブランド」の理解 「NBとPBの商品づくりの考え方と収益構造の違いを解説」</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）</p>			
第10回	<p>チェーンストアの魅力を理解する 「ディスティネーション・ストア」になるために ブランディングによる付加価値の増加と生産性の向上プロセスの理解 ホスピタリティ・マネジメントの重要性の理解 有力なPBの必要性とコーディネーションによる豊かさ体现の理解</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度） 《課題設定「個人店やローカルチェーンの優れたものPBを紹介する」パワーポイントにしてプレゼンテーションをする》</p>			
第11回	<p>これからのチェーンストアの展望と課題 チェーンストアの社会的な役割と変革の必要性を解説 「持続可能な開発目標（SDGs）」と「新たなテクノロジーの活用」の理解と事例紹介 「人手不足」課題への根本的なシステム変更と体質改善の必要性の理解 《課題設定「グループワークによる「生活に密着した新たなチェーンストアを提案する」》</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）</p>			
第12回	<p>《グループワーク》 課題「生活に密着した新たなチェーンストアを提案する」の方針決定と資料作成①</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）</p>			
第13回	<p>《グループワーク》 課題「生活に密着した新たなチェーンストアを提案する」の方針決定と資料作成② 《模擬試験》</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）</p>			
第14回	<p>《グループワーク》 課題「生活に密着した新たなチェーンストアを提案する」の方針決定と資料作成③</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）</p>			
第15回	<p>課題発表 「生活に密着した新たなチェーンストアを提案する」 グループごとに、全員がパワーポイントによるプレゼンターとコメンターを実践する</p> <p>事前学習：上記記述について事前に語彙の内容等調べておくこと（60分程度） 事後学習：復習と課題レポートの作成、提出（60分程度）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>毎回資料をWebClassにアップし、パワーポイントによる説明と映像を参照しながら授業を進める。 毎回のレポートで授業の理解度を確認しつつ、次回授業の冒頭でフィードバックをする。 全員がプレゼンテーション課題を通じて、プレゼンターとコメンターを実践する。</p>			
アクティブラーニング	<p>PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／グループワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>講義で事例として取り上げる企業・店舗や商品のいくつかを実際に訪問したり使ってみたりすることで、理論と実際の両面から理解をする習慣を身につけてもらいたい。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>試験結果（40%）・課題レポートの内容（20%）・授業参画（毎回レポート・出席・態度）度合（40%）により総合的に評価する。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>（教員の実務経験と授業科目との関連） チェーンストア志向企業で40年間、店舗の実務経験から40店舗を超す新店開発実績、チェーン化のための仕組みづくり等幅広い経験をもとにし、本授業科目のチェーンストアの特徴や仕組み、生み出されたPB商品を手に取り、実践的に理解する教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜紹介する』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				

講義コード	120008602
講義名	ホスピタリティ論
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	河木 智規
ナンバリングコード	24F2E3202 19F2C3201

科目概要	「ホスピタリティ」は単なる”おもてなし”ではなく、多様な意味合いを含んだものである。その「ホスピタリティ」の本質とともに、サービス業以外にも広範な場面で必要となる考え方であることを解説する。テクノロジーの進化に併せ、人間が受け持つ役割が変化しつつあるが、多様な組織の中で持続可能な形でホスピタリティを発揮するための「ホスピタリティ・マネジメント」の考え方と手法を学習する。
達成目標	①「ホスピタリティ」の本質が理解できる。 ②「ホスピタリティ・マネジメント」の考え方を理解できる。 ③「ホスピタリティ・マネジメント」を実践するための手法を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	日常利用する各種サービスの現場の中で、「ホスピタリティ」がどの様に展開されているかに注目、観察し、それが実現されている仕組みを分析するとともに授業内で実践（ロールプレイング・グループワーク）してみる。
学位授与方針との関連	1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。 5. 社会人としての教養に関わる科目等
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス（講義全体の流れ、授業の進め方、レポートの提出方法、評価の仕方等を説明する） ホスピタリティの理解 ホスピタリティの起源（異人歓待の成り立ち） ホスピタリティの基本原理 《ホスピタリティに関するアンケートの実施》 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）
第2回	ホスピタリティとサービスの定義 ホスピタリティとサービスの相互作用の比較 ホスピタリティにある「対等となるにふさわしい共創的相関関係」の確認 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）
第3回	ホスピタリティの事例研究（1） テーマパークのホスピタリティ 「ジブリパークの見守る接客」 《ロールプレイング 「テーマパークのホスピタリティ体験」を再現する》 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）
第4回	ホスピタリティの事例研究（2） フードサービスのホスピタリティ① 「牛タンねぎしの親切」 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）
第5回	ホスピタリティの事例研究（3-1） フードサービスのホスピタリティ②-1 「スターバックス・コーヒーのシンプリサービス」 《ロールプレイング 「カフェのシンプリサービス」を体験する》 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）
第6回	ホスピタリティの事例研究（3-2） フードサービスのホスピタリティ②-2 「スターバックス・コーヒーのシンプリサービス」 《ロールプレイング 「カフェのシンプリサービス」を体験する》 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）
第7回	ホスピタリティの事例研究（4） 小売業のホスピタリティ 「無印良品の土着化」 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）
第8回	ホスピタリティの事例研究（5） ホテルのホスピタリティ 「カンデオホテルズの従業員のための経営」 事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）

第9回	<p>ホスピタリティの事例研究（6） ダイバーシティ&amp;クルージュにおけるホスピタリティ 「久遠チョコレートの輝く従業員」</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第10回	<p>「ホスピタリティ・マネジメント」の考え方の理解（1） 「狭義のホスピタリティ」と「広義のホスピタリティ」の定義 「組織関係者」の捉え方とそれぞれの「ウェルビーイング」の理解</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第11回	<p>「ホスピタリティ・マネジメント」の考え方の理解（2） 「組織関係者」それぞれの「ウェルビーイング」を相互に関連づけるための工夫</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第12回	<p>「ホスピタリティ・マネジメント」の考え方の理解（3） 組織関係者に共通する「持続可能な多元的最適共創」を考える 《課題設定 グループワークで「ホスピタリティ・マネジメントに基づくウェルビーイングなコンビニエンスストア」を提案する》</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第13回	<p>《グループワーク》 「ホスピタリティ・マネジメントに基づくウェルビーイングなコンビニエンスストア」方針決定と提案書の策定① 《模擬試験》</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第14回	<p>《グループワーク》 「ホスピタリティ・マネジメントに基づくウェルビーイングなコンビニエンスストア」方針決定と提案書の策定②</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（60分程度）</p>			
第15回	<p>「ホスピタリティ・マネジメント」で提案する 課題発表グループごと「ホスピタリティ・マネジメントに基づくウェルビーイングなコンビニエンスストア」を提案する 全員がプレゼンテーションを実践し、コメンテーターを経験する</p> <p>事前学習：資料の事前確認（60分程度） 事後学習：レポート作成・授業振り返り（90分程度）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>毎回資料をWebClassにアップし、パワーポイントによる説明と映像を参照しながら授業を進める。 毎回のレポートで授業の理解度を確認しつつ、次回授業の冒頭でフィードバックをする。 課題発表で全員がプレゼンテーションを経験する。 授業内で適宜、グループディスカッションを実施する。</p>			
アクティブラーニング	<p>PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／グループワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>講義で取り上げる企業や店舗を実際に訪問や利用してみて、理論的に学んだことを現場で確認する習慣を身に付けてもらいたい。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>試験結果（40%）、課題レポート（20%）、授業参画（レポート・受講態度、40%）</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>（教員の実務経験と授業科目との関連） フードサービス企業で40年超の実務経験の中でも、従業員教育の中で「ホスピタリティ・マネジメント」に重きを置いて指導をしてきた。 現在は「ホスピタリティ教育学会」で理事を務めながら、活動を進めている。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
「なし」				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
「ホスピタリティ・マネジメント」学原論	服部勝人	丸善株式会社	978-4-621-07693-4	
「ホスピタリティ・マネジメント入門」	服部勝人	丸善出版	978-4-621-07975-1	
（ゼロからつくるビジネスモデル）	井上達彦	東洋経済新報社	978-4-492-53417-5	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200007201
講義名	デザイン基礎
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	24F2B1101 19F2B2101

科目概要	Adobe Illustratorを使いデザイン制作の基礎を学習する。基礎的なコンピュータの操作方法からIllustratorの操作から応用技術までを実制作を通してトレーニングし、将来的に商品開発等の現場で活用できる基礎的知識と技術を習得する。
達成目標	デザインの制作プロセスを理解し、技術的ステージに合わせながらIllustratorを使って基本的なデザイン制作能力を身につける。テーマを踏まえながら自由な発想力で制作モチーフを考案し具現化できる力をつける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	連続した講義であるため毎回必ず出席すること。また、わからないことは質問して都度理解するように心がけること。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：デザインとは何か PCの操作説明 キーワード：Mac 予習・復習として、「好きなデザイン」について探してまとめること（90分）
第2回	Illustrator基本技術1 身の周りのデザインについて キーワード：Illustrator 予習・復習として、身のまわりのデザインを観察してまとめること（90分）
第3回	Illustrator基本技術2 企業とデザインについて キーワード：線、面 予習・復習として、線と面でできた身のまわりのデザインを探してまとめること（90分）
第4回	Illustrator基本技術3 自然科学とデザイン キーワード：デフォルメ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第5回	Illustrator基本技術4 都市のデフォルメ キーワード：コマンド 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第6回	Illustrator応用編1 文字で遊ぼうA キーワード：フォント 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第7回	Illustrator応用編2 文字で遊ぼうB キーワード：タイポグラフィ 予習・復習として、身の周りのデザインタイポグラフィを探してまとめること（90分）
第8回	Illustrator応用編3 レイアウトに挑戦 キーワード：レイアウト 予習・復習として、Illustratorでの画像のトリミングを練習すること（90分）
第9回	Illustrator応用編4 雑誌の表紙をつくってみよう キーワード：キャッチコピー 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第10回	プロダクトをつくろう1 アスキーデザインに挑戦 キーワード：テーマ、モチーフ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第11回	プロダクトをつくろう2 レーザーカッター用データの作成 キーワード：ベクターデータ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第12回	プロダクトをつくろう3 商品の包装デコレーション キーワード：パッケージング 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）

第13回	カレンダー制作1 シリーズを考える キーワード：シリーズ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）			
第14回	カレンダー制作2 日付部分制作 キーワード：フォーマット 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）			
第15回	カレンダー制作3 詳細部分制作 キーワード：アクセント 予習・復習として、これまで制作したデータをまとめること（90分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本講義はデザインの基本について、コンピュータを使用しながら実践の制作を通して体験的に理解する授業である。コンピューターを使用する上でのアカウントを確認しておくこと。出席は評価に特に反映しないが欠席が規程回数を超えれば喪失となる。また、授業で各回のテーマに基づいて制作されたデザインデータが評価対象となるので、出席だけして課題を提出しなければ不可となるので注意すること。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	学習する教室は、授業外でも自由に使用できる実習室なので、MacおよびIllustratorの使用方法は授業外でも積極的に練習すること。学習した技術をもとに、学外や学内での活動に活かせることが望ましい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業課題、メイン課題で制作したデザインデータを総合して評価する。授業課題40%、メイン課題60%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） PCIによるデザイン制作（ポスター、カタログ、WEBなど）に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目でのAdobe Illustratorを使ったデザイン実制作では、初歩的な取り扱いから実務で活かすことのできる応用操作の教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『Illustrator しっかり入門 増補改訂 第3版』	高野雅弘	SBクリエイティブ	4815624283	2025
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	なし			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200007801
講義名	パッケージデザイン
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	24F2B3302 19F2B3201

科目概要	Adobe Illustrator / Photoshopの基本的な概念理解とグラフィックデザインの色や形、効果、また基本的なレイアウトおよびパッケージデザインの導入について学ぶ。食品に関するビジュアル表現やパッケージの試作など、実際の制作プロセスを通して応用的なデザイン表現力を身に付ける。
達成目標	テーマに合わせた制作のプロセス学習を通して、応用的なデザインの知識、表現力およびパッケージデザインの制作概要を身に付ける。柔軟な発想によるテーマの発見や企画作成とAdobe Illustrator/Photoshopを使ったデザイン制作ができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	事前に「デザイン基礎」を履修しており、Adobe Illustratorについての基礎的な操作ができること。また、フード関係をはじめ、グラフィック、広告、企画、デザイン、パッケージ、ファッション、インテリア等の業界に興味があること、積極的にデザインについての学習に励む意欲があること。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：パッケージデザインとは パッケージを含めたデザインの基礎知識について キーワード：グラフィックデザイン、パッケージデザイン 予習・復習として、身の周りのデザインリサーチをまとめて（90分）
第2回	デザイン基礎演習1：IllustratorとPhotoshop IllustratorおよびPhotoshopの基本概念と操作（復習） キーワード：ベクター、ピクセル 予習・復習として、Illustrator、Photoshopの操作を練習すること（90分）
第3回	デザイン基礎演習2：トーンと配色 グラフィックデザインにおける配色について キーワード：色の3属性、トーン 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第4回	デザイン基礎演習3：オブジェクトとレイアウト グラフィックデザインにおけるレイアウトについて キーワード：オブジェクト、変形 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）
第5回	ロゴマークをつくってみよう テーマの企画作成～デザイン制作について キーワード：テーマ、モチーフ 予習・復習として、ロゴマークのリサーチをまとめて（90分）
第6回	パッケージデザイン制作演習1：良いデザインとは パッケージデザインのレイアウトを分析 キーワード：パッケージデザイン、レイアウト 予習・復習として、食品のパッケージデザインについてリサーチをまとめて（90分）
第7回	パッケージデザイン制作演習2：情報とレイアウト 必要情報、訴求情報のレイアウトについて キーワード：情報、レイアウト 予習・復習として、パッケージデザインの情報についてリサーチをまとめて（90分）
第8回	パッケージデザイン制作演習3：視点とコンテンツ テーマの設定～商品の企画、デザインについて キーワード：ビジュアル、ターゲット 予習・復習として、訴求力のあるパッケージデザインについてリサーチをまとめて（90分）
第9回	パッケージデザイン制作演習4：アイデアとプロトタイプ 企画をもとにしたデザイン制作 キーワード：アイデア、デザイン 予習・復習として、Illustrator、Photoshopの操作を練習すること（90分）

第10回	パッケージデザイン制作演習5：制作～講評 企画をもとにしたパッケージのモック（試作模型）制作 キーワード：パッケージデザイン、モック 予習・復習として、他の作品についての意見やアイデアをまとめること（90分）			
第11回	デザインの現場 パッケージデザインのワークフローを学ぶ キーワード：パッケージ 予習・復習として、既存の商品や店舗での展示状況を観察して意見をまとめること（90分）			
第12回	ラベルデザイン制作演習1：色とブランディング 消費者視点についてデザインの視点から分析 キーワード：ターゲット、ブランディング 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（90分）			
第13回	ラベルデザイン制作演習2：ラベル制作 Illustratorによるラベル制作 キーワード：サイズ、レイアウト 予習・復習として、Illustrator、Photoshopの操作を練習すること（90分）			
第14回	ラベルデザイン制作演習3：モック制作 ペットボトル商品のモック制作 キーワード：プロトタイプ、モック 予習・復習として、Illustrator、Photoshopの操作を練習すること（90分）			
第15回	ラベルデザイン制作演習4：販促制作 制作したモックを使った販促ツール制作 キーワード：ポスター、写真 予習・復習として、これまで授業で制作したデザインデータをまとめること（90分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本講義ではスクリーンに基づき各回の課題テーマに対する制作を通してデザイン及び色彩の理解を進める。講義中は講義を聞くと同時に、課題テーマに対する定義・考え方を適宜履修者自身のアイデアや企画についての考案が求められる。講義中のスクリーンや教員の講義内容はそれら現在の色彩デザインの具体例であったり実務からの知見であるので、指示がなくともこうした講義内容を適宜ノートなどに自身が事後的に確認できるように記入していくことは大切である。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	毎回の講義前にそれまでに学習したAdobe IllustratorおよびPhotoshopの操作を確認しておくことによって、アプリケーションの操作が上達するとともに思い通りの表現ができるようになる。また、授業での課題について積極的にオリジナリティのあるアイデアを出すことができるように、自分の視点や興味を中心にできる限り多くのものを様々な視点から観察したり調査すること。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	前半の授業課題、中間からのメイン課題で制作したデザインデータを総合して評価する。授業課題40%、メイン課題60%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 食品パッケージデザインおよびブランディング～ロゴデザインに関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目では、デザイン制作における色彩計画～バリエーション展開及び企画制作など、実践的な教育に展開実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なるほどデザイン（目で見て楽しむ新しいデザインの本。）』	筒井 美希	エムディエヌコーポレーション	4844365177	2015
『パッケージデザインの入り口』	小玉 文	エムディエヌコーポレーション	429520210X	2021
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	なし			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200026501
講義名	食とデザインⅡ
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	24F2Z6202 19F2B5201

科目概要	これからの「食」に関する可能性をデザインの視点から考え、表現とコミュニケーションの観点から「メディアとしての食」について学習する。
達成目標	課題やテーマについて論理性を持って考え、共有するための手法としての映像や音声を含めたデザイン表現ができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	授業ではiPadおよびイヤホンを持参すること。iPadに連動するタッチペンの持参を推奨する。デザイン制作、また動画や音声の収録や編集ができるiPadアプリケーションについては自主的な学習を進め、問題なく操作できるようにしておくこと。また、Adobe IllustratorやPhotoshopなどPCを使ったデザイン制作ツールについても自主的な学習を進めておくこと。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：「食べもの屋」って何だろう 飲食店について多視点からディスカッション キーワード：食、飲食店、形態 予習・復習として、飲食店についてリサーチと考察をまとめること（90分）
第2回	イメージ演習1：おいしいメディア メディアとしての食について キーワード：メディア、食 予習・復習として、これまでの印象的な食体験についてまとめること（90分）
第3回	イメージ演習2：食とオンライン 食とオンラインの関連について キーワード：レビュー、SNS 予習・復習として、店舗や商品のレビューについてまとめること（90分）
第4回	イメージ演習3：コミュニケーションとビジネス これからの食とビジネスについて キーワード：コミュニティ、場所 予習・復習として、気に入っている店舗についてリサーチをまとめること（90分）
第5回	おいしいビジネス1：食の新しいサービス 食に関する様々な新しいサービスについて キーワード：サービス、商品 予習・復習として、食に関するオンラインサービスについてリサーチをまとめること（90分）
第6回	おいしいビジネス2：課題発見とソリューション 食に関する課題分析とソリューションについて キーワード：ソリューション、ステークホルダー 予習・復習として、社会の中の食に関する課題についてリサーチをまとめること（90分）
第7回	おいしいビジネス3：アイデアとビジネスモデル アイデア～ビジネスモデル立案について キーワード：社会起業家、コンセプト 予習・復習として、社会起業家についてリサーチをまとめること（90分）
第8回	おいしいビジネス4：商品設計とデザイン サービスの業態とデザインについて キーワード：サービス、デザイン 予習・復習として、オンラインサービスのデザインについてリサーチをまとめること（90分）
第9回	デザイン・ワークショップ iPadを使ったデザイン制作のワーク キーワード：iPad、デザイン 予習・復習として、授業内で完了できなかった作業を進めること（90分）
第10回	店舗創造1：リサーチと企画 飲食店のリサーチ～オリジナル企画について キーワード：記憶、体験 予習・復習として、様々な飲食店舗についてリサーチをまとめること（90分）

第11回	店舗創造2：コンセプトと世界観 架空店舗のコンセプトメイキング～イメージ作成 キーワード：内装、メニュー 予習・復習として、AIを使ったイメージ作成に触れること（90分）			
第12回	店舗創造3：デザインとブランディング 目標立案～ブランディングについて キーワード：モチーフ、ロゴ 予習・復習として、授業内で完了できなかった作業を進めること（90分）			
第13回	店舗創造4：オープンポスター 企画のビジュアルメイキング キーワード：キャッチ、レイアウト 予習・復習として、授業内で完了できなかった作業を進めること（90分）			
第14回	店舗創造5：地域とビジネスモデル 地域への影響～ビジネスモデルについて キーワード：コミュニティ、コミュニケーション 予習・復習として、店舗と地域の関連についてリサーチをまとめること（90分）			
第15回	講評会 これまでの作品について振り返りと考察 キーワード：講評、考察 予習・復習として、「これからの食」に関する本を読むこと（90分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定の教科書は指定しないが、講義によるスクリーンに基づきテーマに合わせた課題制作によって理解をしながら進める。課題制作については、自らの意見を持った上でデザイン表現として取り組む。講義中は講義を聞くと同時に、自らのアイデアや制作について意欲的な取り組みが求められる。また、講義中のスクリーンや教員の講義内容はそれら現在までデザインの具体例であったり実務的な知見であるので、指示がなくとも、こうした講義内容で興味を持った事象については自身が事後的に調査できるようにしておくことは大切である。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	本講義の目的は「制作を通しながら、食とデザインについて知ること、考えること」であり、世の中で起こっている様々な事象について知ることが重要である。そのために自分の興味を広げた上で興味のある分野を見つけ、本講義を通して最低2冊の本を読むこと。（授業の中で適宜指示する）また評価は課題の制作物によって行うため、制作物のクオリティを向上させるために授業外での制作を推奨する。（授業内で制作が終了しなかった場合も同じ）			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	前半の授業課題、中間からのメイン課題での制作データを総合して評価する。授業課題40%、メイン課題60%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	食品パッケージデザインおよびブランディング～ロゴデザイン、WEB、アプリやシステム、撮影と動画制作、イベント企画運営までに関する実務経験を有しており、その実務経験と最新の知識をもとに本授業科目の設計や制作課題等を展開し、実務で活かすことのできる応用教育を実施する。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『フードテック革命 世界700兆円の新産業「食」の進化と再定義』	田中宏隆（著）、岡田亜希子（著）、瀬川明秀（著）、外村仁（監修）	日経BP	4296106716	2020
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	なし			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1100004001
講義名	芸術
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	24F1Z9202、22M1Z9202

科目概要	自然や人間に対するまなざしから文化としての芸術を捉えながら、様々な表現による実践を通して芸術に親しむことで、豊かな発想や想像力を育む。芸術の歴史から最先端の表現方法まで、幅広い視点から「みる力」と「表現する力」をつけ、今日の芸術の理解につなげる。
達成目標	芸術表現を通して、豊かな発想や想像力で「つくる（表現する）力」とともに、幅広い視点や観察力で「みる（鑑賞する）力」を身に付ける。描画材によるトレーニングをはじめ、様々な表現手法による作業を通じた発見から自分のアイデアを表現できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	制作に必要な道具や材料を適宜購入してもらうことがある。
学位授与方針との関連	5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。（情報メディア学科） 5. 社会人としての教養に関わる科目等（フードビジネス学科）
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：芸術とは何か 芸術の基礎知識について説明 キーワード：芸術 予習・復習として、キーワードについて調査して考えをまとめること（120分）
第2回	鉛筆デッサン1：デッサン基礎～鉛筆を使った陰影表現 デッサン、描画 キーワード：陰影 予習・復習として、鉛筆デッサンを練習すること（120分）
第3回	鉛筆デッサン2：デッサン応用～写真をモチーフにした陰影表現 モチーフデッサン キーワード：観察 予習・復習として、鉛筆デッサンを練習すること（120分）
第4回	鉛筆デッサン3：パースによる立体感の表現 立体デッサン演習 キーワード：パース、遠近法 予習・復習として、立体物のデッサンを練習すること（120分）
第5回	コラージュ作品制作1：要素とする素材収集 コラージュ素材集め キーワード：コラージュ 予習・復習として、身の周りのコラージュ制作物を探してまとめること（120分）
第6回	コラージュ作品制作2：要素とする素材収集 レイアウト、糊付け キーワード：レイアウト 予習・復習として、作品の不足素材を収集すること（120分）
第7回	コラージュ作品制作3：作品展示 作品の完成と鑑賞 キーワード：展示、鑑賞 予習・復習として、外部の展示スペースに足を運ぶこと（120分）
第8回	美術と表現：表現とは何か 近代芸術におけるドキュメンタリー作品の鑑賞、意見交換 キーワード：コンセプト、メッセージ 予習・復習として、芸術に関する映画やドキュメンタリーを鑑賞すること（120分）
第9回	美術館に行こう！：作品鑑賞力を鍛えてみよう 荻須記念美術館に行き作品鑑賞、模写 キーワード：鑑賞、模写 予習・復習として、他の美術館に足を運ぶこと（120分）
第10回	紙を使った表現I：ステンシル切り絵1～導入 切り絵モチーフを作成する キーワード：ステンシル 予習・復習として、切り絵の仕組みを練習して理解すること（120分）

第11回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵2～モチーフの作成 準備した下絵の補正作業を進める キーワード：下絵制作 予習・復習として、デザインナイフを使った切り絵を練習すること（120分）			
第12回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵3～切り出し 下絵をもとに切り絵を制作する キーワード：デザインナイフ 予習・復習として、デザインナイフを使った切り絵を練習すること（120分）			
第13回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵4～スプレーアート 完成した切り絵を版にスプレーで仕上げる キーワード：ステンシルアート 予習・復習として、ステンシルの仕組みについて理解を深め下絵作成を練習すること（60分）			
第14回	紙を使った表現1 I：ポップアップ1～制作練習 ポップアップ技術の基礎知識演習 キーワード：ポップアップ 予習・復習として、ポップアップの設計を練習すること（60分）			
第15回	紙を使った表現1 II：ポップアップ2～構成要素制作 テーマに合ったポップアップを制作 キーワード：仕組み、動き 予習・復習として、ポップアップの設計を練習すること（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定の教科書は指定しないが、講義によるスクリーンに基づき制作することで理解を深める。制作課題のテーマは一般的な事象やワードを提示するが、自由な発想でテーマを捉えオリジナリティを持った作品制作を期待する。基礎としてのデッサンおよびドローイングなど技術的養成だけでなく、コラージュなど感覚的養成を取り組むが、制作では積極性、意欲を評価するので、講義を聞くと同時に自らのアイデアや制作について意欲的な取り組みが求められる。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	講義では課題制作が主になるが、自分の中で制作物を「完成」させるために、積極的に制作に取り組んでほしい。授業時間内に完成できなかった場合は、時間外にて補完して完成させること。また、興味を持って美術館や展覧会に出かけることが望ましい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業での課題で制作した作品を総合して評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 企業における美術製作に関する実務経験を有しており、その実務経験を、本授業科目では「作品というものの多様性」また「作品制作のモチベーション」という観点から指導することで、作品制作における実践的な教育として実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『バンクシー ビジュアルアークタイプ』	ザビエル・タピエス	グラフィック社	476613141X	2018
『きりのなかのサーカス』	ブルーノ・ムナーリ	フレーベル館	4577036975	2009
『実物で学ぶしかけ絵本の基礎知識ポップアップ』	デビッド・A・カーター他著	大日本絵画	4499279100	2000
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	なし			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200010701
講義名	製菓実習
開講期	2026年度前期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	小川 博
ナンバリングコード	24F2E5201 19F2C5201

科目概要	洋菓子製造の基礎と衛生についてさまざまな材料と道具を用い基礎的な技法を身につけ、製菓機器の正しい取り扱い方も修得する。
達成目標	実習を通して、製菓理論を学び、フードビジネスとしての製菓技術を習得できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	1、2年次で受講した実習科目を通じて会得した技術・知識が必要となります。作成予定の献立について、製菓に関する知識が事前にあることが望ましい。
学位授与方針との関連	1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス・授業の進め方の説明 パウンドケーキ ロールケーキ 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第2回	シュークリーム（カスタードの作り方） フルーツの切り方練習（商品として提供するカットの仕方を学ぶ） 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第3回	シャルロット・オ・フレーズ 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第4回	バナナマフィン（バターをポマード状にする技術を学ぶ） クリーム・ブリュレ（バニラ・チョコレート） 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第5回	ブラウニー（バターをポマード状にする技術を学ぶ） クロックムッシュ 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）来週の生地の手入れもおこないます
第6回	チーズケーキ ジャム（食品の衛生について、ジャムの瓶の煮沸について） 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第7回	ガトーショコラ ババロア 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第8回	マドレーヌ プリン 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第9回	スコーン シフォンケーキ（メレンゲの立て方について学ぶ） 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第10回	マカロン（メレンゲの立て方について学ぶ） クレープ（飾りつけについて） 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）来週の生地の手入れもおこないます

第11回	キッシュ トウモロコシの冷製スープ 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）来週の生地の手入れもおこないます			
第12回	いちじくの焼きタルト フィナンシェ 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）			
第13回	モンブラン 桃のコンポート 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）来週の生地の手入れもおこないます			
第14回	ダクワーズ フロランタン 班で分かれて実習をおこないます。 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）来週の生地の手入れもおこないます			
第15回	フルーツのタルト （様々なフルーツを用い、製菓実習を通して得た知識・技術をまとめる） 事前学習：内容をシラバスで確認し予習しておくこと（60分程度） 事後学習：実習後、製菓実習を通して得た知識・技術をまとめる（60分程度）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	遅刻・早退は厳禁。常に衛生、一番食べてもらいたいひとに創るということを念頭に置いて実習に取り組む。 デモンストレーションもあるが、種類によっては同時進行もあるので創り方を覚えてから実習にのぞむこと。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	毎週2品作成するが、そのどちらかについてレシピの材料・作り方について、講義後レポート作成を実施する。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	実習態度、レポートにて評価する（100%）			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） 洋菓子店のオーナーシェフとしての実務経験を有している。実務経験をもとに本授業『製菓実習』における洋菓子製造の技法、知識、製菓機器取り扱い方について、実践的な教育をおこなっている。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200024901
講義名	商学
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	渡邊 正樹
ナンバリングコード	24F2Z2202 19F2Z2203

科目概要	商業とは、生産と消費を繋ぐ存在です。そこでは様々な組織と人が複雑に関わっており、背後にある流通システムの全容は日常生活で目にすることがありません。この普段は見えないプロセスを含む、商業全体の仕組みを、理論と事例を通じて明らかにしていくのが商学という学問です。
達成目標	授業で学んだ商学の基礎的な概念・理論を使って、現実の商業現象を理解することができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	商業に関心があり、より深く学ぼうという意欲があること。
学位授与方針との関連	1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	授業のガイダンス-「商業」とは何か？- キーワード：生産と消費 身近なお店をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえて身近なお店を分析する（60分）
第2回	商業とは何か キーワード：小売業者・卸売業者 商業を担っている企業・お店を調べる（60分）／授業内容を踏まえて、再度、商業を担っている企業・お店を調べる（60分）
第3回	百貨店の特徴 キーワード：ワンストップショッピング・呉服屋系／鉄道会社系 百貨店の売り場をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえて百貨店の売り場を分析する（60分）
第4回	スーパーマーケットの特徴 キーワード：セルフサービス・チェーン経営 スーパーマーケットの売り場をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえてスーパーマーケットの売り場を分析する（60分）
第5回	コンビニエンスストアの特徴 キーワード：多頻度小口配送・ドミナント戦略 コンビニエンスストアの売り場をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえてコンビニエンスストアの売り場を分析する（60分）
第6回	ショッピングセンター・商店街の特徴 キーワード：所有と経営の分離・ディベロッパー イオンの売り場をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえてイオンの売り場を分析する（60分）
第7回	インターネットと商業 キーワード：EC・レコメンデーション 楽天市場のサイトをよく観察する（60分）／授業内容を踏まえて楽天市場のサイトを分析する（60分）
第8回	SPAの特徴 キーワード：SPA・速度の経済 ユニクロの売り場をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえてユニクロの売り場を分析する（60分）
第9回	均一価格店の特徴 キーワード：大量仕入れ・ローコストオペレーション 100均ショップの売り場をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえて100均ショップの売り場を分析する（60分）
第10回	卸売業者とロジスティクス キーワード：ロジスティクス 卸売業界にはどのような企業が存在するか調べる（60分）／授業内容を踏まえて、再度、卸売業界にはどのような企業が存在するか調べる（60分）

第11回	地域社会と商業 キーワード：公共性 住んでいる地域の商業について調べる（60分）／授業内容を踏まえて、再度、住んでいる地域の商業について調べる（60分）			
第12回	商業を巡る問題① -流通構造の変化- キーワード：流通革命 50年前の日本の商業について調べる（60分）／授業内容を踏まえて、再度、50年前の日本の商業について調べる（60分）			
第13回	商業を巡る問題② -食品ロス- キーワード：在庫・3分の1ルール 日本の食品ロスの現状について調べる（60分）／授業内容を踏まえて、日本の食品ロスの現状について分析する（60分）			
第14回	商業を巡る問題③ -その他- キーワード：物価高・人手不足 商業に関する最新のニュースについて調べる（60分）／授業内容を踏まえて、商業に関する最新のニュースについて分析する（60分）			
第15回	商業の未来 キーワード：変わるもの・変わらないもの 20年後の商業について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身近なお店を分析する（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎回、スライドによる講義に加え、映像資料とミニレポートを組み合わせた、学生が主体的に取り組むことのできる課題を課します。ミニレポートについては、次の授業の冒頭で振り返りを行い、優れたものを紹介（匿名）していきます。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	普段の生活の中で商品やサービスに接する場面では、授業で学んだことを思い起こしながら、企業やお店は、その商品やサービスを提供するために、どのような工夫をしているのか、あるいは、それらを購入する消費者は、どのようなところに魅力を感じているか等について、考えてみるようにしましょう。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	成績は、定期試験50%、平常点（授業中の課題・授業への貢献）50%で評価			
教員の実務経験と授業科目との関連	担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。その経験から、商業に関連する様々な課題についてより実践的な解説を行っていきます。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『1からの流通論（第2版）』	石原武政・竹村正明・細井謙一	碩学舎	978-4502283611	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	授業の中で紹介していきます			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200008903
講義名	マーケティング論
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	渡邊 正樹
ナンバリングコード	24F2A3201 19F2A3201

科目概要	品質の良い（おいしい）商品を作るだけでは商品は売れません。商品の価値がパッケージや売場、広告等を通して他者（消費者・取引先）に伝わり、かつ適切な価格で販売されなければ、良い商品だとは思ってもらえないからです。この良い商品だとわかってもらうためのコミュニケーションと、その方法について学ぶのがマーケティング論です。
達成目標	授業で学んだマーケティング論の基礎的な概念・理論を使って、現実のマーケティング現象を理解することができる
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	・マーケティングに関心があり、より深く学ぼうという意欲があること ・後期の「ブランド論（広告論）」「商品開発Ⅰ（商品開発）」を履修予定の学生は、この「マーケティング論」を履修しておくことが望ましい
学位授与方針との関連	1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	授業のガイダンス-「マーケティング」とは何か？- キーワード：コミュニケーション 好きな商品がなぜ売れているのか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第2回	マーケティングの基本概念 キーワード：顧客満足・STP・4P 好きな商品の品質以外の要素について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第3回	製品のマネジメント キーワード：製品コンセプト 「コンセプト」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第4回	価格のマネジメント キーワード：価格競争・需要の価格弾力性 「適切な価格」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第5回	広告のマネジメント キーワード：プロモーションミックス 「広告」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第6回	チャネルのマネジメント（1） キーワード：マーケティング・チャネル コンビニの売り場にどんな商品が並んでいるか確認してみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第7回	チャネルのマネジメント（2） キーワード：チャネル別ブランド戦略・オムニ・チャネル 好きな商品がどこで売っているか、それはなぜなのか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第8回	サプライチェーンのマネジメント キーワード：SCM・SPA 「サプライチェーン」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第9回	営業のマネジメント キーワード：ルート営業・提案型営業 「営業担当者はなぜ必要か」考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）

第10回	顧客関係のマネジメント キーワード：CRM・関係性パラダイム 好きなブランドと自分との関係について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第11回	ビジネスモデルのマネジメント キーワード：ビジネスエコシステム 「ビジネスモデル」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第12回	顧客理解のマネジメント キーワード：マーケティング・リサーチ 「マーケティングリサーチ」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第13回	ブランドのマネジメント キーワード：ブランド・エクイティ・ブランド・アイデンティティ 「ブランド」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第14回	社会責任のマネジメント キーワード：CSR 企業と社会との関係について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第15回	マーケティング思考の可能性 キーワード：コミュニケーション これまでの講義資料の復習（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎回、スライドによる講義に加え、映像資料と小レポートを組み合わせた、学生が主体的に取り組むことのできる課題を課します。課題のフィードバックは、次の授業の冒頭で行います。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	普段の生活の中で様々な商品に接する場面では（インターネット・TVCM・店舗の商品など）、授業で学んだことを思い起こしながら、企業はどういう意図で、そのような商品を開発・販売したのか、あるいは、それを利用している消費者は、なぜその商品を買っているのか等について、考えてみるようにしましょう。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	成績は、定期試験50%、平常点（授業中の課題・授業への貢献）50%で評価			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。その経験から、マーケティングに関連する様々な課題についてより実践的な解説を行っていきます。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『1からのマーケティング（第5版）』	石井淳蔵・廣田章光・清水信年	碩学舎	978-4502558412	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	授業の中で紹介していきます			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120009001
講義名	広告論
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	渡邊 正樹
ナンバリングコード	24F2A4203、19F2Z4202、19M4D3302

科目概要	ブランドはとても不思議な存在です。製品やサービスの品質はそこそこでも、あるブランドの商品というだけで高い価格で売れてしまうことがあります。そのブランドの愛用者であることが、その人の価値観や生き方まで示す場合もあります。このブランドが価値を生み出す仕組みとブランドの力を活かす方法について学ぶのがブランド論です。このことを理論と事例を通じて学んでいきます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学んだブランド論の基礎的な概念・理論を使って、現実のブランド現象を理解することができる。</li> <li>・ 自身で広告計画を立案する力を身につける。</li> </ul>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブランドに関心があり、より深く学ぼうという意欲があること。</li> <li>・ 「マーケティング論」を履修しておくことが望ましい。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。</li> <li>2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。</li> <li>4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。</li> </ol>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	授業のガイダンス -「ブランド」とは何か？- キーワード：コミュニケーション 身の回りの商品のブランドをよく観察する（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第2回	ブランドとマーケティング キーワード：STP・4P マーケティングとブランドがどう関わっているか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第3回	ブランドと価格競争 キーワード：コモディティ化 身の回りの商品の価格競争を確認する（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第4回	ブランドと知識構造 キーワード：ブランド認知・ブランドイメージ 身の回りの商品のブランドイメージについて考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第5回	ブランドとコンタクト・ポイント キーワード：コンタクト・ポイント 好きなブランドを思い浮かべ、そのブランドと自分との接点について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第6回	ブランドと消費者行動 キーワード：ブランド・コミュニティ 好きなブランドを思い浮かべ、なぜ好きなのかじっくり考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第7回	地域ブランド キーワード：地域ブランド ブランド力があると思う地域を思い浮かべ、なぜそうなのかじっくり考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて様々な地域を分析する（60分）
第8回	広告を巡る状況 キーワード：広告代理店・「日本の広告費」 電通ホームページ内「日本の広告費」の内容を確認しておく（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）
第9回	広告計画（1）-基本計画- キーワード：マーケティング課題 広告制作で考慮すべき項目について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）
第10回	広告計画（2）-広告目標の設定・表現計画- キーワード：広告コンセプト・表現コンセプト 好きなブランドの広告に、どのようなメッセージが込められているか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）

第11回	<p>広告計画（3）－ 媒体計画①インターネット広告 －          キーワード：媒体計画・トリプルメディア          好きなブランドが、どのようなメディアに広告を出しているか確認する（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第12回	<p>広告計画（4）－ 媒体計画②マスコミ四媒体 －          キーワード：媒体計画・マスコミ四媒体          好きなブランドが、どのようなメディアに広告を出しているか確認する（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第13回	<p>広告計画（5）－ 広告効果の測定 －          キーワード：行動変容・態度変容          広告の効果を測定する方法について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第14回	<p>広告の公共性          キーワード：広告規制・景品表示法          広告に規制が存在する理由について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえ身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第15回	<p>ブランド・広告の未来          キーワード：変わるもの・変わらないもの          20年後のブランド・広告について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえ身の回りのブランド・広告を分析する（60分）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>毎回、スライドによる講義に加え、映像資料と小レポートを組み合わせた、学生が主体的に取り組むことのできる課題を課します。小レポートについては、次の授業の冒頭で振り返りを行い、優れたものを紹介（匿名）していきます。</p>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>普段の生活の中で様々な商品やブランドに接する場面では（インターネット・TVCM・店舗の商品など）、授業で学んだことを思い起こしながら、企業はどういう意図で、そのような商品を販売しているのか、あるいは、それを購入する消費者は、どのような思いをその商品に抱いているのか等について、考えてみるようにしましょう。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>成績は、定期試験50%、平常点（授業中の課題・授業への貢献）50%で評価</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。そのうち4年間はブランド・マネジメント部に所属していました。その経験から、ブランドに関連する様々な課題についてより実践的な解説を行っていきます。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業の中で紹介していきます				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	電通「日本の広告費」	<a href="https://www.dentsu.co.jp/knowledge/ad_cost/">https://www.dentsu.co.jp/knowledge/ad_cost/</a>		
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200026001
講義名	商品開発
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	渡邊 正樹
ナンバリングコード	24F2A4202 19F2A4203

科目概要	新商品のアイデアを考えて出し合うだけでは、商品開発は進みません。様々な部署の人達が関わり、社長や役員といった経営層の関心も高い商品開発には、一定のプロセスを経て進めていくことが求められます。また、マーケティングで重要とされる「顧客ニーズ」も、適切な方法で確認しなければ、顧客のホンネを捉えることはできません。この授業では、「顧客ニーズ」を適切に把握するための方法と、それを踏まえ商品開発を組織的に進めていくプロセスについて学んでいきます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学んだ商品開発の基礎的な理論・手法を使って、現実の商品開発とその方法について理解することができる。</li> <li>・ 自身で新商品の企画書を作成する力を身につける。</li> </ul>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商品開発やマーケティングに関心があり、より深く学ぼうという意欲があること。</li> <li>・ 「マーケティング論」を履修しておくことが望ましい。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。</li> <li>2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。</li> <li>4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。</li> </ol>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	授業のガイダンス-「商品開発」とは何か？- キーワード：商品開発 好きな商品がなぜ売れているのか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第2回	商品企画プロセス キーワード：探索的調査・コンセプトデザイン・検証的調査 教科書1章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第3回	インタビュー法 キーワード：グルーピングインタビュー・デプスインタビュー 教科書2章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第4回	観察法 キーワード：観察法・エスノグラフィー 教科書3章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第5回	リード・ユーザー法 キーワード：ユーザーイノベーション・価値共創 教科書4章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第6回	アイデア創出 キーワード：発想法・ブレインストーミング 教科書5章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第7回	コンセプト開発 キーワード：アイデア・ベネフィット 教科書6章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第8回	プロトタイピング キーワード：プロトタイピング 教科書7章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第9回	市場規模の確認 キーワード：類似性に基づく推定・比率連鎖法 教科書8章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）
第10回	競合・技術の確認 キーワード：3C分析 教科書9章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）

第11回	顧客ニーズの確認 キーワード：アンケート調査・会場テスト・ホームユーステスト 教科書10章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）			
第12回	商品企画とマーケティングミックス キーワード：マーケティングミックス・4P 教科書11・12・13章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）			
第13回	企画書作成・プレゼンテーション キーワード：企画書・プレゼンテーション 教科書14・15章の予習（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）			
第14回	新商品企画書の作成（1） キーワード：企画書 新商品企画・課題の作成（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）			
第15回	新商品企画書の作成（2） キーワード：プレゼンテーション 新商品企画・課題の作成（60分）／教科書「考えてみよう」の復習（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎回、スライドによる講義に加え、映像資料とミニレポートを組み合わせた、学生が主体的に取り組むことのできる課題を課します。ミニレポートについては、次の授業の冒頭で振り返りを行い、優れたものを紹介（匿名）していきます。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／プレゼンテーション			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	授業の前後に、教科書の該当箇所を読むようにしてください。また、普段の生活の中で様々な商品に接する場面では（インターネット・TVCM・店舗の商品など）、授業で学んだことを思い起こしながら、企業はどういう意図で、そのような商品を開発・販売したのか、あるいは、それを利用している消費者は、なぜその商品を買っているのか等について、考えてみるようにしましょう。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	成績は、レポート50%（新商品企画書）、平常点（授業中の課題・授業への貢献）50%で評価			
教員の実務経験と授業科目との関連	担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。そのうち4年間はマーケティング・リサーチ部門に所属していました。その経験から、商品開発に関連する様々な課題についてより実践的な解説を行っていきます。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
1からの商品企画	西川英彦・廣田章光（編著）	碩学舎	978-4502693007	
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業の中で紹介していきます。				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120006501
講義名	簿記
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	吉田 洋
ナンバリングコード	24F2Z1102 19F2Z1102

科目概要	簿記とは、企業の経営活動を貨幣数値によって把握するための記録計算システムである。すべての会社は規模や業種、業態を問わず、企業会計原則などのルールに則って帳簿をつけ、財政状態や経営成績を示す財務諸表を作成する。本講義の目的は、簿記によってビジネスの模擬体験を行うとともに、複式簿記の基本原則・手続きを学び、その重要性を理解することである。日商簿記初級に合格できる力を身につける。
達成目標	損益計算書、貸借対照表の基本構造が説明でき、その内容が説明できること。 基本的な取引の仕訳ができること。 簿記一巡の手続きが理解できること。 日商簿記初級に合格できること。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	予備知識 電卓がスムーズに操作できること。 企業会計、原価計算、ITストラテジの基礎科目となる。
学位授与方針との関連	1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス フードビジネスと簿記、簿記の歴史 簿記の目的、簿記の種類、フードビジネスになぜ簿記の知識が必要か理解する。 簿記の主要な目的を理解する。簿記の種類を理解する。簿記の歴史を学ぶ。 事前学修:教科書の特別企画を熟読しておくこと。60分 事後学修:キーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 経済活動の記録計算
第2回	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表 事前学修: 貸借対照表の仕組みを理解する。事前学修:教科書第1章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:キーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 資産、負債、純資産（純資産）
第3回	収益、費用と損益計算書 損益計算書の仕組みを理解する。事前学修:教科書第1章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:キーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 収益、費用
第4回	貸借対照表と損益計算書の作成 1週から3週の授業を理解し、課題を作成してください。事前学修:教科書第1章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:キーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 簿記の目的、貸借対照表、損益計算書
第5回	商品売買 三分法 商品売買の取引を理解する。掛取引、クレジットカード、返品等の取引も学ぶ。事前学修:教科書第2章をよく読んで練習問題を事前に 解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 三分法、クレジットカード、返品
第6回	現金・預金 現金・預金の仕訳を理解する。事前学修:教科書第3章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 他人振出小切手、当座預金、普通預金、定期預金
第7回	手形と電子記録債権・債務 手形と電子記録債権・債務の仕訳を理解する。事前学修:教科書第4章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 約束手形、電子記録債権
第8回	貸付金・借入金 お金を貸し付けたときの仕訳とお金を借り入れたときの仕訳を理解する。事前学修:教科書第5章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 貸付金、借入金
第9回	その他の取引 1 その他の取引の仕訳を理解する。事前学修:教科書第6章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 商品以外の取引、旅費の前渡し、仮払金
第10回	その他の取引 2 その他の取引の仕訳を理解する。事前学修:教科書第6章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 仮受金、諸掛かり、給料、預り金、消耗品

第11回	固定資産の仕訳を理解する。事前学修:教科書第7章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 固定資産の購入、売却、減価償却			
第12回	租税公課と消費税・資本金 租税公課と消費税・資本金の仕訳を理解する。事前学修:教科書第8章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 固定資産税、消費税、資本金、店主			
第13回	帳簿 帳簿組織について理解する。事前学修:教科書第9章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 仕訳帳、総勘定元帳			
第14回	試算表 試算表の意義と作成方法を理解する。事前学修:教科書第10章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 合計試算表、残高試算表、合計残高試算表			
第15回	伝票と仕訳日計表 伝票と仕訳日計表の意義と作成方法を理解する。事前学修:教科書第11章をよく読んで練習問題を事前に解答しておくこと。60分 事後学修:仕訳の復習とキーワードをレポートとしてまとめておくこと。60分 キーワード: 三伝票制、仕訳日計表と総勘定元帳への転記  日商簿記初級サンプル問題を解く。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎時間、前半は講義、後半は問題演習の繰り返しにより授業を進める。テキストは必ず購入すること。電卓を持参すること。前半は講義、後半は問題を解いてもらいます。問題演習はグループを作り、解答をグループごとに発表してもらいます。簿記の講義は続いているので、欠席すると理解できなくなります。フィードバックの方法:課題は返却して、解説をします。定期試験の解答は WebClassに掲載する。採点後の答えは個別に解説を行う。			
アクティブラーニング	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) / ディスカッション、ディベート / プレゼンテーション / グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	教科書の指定された箇所を事前に読んでおくこと。 簿記学修のアプリを紹介する。講義後、繰り返し練習問題を解くこと、簿記力は向上します。授業内 ループリックを使用。			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	4回の課題提出(各10点 ✖ 4回=40点、40%)状況と定期試験(60%)により評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	民間企業で内部監査業務を行なった。 税理士資格を有している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる 日商簿記初級第3版 (スッキリわかるシリーズ)	滝澤 ななみ (著), TAC出版開発グループ (著)	TAC出版	978-4813287360	2023
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『日商簿記検定の受験を希望する者は検定対策用テキストを紹介する。』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	日本商工会議所	<a href="http://www.kentei.ne.jp">http://www.kentei.ne.jp</a>	簿記検定を受けたい方はぜひ見てください。	
2.	日本簿記学会	<a href="https://www.bokigakkai.jp">https://www.bokigakkai.jp</a>	簿記に関する学術団体です。	
3.				
4.				
5.				

講義コード	120013401
講義名	情報メディア論
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	長谷川 聡
ナンバリングコード	22M2Z1103

科目概要	「情報メディア」とは何か。「情報」と「メディア」の性質を、具体例を挙げて解説する。また、デジタルメディアのしくみと社会的な影響についても触れ、これからの情報メディアの発展についても考える。
達成目標	「情報メディア」の意味と性質を知り、デジタル情報メディアの仕組みと応用分野について理解できる。「情報メディア」にかかわる幅広い分野に興味を持って自ら学ぶ姿勢を身につける。学習によって、「情報メディア」に関する基本的知識が身につく、より専門的な各分野との関係が理解できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	高等学校「情報」の知識と、情報メディア学科4コースの学びとの橋渡しとなる。 情報メディア学科のすべての専門教育科目（専門基礎・専門科目）の基礎となる概論。 LMS (WebClass) を利用する。無償配布のiPadを活用する。 授業中だけでなく予習・復習にもiPadとインターネットを利用する。（無償配布または各自のiPadが必要）
学位授与方針との関連	1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	「情報メディア」とは何か 名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科の学びと「情報メディア」 キーワード：メディア (media) 復習：授業内容の復習とノートの整備（ノートは紙でもデジタルデータでもよい）（90分）
第2回	「情報メディア」の分類（1）：「情報メディア」の具体例、「情報メディア」の機能 キーワード：表現メディア、伝達メディア、記録メディア 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備（ノートは紙でもデジタルデータでもよい）・課題レポート（90分）
第3回	「情報メディア」の分類（2）：〇〇メディア キーワード：マルチメディア、マスメディア、ソーシャルメディア 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第4回	「デジタルとアナログ」 キーワード：デジタルメディア、アナログメディア 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）電子ポートフォリオ作成
第5回	「情報デザインとピクトグラム」：情報メディア技術の発展と社会、コミュニケーション キーワード：ピクトグラム、コミュニケーション、情報デザイン、ユニバーサルデザイン 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第6回	「デジタルメディアが拓く未来」：情報メディアのデジタル化と発展 キーワード：インタラクティブ、リアルタイム、VR/AR/MR、メタメディア、メディアミックス戦略 予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第7回	「アプリと開発」：情報メディア技術を支えるシステム開発とモバイル技術 キーワード：モバイルアプリ、情報システム、システム開発、インテグレーション 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答・課題作成（90分）
第8回	「コンピュータはメディア」：メディアの発展とコンピュータ キーワード：コンピュータ、電子計算機、コンピュータネットワーク、WWW、SNS 予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第9回	「新しい情報メディア技術」：情報メディアの発展 キーワード：VR・AR、ドローン、Society5.0、超スマート社会、AI（人工知能） 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答・課題作成（90分）
第10回	「画像と映像」（iPadアプリ：ガレージバンド、ラジオ、コマ撮りアニメなど） ＜映像メディアの活用＞映像の表現（映像編集） キーワード：画像の標準化・量子化、サンプリングレート、周波数、ビデオレート、映像メディア 予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第11回	「色のしくみとデジタル化」：色のデジタル化、デジタル化の意味と課題 キーワード：データサイズ、色のしくみ、色のユニバーサルデザイン 予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）

第12回	<p>「音と映像」：音声メディア、テレビと情報メディア          キーワード：デジタルサウンド、音声、メディアの特性          予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分）          復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS（WebClass）で確認問題に解答（90分）</p>			
第13回	<p>「漫画とAIとメディア論」：漫画を通してメディアの性質を学ぶ          キーワード：絵記号、メディアの歴史、デジタル化、AI、メディア論          予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分）          復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS（WebClass）で確認問題に解答（90分）</p>			
第14回	<p>「人間」と情報メディア：ヒューマンインタフェース、人間工学、AI（人工知能）と情報メディア          キーワード：HI、HCI、UI、HCD、AI、情報メディアの発展          予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分）          復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS（WebClass）で確認問題に解答・課題作成と提出（90分）</p>			
第15回	<p>「メディアリテラシー」：メディアの性質とメディアリテラシー          キーワード：メディアリテラシー、情報モラル          予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分）          復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS（WebClass）で確認問題に解答（90分）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>授業は、授業中の講義、LMS上の資料、インターネット上の情報などを活用して行う。各自でノート（紙媒体でもデジタルデータでもよい）を作成して情報・知識をまとめること。LMS（WebClass）の確認問題は、正解が示されるので各自で復習すること。作品制作課題は、受講生間で情報を共有して、お互いに鑑賞・批評する。共有した作品や提出されたレポートの内容について授業中にコメント（またはフィードバック期間にLMSに掲載）する。</p>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>授業に参加するだけでなく、高校までの学習内容や、前週までの内容を復習しておく必要がある。復習した内容の理解度は、LMS（WebClass）で確認問題に解答することで各自でチェックできる。作品制作やレポート課題は、企画・情報収集・制作／レポート作成・自己評価を十分な時間を各自で確保して実施すること。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>LMS（WebClass）の確認問題の得点（50%）、提出課題・提出作品・提出レポート（50%）。試験期間の期末試験は実施しないが、上記の評価で不合格となった場合は、情報メディア学科の学生は必修であり、受験資格があれば、各自で再試験手続きを行って追再試験期間に再試験を受けること。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>（教員の実務経験と授業科目との関連）          情報システム、人工知能システムの開発に関する実務経験と、情報システム部門としてコンピュータネットワークによる社内コミュニケーションの普及活動および実務利用の経験を有し、情報メディアのしくみと業務での利用の教育に活かしている。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200017304
講義名	プログラム演習 I
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	演習
担当教員	長谷川 聡
ナンバリングコード	22M2Z2101

科目概要	C言語によるプログラミングの演習を行う。C言語は、実用アプリケーションの開発、ゲーム開発、CGや画像処理、数値計算や研究用、機械制御など応用範囲が広く、ほとんどの情報処理技術者が身につける言語であるといえる。この授業では、実際にコンピュータに向かってC言語でプログラムを作りながら基本事項を学ぶ。
達成目標	基本的なプログラミングから始めて、C言語による構造化プログラミングの技能を養い、関数を使ったC言語のプログラミングスタイルを身につけるまでを前期（プログラム演習I）の目標とする。読みやすい標準的な書式でプログラムを書くことができ、自ら考えて問題解決に利用できるプログラミングの能力が身につく。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	必修科目「プログラミング入門」でプログラムによる問題解決について理解していること、および、基本的な「情報リテラシー」を持つことを前提とする。本授業で学ぶ内容は、4コースのすべてに関連し、教職課程（高校教科「情報」でのプログラミング教育）にも関連する。特に、情報システムコースの「プログラム演習II」は本授業の継続の内容である。また、情報システムコースの「プログラム演習III」「IV」を含むすべての専門科目の基礎でもある。
学位授与方針との関連	1.情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている 3.専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション この講義の位置づけと意義、プログラミングのしくみとC言語の応用範囲 第0章 準備 第1章 さっそくプログラミング 復習：手順に沿ってプログラミングができるように情報実習室のパソコンで実践（120分）
第2回	第2章 変数と値① キーワード：変数、値、データ型 予習：第2章前半の例題を読んで理解に努める（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第3回	第2章 変数と値② キーワード：キーボードからの値の入力、乱数の発生 予習：第2章後半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第4回	第3章 演算と演算子① キーワード：算術演算、演算子、代入 予習：第3章前半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第5回	第3章 演算と演算子② キーワード：乱数の発生 予習：第3章後半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第6回	第4章 制御構造（1）分岐① キーワード：if文 予習：第4章前半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第7回	第4章 制御構造（1）分岐② キーワード：switch文 予習：第4章後半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第8回	第5章 制御構造（2）反復① キーワード：while文、do～while文 予習：第5章前半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第9回	第5章 制御構造（2）反復② キーワード：for文 予習：第5章後半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）
第10回	第6章 制御構造（3）発展と応用① キーワード：無限ループ、break文、continue文 予習：第6章前半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）

第11回	第6章 制御構造（3）発展と応用② キーワード：多重ループ 予習：第6章後半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）			
第12回	第7章 関数（1）関数をつくる① キーワード：関数の定義・呼び出し・宣言、変数の有効範囲 予習：第7章前半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）			
第13回	第7章 関数（1）関数をつくる② キーワード：return文と関数、関数の設計と応用 予習：第7章前半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）			
第14回	第8章 関数（2）引数と返却値① キーワード：関数の引数と返却値 予習：第8章前半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（90分）			
第15回	第8章 関数（2）引数と返却値② キーワード：再帰 予習：第8章後半の例題を読む（30分） 復習：残った問題と提出課題（120分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	授業中に情報実習室で課題に取り組むので、分からないことは必ず質問すること。疑問点には個別に対応する。提出課題は、コンパイル・実行して動作確認をした後、ソースコードを提出すること。提出された課題について次の回に解説・個別指導する。全体のフィードバックは成績フィードバック期間に実施する。			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	教科書の例題は読んで理解に努めること。 問題のプログラムは、パソコンかiPadで動作確認すること。 遅れた分は次週までに各自オープン実習でやっておくこと。 ルーブリック使用：有			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	毎回出席してプログラミングを実践すること。授業中の実践（50%）提出課題（50%）。試験は行わない。プログラミングの実践が不十分で、追・再試験の対象となった場合は、不足分のプログラミングを補完することを単位認定の条件とする。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 情報システム、人工知能システムの開発に関する実務経験を有しており、大規模システム開発の実践ノウハウおよび実務で培ったプログラミングの実践スキルを、本授業のプログラミング演習の教育指導に全面的に活かしている。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『増補新訂版 よくわかるC言語 -イメージと例題で理解する Step ABC』（2023年初版発行）	長谷川聡 著	近代科学社	978-4-7649-0665-5	紙冊子版または電子書籍版
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200017201
講義名	プログラミング入門
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	石郷 祐介
ナンバリングコード	22M2Z1101

科目概要	本講義では、プログラミングを行う上で必要となるコンピュータの基本的な動作原理および情報工学の基礎知識を理解することを目的とする。特に、順次・分岐・反復といった手続き型プログラミングの基盤となる考え方やプログラミングパラダイムの理解を深める。前半では、ビジュアルプログラミング言語「Scratch」を用い、既存のゲームタイトルの動作を模倣する演習を通して、動作原理を把握し、計算モデルに落とし込む視点を養う。後半では、テキストベースのプログラミング言語「p5.js」を扱い、「Scratch」で学習した概念との対応関係を整理することで、テキストベースプログラミング言語に共通する構造や考え方を理解する。
達成目標	コンピュータの基本動作や情報工学の基礎知識を身につけ、プログラミングの考え方を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	マウスやキーボード等のコンピュータの基本的な操作方法。
学位授与方針との関連	1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている 2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	【オリエンテーション】 プログラミング学習の事前準備として、受講者が持っているプログラミングのイメージを共有しながら、プログラミングとはどのようなものなのかを理解する。 プログラミング言語の種類と、それぞれの役割について解説する。講義で使用するビジュアルプログラミング環境「Scratch」の使い方を理解する。  事前学修：シラバスを確認し授業全体を把握（60分） 事後学修：資料#1を確認し、講義の復習をする（60分）
第2回	【プログラミングの基本（1）】 「Scratch」でハードルゲームを作成する。 プログラミングにおける座標を理解する。ブロックの基本的な使い方、コスチューム・背景の変更を学ぶ。  事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料#1を確認し、講義の復習をする（60分）
第3回	【プログラミングの基本（2）】 チュートリアルをもとに「Scratch」のマウス入力、キーボード入力を理解する。  事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料#2を確認し、講義の復習をする（60分）
第4回	【プログラミングの基本（3）】 じゃんけんゲームを作成して、条件分岐を理解する。 オブジェクトを避けるゲームを作成して、反復と条件分岐を用いた「当たり判定」を理解する。  事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料#3を確認し、講義の復習をする（60分）
第5回	【プログラミングの基本（4）】 リズムゲームを作成して、「メッセージ」を理解する。 音楽ゲームを作成して、「クローン」を理解する。  事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料#4を確認し、講義の復習をする（60分）
第6回	【コビベゲーム制作（1）】 市販されているゲームの一部をScratchで完全再現する。 テーマ決め、スプライト画像作成  事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料を確認し、講義の復習をする（60分）
第7回	【コビベゲーム制作（2）】 市販されているゲームの一部をScratchで完全再現する。 スプライトの動きの再現  事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料を確認し、講義の復習をする（60分）
第8回	【コビベゲーム制作（3）】 市販されているゲームの一部をScratchで完全再現する。 スプライトアニメーションの再現  事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料を確認し、講義の復習をする（60分）

第9回	<p>【コビベゲーム制作（4）】 市販されているゲームの一部をScratchで完全再現する。 当たり判定の再現</p> <p>事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第10回	<p>【コビベゲーム制作（5）】 市販されているゲームの一部をScratchで完全再現する。 スコア等の変数を用いた箇所の再現</p> <p>事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第11回	<p>【コビベゲーム制作（6）】 市販されているゲームの一部をScratchで完全再現する。 ゲーム画面以外の再現</p> <p>事前学修：Scratchについて予習（60分） 事後学修：資料を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第12回	<p>【テキストベースプログラミングへの移行（1）】 「Scratch」で作ったプログラムを、JavaScriptで動作するプログラミング環境「p5.js」に書き直すことで、プログラミング概念を抽象化して理解する。 座標の違いについて理解する。図形を組み合わせた課題を作成することで、関数の呼び出しと構造化定理「順次」を理解する。</p> <p>事前学修：「p5.js」について予習（60分） 事後学修：資料#6を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第13回	<p>【テキストベースプログラミングへの移行（2）】 「Scratch」で作ったプログラムを、JavaScriptで動作するプログラミング環境「p5.js」に書き直すことで、プログラミング概念を抽象化して理解する。 マウスイベントとキーボードイベントの取得を理解する。</p> <p>事前学修：「p5.js」について予習（60分） 事後学修：資料#6を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第14回	<p>【テキストベースプログラミングへの移行（3）】 「Scratch」で作ったプログラムを、JavaScriptで動作するプログラミング環境「p5.js」に書き直すことで、プログラミング概念を抽象化して理解する。 パウンディングボックス等のアニメーション課題を作成し、条件分岐を理解する。</p> <p>事前学修：「p5.js」について予習（60分） 事後学修：資料#6を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第15回	<p>【期末課題】 JavaScriptで動作するプログラミング環境「p5.js」で書かれたプログラム結果を見て、同じように動作するプログラムを作成する。</p> <p>事前学修：「p5.js」について予習（60分） 事後学修：課題内容の復習をする（60分）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>本講義では、受講生の試行錯誤を重視しているため、各学習フェーズで出題する課題は、受講生のモチベーションを考慮して学生一律ではない。また、プログラミングという抽象的・記号的な概念を学ぶ科目上、概念を理解するのきっかけは個人差があるので、課題へのアプローチ（検索方法、プログラムの組み方等）の方法は各学生のやり方に委ね、教員は基本的にサポートを行う立場とする。</p> <p>課題へのフィードバックは、受講生が選んだテーマに応じた難易度を考慮した完成度を点数化して伝える。</p>			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>講義内で学んだプログラムを何も見ずに再現できるまで繰り返す。 プログラミングは、プログラムの解説を聞いて理解したと感ずるのは容易であるが、プログラミングを書く能力に至るまでには時間を要する。そのため、自身の理解度を確認するために、プログラムの再現を繰り返し行うことが学習効果を向上させるために重要である。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	中間課題（80%）を求める。さらに期末に学習の確認として課題（20%）を出題し、総合的に成績を評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	高校卒業者を対象にエンジニアを養成するフリースクールを立ち上げ、3年間のカリキュラムでプログラミング初学者を実務レベルでシステム開発できる人材に育てて就職させている。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200021301
講義名	プログラム演習IV
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	演習
担当教員	石郷 祐介
ナンバリングコード	22M2A6201

科目概要	本講義では、現代のシステム設計やソフトウェア開発において基盤となっているオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解することを目的とする。基本概念について、Javaによるビジュアルデザイン向けプログラミング環境「Processing」を用いたゲーム制作を題材に、具体的な実装を通して学習する。 さらに、オブジェクト指向設計の発展的な考え方として、再利用性や保守性の高いソフトウェアを設計するためのデザインパターンの事例を取り上げ、実践的な設計思考を身につけることを目指す。
達成目標	オブジェクト指向プログラミングの3大要素である「カプセル化」「ポリモーフィズム」「継承」の概念を正しく理解し、再利用性と拡張性を持ったコードを書くことができる。非オブジェクト指向設計のコードを、オブジェクト指向設計にリファクタリングすることができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	C言語などの手続き型プログラミング言語の基本的なデータ構造、制御文、関数および構造体についての知識を前提とする。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オブジェクト指向プログラミングの歴史と概要 Javaを使ったビジュアルデザイン向けプログラミング環境「Processing」紹介 手続き型プログラミング言語の基本要素（変数、条件分岐、反復）の確認  事前学修：シラバス等を確認し授業全体を把握（60分） 事後学修：資料#1を確認し、講義の復習をする（60分）
第2回	「Processing」基礎 ① バウンディングボックスの実装を通じて「Processing」の開発に慣れる ・ イベント関数 ・ 図形描画  事前学修：「Processing」の関数について調べる（60分） 事後学修：資料#1を確認し、講義の復習をする（60分）
第3回	「Processing」基礎 ② バウンディングボックスを複数対応することで、配列（固定長・可変長）の使い方を学ぶ  事前学修：配列の概念について予習（60分） 事後学修：資料#1を確認し、講義の復習をする（60分）
第4回	非オブジェクト指向プログラミングの形式で、シンプルなシューティングゲームを実装する ① 自機と敵機の実装  事前学修：シューティングの実装方法について調べる（60分） 事後学修：資料#2を確認し、講義の復習をする（60分）
第5回	非オブジェクト指向プログラミングの形式で、シンプルなシューティングゲームを実装する ② 弾発射の実装  事前学修：Javaの可変長配列の書き方について予習（60分） 事後学修：資料#2を確認し、講義の復習をするの復習（60分）
第6回	非オブジェクト指向プログラミングの形式で、シンプルなシューティングゲームを実装する③ 矩形条件の当たり判定、距離を用いた当たり判定  事前学修：ゲームの当たり判定の実装方法について調べる（60分） 事後学修：授業で示したプログラムの見直し（60分）
第7回	クラスとインスタンス オブジェクト指向の中心概念である「クラス」と、その実体である「インスタンス」について学ぶ バウンディングボックスをオブジェクト指向プログラミングで作直す  事前学修：クラスとインスタンスの概念について調べる（60分） 事後学修：資料#3を確認し、講義の復習をする（60分）
第8回	非オブジェクト指向プログラミングで制作したコードをオブジェクト指向プログラミングに変換する ① 自機のクラス化  事前学修：非オブジェクト指向プログラミングで制作したコードの見直し（60分） 事後学修：資料#4を確認し、講義の復習をする（60分）
第9回	非オブジェクト指向プログラミングで制作したコードをオブジェクト指向プログラミングに変換する ② デザインパターンの説明、Factory Methodについて学ぶ 弾のクラス化、弾ファクトリークラスの作成  事前学修：ファクトリークラスについて調べる（60分） 事後学修：資料#4を確認し、講義の復習をする（60分）

第10回	<p>非オブジェクト指向プログラミングで制作したコードをオブジェクト指向プログラミングに変換する ③            インターフェイスと継承を学ぶ            敵機のクラス化（基底クラスと派生クラスの作成）、敵機ファクトリークラスの作成</p> <p>事前学修：基底クラスと派生クラスについて資料#4を見直す（60分）            事後学修：資料#4を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第11回	<p>非オブジェクト指向プログラミングで制作したコードをオブジェクト指向プログラミングに変換する ④            当たり判定クラスの実装、当たり判定クラスの継承</p> <p>事前学修：当たり判定についてプログラムを見直す（60分）            事後学修：資料#4を確認し、講義の復習をする（60分）</p>			
第12回	<p>最終課題制作の準備            シューティングゲーム制作におけるTIPSの紹介            三角関数の活用例            ・追尾弾の実装 (atan2)            ・全方位弾の実装 (sin, cos)</p> <p>事前学修：シューティングプログラムの見直し（60分）            事後学修：授業で示したプログラムの見直し（60分）</p>			
第13回	<p>最終課題制作 ①            オブジェクト指向設計を活かして、シューティングゲームに新たな機能を加える。            スコアを実装する。画面上にスコアを表示する。敵を倒した場合に、倒した敵に応じてスコアが加算される。</p> <p>事前学修：最終課題制作の準備（60分）            事後学修：最終課題の制作の続き（60分）</p>			
第14回	<p>最終課題制作 ②            オブジェクト指向設計を活かして、シューティングゲームに新たな機能を加える。            敵の種類を追加する（講義で学んだ継承を活用すること）。動きや形を工夫すること。</p> <p>事前学修：敵の動きについて構想する（60分）            事後学修：最終課題の制作の続き（60分）</p>			
第15回	<p>最終課題制作 ③            オブジェクト指向設計を活かして、シューティングゲームに新たな機能を加える。            ボスを追加する（敵クラスを継承して作成すること）。</p> <p>事前学修：ボス敵の動きについて構想する（60分）            事後学修：最終課題の見直し（60分）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>各フェーズごとに学んだ内容を復習するための課題を出題する。            最終課題については、自ら書いたコードについて説明を行ってもらい、教員が講評する。</p>			
アクティブラーニング	<p>PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>クラス化（関心の分離）について、より理解を深めたい場合は「リファクタリング（第2版）著：Martin Fowler」を読むと良い。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>小課題を20%、期末課題を80%として評価する。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>高校卒業者を対象にエンジニアを養成するフリースクールを立ち上げ、3年間のカリキュラムでプログラミング初学者を実務レベルでシステム開発できる人材に育てて就職させている。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
リファクタリング（第2版）	Martin Fowler	オーム社	4274224546	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	講義中に適宜指示する			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200024301
講義名	Web解析
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	栗林 芳彦
ナンバリングコード	22M2F5202、19M4D5201

科目概要	マーケティングにおけるインターネットの重要性はますます高まっているが、より効果的なマーケティングを実践するうえで、自社サイトを中心としたウェブ上でのトランザクションを正確に把握し、分析することは必須の要件となっている。当科目ではウェブ解析の基礎を学ぶとともに、ウェブマーケティングの効果検証とプランニングに関する実践的な知識を修得する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブ解析に関する基礎的な知識を身につける。</li> <li>・インターネット上のマーケティングの手法と評価方法に関する知識を身につける。</li> <li>・ウェブ上でのプロモーション手法に関する知識を身につける。</li> </ul>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	マーケティングについて基礎的な知識を持っていることが望ましい。可能ならば、入門書を1冊読んでおくとうい。
学位授与方針との関連	2.専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの普及のマーケティングの変化</li> <li>・インターネットは消費者の購買行動をどう変えたか</li> </ul> <p>【事後学修】インターネットの歴史とそれに伴いどんなサービスやビジネスが登場してきたか、まとめておこう。（2時間）</p>
第2回	<p>ウェブ解析とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜウェブ解析が必要か</li> <li>・ウェブ解析士について</li> </ul> <p>【事後学修】ウェブ解析士の資格についてネットで調べてみよう（2時間）</p>
第3回	<p>オンラインマーケティングの仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインショッピング</li> <li>・広告、プロモーション</li> </ul> <p>【事後学修】「Webマーケティング」で学んだオンラインマーケティングの仕組みについて復習しておこう。（2時間）</p>
第4回	<p>ウェブ解析の用語定義（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎編</li> </ul> <p>【事後学修】授業に出てきた用語の意味を確認しておこう（2時間）</p>
第5回	<p>ウェブ解析の用語定義（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告効果測定関連用語</li> </ul> <p>【事後学修】授業に出てきた用語の意味を確認しておこう（2時間）</p>
第6回	<p>ウェブ解析のデータ取得方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ取得の様々な方法を学ぶ</li> </ul> <p>【事後学修】授業で学んだデータ取得方法についてまとめておこう。（2時間）</p>
第7回	<p>ウェブ解析の分析方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に使われる様々な分析方法について学ぶ</li> </ul> <p>【事後学修】授業で学んだ分析方法についてまとめておこう。（2時間）</p>
第8回	<p>汎用ツールの特徴と利用方法（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google analyticsの使い方を学ぶ</li> </ul> <p>【事後学修】実際にGoogle Analyticsを使ってデモサイトのデータを見てみよう。（2時間）</p>
第9回	<p>汎用ツールの特徴と利用方法（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他のツールの使い方を学ぶ</li> </ul> <p>【事後学修】実際にツールを使ってデモサイトのデータを見てみよう。（2時間）</p>
第10回	<p>ウェブ解析の表現方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解析結果をどのようにプレゼンテーションするか。</li> </ul> <p>【事後学修】ネットで解析結果のプレゼンテーションを探し、評価しよう。（2時間）</p>
第11回	<p>ウェブ解析の提案方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解析の手法に関してどのようにその重要性を理解してもらうか</li> </ul> <p>【事後学修】ネットで解析提案のプレゼンテーションを探し、評価しよう。（2時間）</p>

第12回	モバイルの解析 ・スマートフォン向けサイトの解析方法と問題点 【事後学修】モバイルの解析に関してどんな問題点があるか、整理しておこう。(2時間)			
第13回	ソーシャルメディアの現状と解析 ・ソーシャルメディアがオンラインマーケティングにどのように影響を与えているか 【事後学修】よく使われているSNSにどんな特徴があるか、まとめておこう。(2時間)			
第14回	インターネット視聴率の問題点 ・様々な企業がインターネット視聴率のデータを提供しているが、その有用性は？ 【事後学修】それぞれの企業がどのような手法でデータを取得しているか、まとめておこう。(2時間)			
第15回	ウェブマーケティングに関する関連法規と倫理的課題 ・個人情報保護、フィッシング詐欺などWebマーケティングをとりまく様々な問題について知る 【事後学修】ウェブマーケターが知っておくべき関連法規についてまとめておこう。(2時間)			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	授業はパワーポイントを使って行う。 毎回、確認のための小テストを行い、次週に復習を行う。 課題へのフィードバックはWebClassを使って行う。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	実際に自分でオンラインショップを利用してなにか買ってみることをお勧めします。			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	定期試験で評価します(100%)。持ち込みはありません。			
教員の実務経験と授業科目との関連	広告会社に勤務した際に、Webの開発やプロモーションの作業に従事していた。その経験をもとに実践的な授業を展開したい。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022401
講義名	CM制作
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	栗林 芳彦
ナンバリングコード	22M2B5202、19M4B6201、19M4D6201

科目概要	テレビコマーシャルは長きにわたって日本の広告産業の根幹をなしてきた。近年のインターネット広告の隆盛により、存在感に陰りが見えるのは事実であるが、製品認知やブランドイメージの確立などにおいては依然として強い影響力を持っている。本講座では、テレビコマーシャルについて学ぶと同時に実際にCMを作ってみることによって、広告主の意図を理解し、「賢い消費者」となる術を身に着けることを主眼とする。
達成目標	できるだけ多種多様なCMを鑑賞/分析し、制作意図を読み解くための批評眼を身につける。それを通じて感知、或いは習得したCM制作のヒント/ノウハウを基にして、特定のテーマでCM制作を完成させる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	広告に関しての一定レベルの知識は必要（「マーケティング概論」を受講済みであることが望ましい）。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	「CMとはなにか」 CMの特長とその制作過程を学ぶ。 【事後学習】（2時間） マーケティングおよび広告について復習をする
第2回	「CMの表現アプローチ」 テレビCMにはいろいろなタイプの表現が用いられるが、それぞれの目的や効果について考察する。 【事後学習】（2時間） YouTubeで様々なCMを見、どのような表現がどんな効果をあげているのか、自分なりに分析してみる。
第3回	「CMと音」 テレビCMには様々な音が使われている。どのような音がどんな目的で使われているのか、いろいろ実例を見ながら考える。 【事後学習】（2時間） YouTubeで様々なテレビCMを見、どんな音がどんな目的で使われているのか、観察をする
第4回	「コカ・コーラのCMに学ぶテレビCMの戦略」 1962年に始まった日本におけるコカ・コーラのテレビCMを時系列で鑑賞し、それぞれのCMに込められた戦略的意図を理解する。 【事後学習】（2時間） YouTubeでコカ・コーラおよび他社のテレビCMを鑑賞し、それらがどんな戦略的意図に基づいて制作されたのか、自分なりに考えてみる。
第5回	「CMと倫理」 CMが果たすべき社会的責任と倫理について学ぶ。 【事後学習】（2時間） 授業で指摘したテレビCMのどこが問題なのか、自分なりに整理する。 現在放映されているCMで倫理的に問題があると思われるものをリストアップしてみる。
第6回	CM制作演習 CMとは何か/発想力の付け方 課題：アイデアについて考える（2時間）
第7回	CM制作演習 キャッチコピーの考え方 課題：商品コピー作成（2時間）
第8回	CM制作演習 CMコピーの作り方 課題：CMコピー制作（2時間）
第9回	CM制作演習 サムネイルの書き方 課題：サムネイル制作（2時間）

第10回	CM制作演習 字コンテの書き方 課題：字コンテ制作（2時間）			
第11回	CM制作演習 絵コンテの書き方 課題：絵コンテ制作（2時間）			
第12回	CM制作演習 絵コンテ最終案企画/制作（2時間）			
第13回	CM制作演習 絵コンテによるCM企画プレゼンテーション① プレゼン準備（2時間）			
第14回	CM制作演習 絵コンテによるCM企画プレゼンテーション② プレゼン準備（2時間）			
第15回	CM制作演習 講評 フィードバックによる企画修正（2時間）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	CMについての講義を5回受講後に、実際にCMづくりを体験する。 提出後の課題に関しては、全体をまとめたのちフィードバックとして次回授業にて講評をおこなう。			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	CMをたくさん見ることは言うまでもない。Y o u t u b eで検索すればおおよそのCMは発見できる。できればテレビでの一連の流れの中でCMを見ることをお勧めする。その方が広告としての本質に迫れるからである。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	提出された課題で評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） 25年間広告代理店で広告の業務に従事した。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200021901
講義名	映像制作演習Ⅱ
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	青山 太郎
ナンバリングコード	22M2B4301

科目概要	本授業では、スマートフォンやiPadなどの軽量で携帯可能な撮影機器も使用しつつ、業務用映像編集ソフトを利用したグループワークを行い、映像デザインに関する知識と技術を実習を通して身につける。特にこの授業では、文学作品の解釈を通じた「課題理解の深化」と「視覚的リズムの表現」を学修することに重点を置く。これらの実践を通じて、より豊かなコミュニケーションを創造するための知識と技術を身につける。
達成目標	(1) 構成・撮影・編集・書き出しまでのデジタルワークフローの技術的基礎を学び、自らのアイデアを映像で表現できる。 (2) 「他者」とコミュニケーションをするために必要な想像力と論理的構成力を獲得し、自らの表現に活用することができる。 (3) 映像を美的に構成するための「リズム」について理解し、より洗練された表現活動が実践できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	DaVinci ResolveまたはAdobe Premiere Pro（および関連ソフトウェア）の基本操作ができることを前提として授業を進めるため、「映像制作演習Ⅰ」を履修し、映像制作工程の基礎を十分に理解していることが望ましい。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション   授業の進め方の説明、映像制作のワークフローやビジュアルコミュニケーションについての概要を理解する。 【キーワード】 プロダクション、ワークフロー、プロダクション 【授業外学習】 事後学修としてワークシートによる課題に取り組む（90分程度）。
第2回	映像制作ワークショップ1-1   個人で「映像詩」を制作する（構想を立てる）。 【キーワード】 プリプロダクション、画コンテ、プロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第3回	映像制作ワークショップ1-2   個人で「映像詩」を制作する（構想を修正しながら制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第4回	映像制作ワークショップ1-3   個人で「映像詩」を制作する（制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第5回	映像制作ワークショップ1-4   個人で「映像詩」を制作する（制作を進め、書き出し・提出をおこなう）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第6回	映像制作ワークショップ1-5   全体で制作した「映像詩」作品を講評する。 【キーワード】 講評・批評、ディスカッション、グループワーク 【授業外学習】 事後学修として各グループでの制作への取り組みの自己評価レポートを作成する（120分程度）。
第7回	映像制作ワークショップ2-1   グループで課題映像を制作する（構想を立てて発表する）。 【キーワード】 プリプロダクション、画コンテ、プロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第8回	映像制作ワークショップ2-2   グループで課題映像を制作する（構想を修正しながら制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第9回	映像制作ワークショップ2-3   グループで課題映像を制作する（撮影を中心として制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第10回	映像制作ワークショップ2-4   グループで課題映像を制作する（編集を中心として制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。
第11回	映像制作ワークショップ2-5   グループで課題映像を制作する（中間報告をおこない、コメントを受ける）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。

第12回	映像制作ワークショップ2-6   グループで課題映像を制作する（追加撮影を中心として制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。			
第13回	映像制作ワークショップ2-7   グループで課題映像を制作する（編集を中心として制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。			
第14回	映像制作ワークショップ2-8   グループで課題映像を制作する（編集を中心として制作を進める）。 【キーワード】 プロダクション、ポストプロダクション 【授業外学習】 事前・事後学修として配布資料を確認しつつ、制作課題に取り組み、あわせて制作日誌を作成・提出する（120分程度）。			
第15回	映像制作ワークショップ2-9   全体で制作した作品を講評する 【キーワード】 講評・批評、ディスカッション、グループワーク 【授業外学習】 事後学修として各グループでの制作への取り組みの自己評価レポートを作成する（120分程度）。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本授業では、個人ワークおよびグループワークでの実習によって、映像デザインに関わる知識と技術を身につけることを目指す。これにあたり、授業時間外での作業のスケジュール調整など、協力的な態度が求められる。なお、演習課題に当たっての機材の操作方法や貸出手続き、そのほかの細かい指示は授業時間中に適宜行う。課題に対しては基本的に授業時間内で個別に、また講評会の中で全体的にフィードバックを行う。希望者には授業時間外に個別に指導する。			
アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/プレゼンテーション/実習、フィールドワーク/グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	各授業の終わりに、翌週までの課題を提示する。授業内容を振り返りつつ、課題に取り組むというサイクルを作れるとよい。また、自分の興味のある範囲で構わないので、なるべく意識的に映像作品を鑑賞する機会を増やすと良い。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	制作課題1（30%）、制作課題1についてのふりかえりレポート（10%）、制作課題2（50%）、制作課題2についてのふりかえりレポート（10%）の4点で評価する。演習課題は最終的な作品の出来だけでなく、構想プレゼンや制作プロセスにおける工夫なども評価対象とする。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） 映像制作に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の課題の内容に活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
映像クリエイターのための完全独学マニュアル	リュドック	フィルムアート社	978-4-8459-2132-4	
映像編集のファースト・レッスン	ガエル・チャンドラー	フィルムアート社	978-4-8459-2332-8	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022602
講義名	ドキュメンタリー演習
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	青山 太郎
ナンバリングコード	22M2B6202、22M2F6202、19M4B7201

科目概要	ドキュメンタリー映像の制作実践を中心課題として、デザインリサーチと映像メディア表現のプロセスについての理解を深める。
達成目標	同時代の社会に暮らす人物、使用されているモノ、それらが展開される場などに対して、独自の視点でリサーチを行い、質的かつ美的な世界理解を獲得するプロセスを理解できる。さらに、そうした理解をさまざまな映像メディア表現へと展開していくための知識と技術を獲得する。 あわせて、アイデア立案やリサーチのためのスケジューリングを重点的に学び、映像表現をもって社会に働きかけていくために必要なスキルとロジックを身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	前期開講の「ドキュメンタリー・シナリオ」を履修していることを必須とする。 また、映像制作にかかわる基本的な技能（ビデオカメラを用いた撮影、パソコンによる編集など）をあらかじめ修得していることを求める。特にDaVinci ResolveまたはAdobe Premiere Proのいずれかの基礎操作は必ず修得していること。 また、グループワークが基本となるため、メンバーと協力・連携する最低限のコミュニケーションを求める。 （あわせて、「映像制作演習Ⅰ」「映像制作演習Ⅱ」を履修していることも望ましいが、これは必須条件ではない）
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション   「現代的ドキュメンタリー」や「デザイン・エスノグラフィ」、「アーティストック・リサーチ」についての方法論のレクチャーをふまえて、共通の制作課題の説明を受け、各自の関心にそったテーマを設定するための班編成と企画立案、予備調査を行う。 【キーワード】 ドキュメンタリー、フィクション、アーティストック・リサーチ 【授業外学習】 事後学習としてワークシートによる課題を90分
第2回	企画立案・参考作品分析 (1)   各自の関心にそったテーマを設定するための企画立案と予備調査を行う。あわせて参考作品の分析をおこなう。 【キーワード】 リサーチ、グループワーク、作品分析 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第3回	企画立案・参考作品分析 (2)   各自の関心にそったテーマを設定するための企画立案と予備調査を行う。あわせて参考作品の分析をおこなう。 【キーワード】 リサーチ、グループワーク、作品分析 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第4回	企画プレゼンテーション   制作するドキュメンタリーについて、先の時間までに準備した企画をプレゼンテーションし、全員で意見交換を行う。 【キーワード】 プレゼンテーション 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第5回	制作演習 (1)   企画プレゼンとそこでのコメントを受けて企画案を修正しつつ、フィールドワークを実施し、取材・撮影・分析・編集を進めていく。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第6回	制作演習 (2)   企画プレゼンとそこでのコメントを受けて企画案を修正しつつ、フィールドワークを実施し、取材・撮影・分析・編集を進めていく。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第7回	制作演習 (3)   企画プレゼンとそこでのコメントを受けて企画案を修正しつつ、フィールドワークを実施し、取材・撮影・分析・編集を進めていく。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第8回	制作演習 (4)   企画プレゼンとそこでのコメントを受けて企画案を修正しつつ、フィールドワークを実施し、取材・撮影・分析・編集を進めていく。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第9回	中間報告 (1)   仮完成させたドキュメンタリー作品の上映をおこない、全員で講評・意見交換を行う。 【キーワード】 プレゼンテーション、フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第10回	中間報告 (2)   仮完成させたドキュメンタリー作品の上映をおこない、全員で講評・意見交換を行う。 【キーワード】 プレゼンテーション、フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第11回	制作演習 (5)   中間報告とそこでのコメントを受けて企画を修正しつつ、フィールドワークを追加実施し、取材・撮影・分析・編集を進めていく。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分

第12回	制作演習 (6)   中間報告とそこでのコメントを受けて企画を修正しつつ、フィールドワークを追加実施し、取材・撮影・分析・編集を進めていく。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第13回	制作演習 (7)   中間報告とそこでのコメントを受けて企画を修正しつつ、フィールドワークを追加実施し、取材・撮影・分析・編集を進めていく。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第14回	完成報告 (1)   完成したドキュメンタリー作品上映をおこない、全員で講評・意見交換を行う。 【キーワード】 フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第15回	完成報告 (2)   完成したドキュメンタリー作品上映をおこない、全員で講評・意見交換を行う。 【キーワード】 プレゼンテーション、フィールド・リサーチ、映像撮影、映像編集 【授業外学習】 事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本授業では、ドキュメンタリー映像制作にかかる基礎的な理解を理論と実践の両面から修得することを目指す。グループをともにするメンバーに対してだけでなく、学外の取材対象者への協力依頼などにも必要になる場合があるため、コミュニケーションを欠かさないように注意すること。 制作にあたっては授業時間外の作業が相当程度に必要になるため、あらかじめその点に留意すること。 課題に対しては基本的に授業時間内で個別に、また講評会の中で全体的にフィードバックを行う。さらに希望者には授業時間外に個別に指導する。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	各授業の終わりに、翌週までの課題を提示する。授業内容を振り返りつつ、課題に取り組むというサイクルを作れるとよい。また、自分の興味のある範囲で構わないので、なるべく意識的に映画やテレビなど映像作品を鑑賞し、またノンフィクション文学などを読む機会を増やすと良い。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	企画プレゼンにおけるアイデアの独創性（10%）、中間報告までの制作の達成度（30%）、最終報告における制作の達成度（50%）、最終報告後の自己評価レポート（10%）で評価する。制作の達成度については、最終的な作品の出来栄だけでなく、制作プロセスにおける工夫なども評価対象とする。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） ドキュメンタリー映像の制作に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の課題の内容に活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ドキュメンタリー映画史』	エリック・バーナウ	筑摩書房	978-4480873781	
『ドキュメンタリー・ストーリーテリング』	シーラ・カーラン・バーナード	フィルムアート社	978-4845914401	
『歩く、見る、待つ：ペドロ・コスタ映画論講義』	ペドロ・コスタ	ソリレス書店	978-4908435003	
『芸術の中動態』	森田亜紀	萌書房	978-4860650735	
『中動態の映像学』	青山太郎	堀之内出版	978-4909237637	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022001
講義名	ドキュメンタリー・シナリオ
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	青山 太郎
ナンバリングコード	22M2B5201、22M2F5203、19M4D4201

科目概要	ドキュメンタリー映像を制作するにあたってのシナリオ作成について知識と技術を講義と実習を通じて学ぶ。一般に「ノンフィクション」で「事実を伝える」とされるドキュメンタリーも構造や工夫がある創作物であることを、作品分析、アイデアプレゼンテーションを通して理解する。その上で、情報収集から情報発信に至る一連のワークフローを情報デザインという観点から学ぶ。
達成目標	ドキュメンタリー映像を制作するにあたっての基礎知識と基礎技術を実践を通じて習得する。特に、アイデア立案やリサーチのためのスケジューリング、アイデアを論理的に映像表現へと構成していくための観察とインタビューの方法論を重点的に学び、映像表現をもって社会に働きかけていくために必要なスキルを身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	動画撮影可能なカメラおよび映像編集ソフト（DaVinci ResolveまたはAdobe Premiere Pro）の基本的操作について理解していることが望ましい。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	レクチャー (1)   ドキュメンタリー映像もまた「創作物」であることを理解したうえで、その基本的カテゴリと、シナリオの構成パターンについて学ぶ。 【キーワード】ドキュメンタリー、フィクション 【授業外学習】事後学習としてワークシートにしたがって復習課題を60分
第2回	レクチャー (2)   「アーティストック・リサーチ」の創造性や、「現代的ドキュメンタリー」と評価される映像作品の現代性について理解する。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評、カテゴリー、ジャンル 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第3回	観察ワークショップ (1)   参照作品のとして、その独創性とメディア史的意義を検討しつつ、観察ワークショップを通じて、その創造性を理解する。特にこのフェーズの前半では参照作品の分析をおこなう。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評、観察、アイディエーション 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第4回	観察ワークショップ (2)   参照作品のとして、その独創性とメディア史的意義を検討しつつ、観察ワークショップを通じて、その創造性を理解する。特にこのフェーズの前半では参照作品の分析をおこなう。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評、観察、アイディエーション 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第5回	観察ワークショップ (3)   参照作品のとして、その独創性とメディア史的意義を検討しつつ、観察ワークショップを通じて、その創造性を理解する。特にこのフェーズの後半では映像観察とその分析を参加者自らが実践する。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評、観察、アイディエーション 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第6回	観察ワークショップ (4)   参照作品のとして、その独創性とメディア史的意義を検討しつつ、観察ワークショップを通じて、その創造性を理解する。特にこのフェーズの後半では映像観察とその分析を参加者自らが実践する。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評、観察、アイディエーション 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第7回	作品分析 (1)   「解説型」と「観察型」に分類されるドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解する。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、観察、インタビュー、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第8回	作品分析 (2)   「解説型」と「観察型」に分類されるドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解する。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、観察、インタビュー、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第9回	作品分析 (3)   「解説型」と「観察型」に分類されるドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解する。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、観察、インタビュー、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第10回	インタビュー・ワークショップ (1)   グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第11回	インタビュー・ワークショップ (2)   グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分

第12回	インタビュー・ワークショップ (3)   グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第13回	インタビュー・ワークショップ (4)   グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第14回	インタビュー・ワークショップ (5)   グループワークを通じて制作したオーディオ・ドキュメンタリーの講評をおこなう。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第15回	インタビュー・ワークショップ (6)   グループワークを通じて制作したオーディオ・ドキュメンタリーの講評をおこなう。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、物語化 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本授業では、ドキュメンタリーについて、鑑賞、分析、制作というように多面的にアプローチし、理解を深める。分析ノート、観察レポート、オーディオ・ドキュメンタリーの制作課題は授業時間外の作業が相当程度に必要なため、あらかじめその点に留意すること。課題に対しては基本的に授業時間内で個別に、また講評会の中で全体的にフィードバックを行う。さらに希望者には授業時間外に個別に指導する。			
アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/プレゼンテーション/グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	各授業の終わりに、翌週までの課題を提示する。授業内容を振り返りつつ、課題に取り組むというサイクルを作れるとよい。また、自分の興味のある範囲で構わないので、なるべく意識的にテレビや映画など映像作品を鑑賞し、またノンフィクション文学などを読む機会を増やすと良い。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	映像観察レポート課題（30%）、シナリオ分析ノート（30%）、オーディオドキュメンタリー作品の完成度（30%）、最終ふりかえりレポート（10%）で評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） ドキュメンタリー映像の制作に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の内容に活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『Introduction to Documentary』	Bill Nichols	Indiana University Press	978-0253026347	2017
『ドキュメンタリー映画史』	エリック・バーナウ	筑摩書房	978-4480873781	2015
『ドキュメンタリー・ストーリーテリング』	シーラ・カーラン・バーナード	フィルムアート社	978-4845914401	2014
『ソーシャル・ドキュメンタリー』	萩野亮ほか	フィルムアート社	978-4845912940	2012
『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』	想田和弘	講談社現代新書	978-4062881135	2011
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200014101
講義名	C A D
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	大矢 信吾
ナンバリングコード	22M2F4201

科目概要	CAD (Computer Aided Design) は情報技術の発達に伴い非常に普及しています。この科目は、実習を中心とした内容で、CADにおける様々な図面作成の基礎を学びます。具体的には、CADにおける図法、基本的な描画操作、現実的な図形の描画と寸法の入れ方、3次元立体図形の描き方などを修得します。また、情報システムコースの科目に該当しますが、得られた知識や技術が他の分野でも役立てられるような素養が身につきます。
達成目標	製図の基本とソフトウェアの操作法を修得しながら、図面作成の基本技術を身につけます。 情報メディア分野（例えば、3次元CGや3Dプリンターによる立体物の作成）へ発展するための素養を身につけます。 図面から立体図形を、立体物から図面を描くことができるようになります。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	空間や立体物を把握するのに基本的な知識が必要です（例えば、ある立体物を平面に展開したとき、その表面はどのような図形になるのかなど）。また、PCのGUIやファイルの管理の知識の他に、三角関数をはじめ幾何学の知識が必要です。
学位授与方針との関連	1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている 5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス： 授業の目標や進め方、課題の取り組み方、遠隔授業の位置付け、成績評価に関する注意事項等について CADソフトの紹介、アカウント登録 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第2回	スケッチの基礎 基本図形の描画 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第3回	スケッチ 平面図形 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第4回	スケッチの応用 3次元図形、三角法と立体物 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第5回	スケッチ 反復コピーを用いた図面作成（基本図形の描画） 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第6回	スケッチの応用 フォームによる3次元立体物の作画と編集 第三角法の修得 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第7回	前半総合課題： 初回から前回までの範囲で小テストの実施 テスト内容の解説 次回からの準備 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第8回	アセンブリ 様々な基本図形（パーツ）の作成 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第9回	アセンブリの応用 パーツを組み合わせた複雑な図形の描画 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要
第10回	データインポート 描画した図面のデータ変換と利用 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要

第11回	CADアプリのシミュレーション機能の基礎 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要			
第12回	第2回総合課題： 小テストの実施 テスト内容の問題解説 次回からの準備 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要			
第13回	CADアプリのシミュレーション（応力） 製図した結果を用いた応力のシミュレーションを実施 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要			
第14回	CADアプリのシミュレーション（振動） 製図した結果を用いた振動のシミュレーションを実施 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要			
第15回	前半総合課題： 第3回目の小テストの実施 テスト内容の解説 今後の展望を概観 【授業外学修】120分の復習と課題制作時間が必要			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	タブレット端末を使い演習と課題作成を行います（PCでも演習課題作成は可能）。授業は15回実施が、前半と後半に分かれています。また、Zoom会議やオンデマンド形式をオープン実習も活用し学修します。 前半部で、基本的な操作を簡単な図形描画の基礎を学びます。後半は、実装することを主眼に置いた製図の内容で、オンデマンド形式も活用します。 教科書は特に指定せず資料をpdfで配信します。授業の順番や内容を状況により変更することがあります。 なお、授業では毎回iPadを使用します（スマホは不可）。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	アプリケーションの機能が多彩であり、CADは作画技術などの積み重ねです。したがって、特に復習が大変重要です。復習を怠れば授業が進むにつれ課題が難しく感じられるようになるでしょう。この授業では毎回教授する内容を進めなければなりません。前回の技術的操作や内容は次の回では基本的に詳しく解説できないので、資料などを併用しながらオープン実習を活用して十分に習熟したのち次の回に臨んで下さい。また、講義は、やむを得ない事情を除き遅刻や欠席はしてはいけません（解説→実習の順に進める）。万が一欠席した場合、授業の課題作成やフォローは、次回授業前日までに完了しておいて下さい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	毎回の課題提出、2回の小テスト課題の結果を総合的に集計し100%で評価します。比率は、2：4：4になります。その他、課題提出数と欠席数により受験資格喪失措置を判断します。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） VLSIの製品開発におけるデジタル回路のマスク設計等においてCAD実務経験を有する。培った技術や知見、データ管理法などを基に幅広い領域でのCAD教育に活かしている。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『授業中に紹介』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	授業の中でその都度紹介			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022801
講義名	MIDI制作演習 I
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	柴山 一幸
ナンバリングコード	22M2C2301

科目概要	音楽制作ソフトGarageBandを使って、楽譜をもとにMIDIの打ち込みを行います。楽器ができなくても、マウスで入力するだけでフルオーケストラの曲の制作も可能です。本科目では、コンピュータミュージックの入門・初歩として、主にピアノロールウィンドウでの作業を行います。
達成目標	1. 音楽制作ソフトの扱いに慣れる。 2. MIDIの基礎知識を身につける。(MIDI検定推奨) 3. 楽譜をもとに音楽データを制作できるようになる。
履修に必要な予備知識や技能 (関連科目等)	1. 譜面を読むため基礎知識の学習 (音符、休符、五線譜等の知識) 2. 各楽器の特性を理解しておく (Wikipediaなどでピアノ、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム、バイオリン、ピオラ、チェロを検索) 3. ジャンル問わず幅広く音楽を聴いておく
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	コンピュータミュージック入門：ガイダンス、著作権の注意、授業に準備するもの。 事前学修：事前にシラバスを確認し授業全体の確認 (60分程度) 事後学修：授業の復習 (60分程度)
第2回	打ち込みの基礎知識：音符の長さ、ソフトの紹介、ファイルの設定、基本的な音符の打ち込み方、裏拍、タイで繋がった音符、シャープやフラットの音符。 事前学修：打ち込みの基礎知識について予習 (60分程度) 事後学修：授業の復習 (60分程度)
第3回	練習曲(1)：「piece of my love」ドラムの打ち込みver.1(基本パターンの打ち込み) 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第4回	練習曲(2)：「piece of my love」ドラムの打ち込みver.2(ゴーストノートの打ち込み) 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第5回	練習曲(3)：「piece of my love」ボーカル、コーラスパートの打ち込み 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第6回	練習曲(4)：「piece of my love」ベースの打ち込み 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第7回	練習曲(5)：「piece of my love」ピアノの打ち込み 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第8回	練習曲(3)：「piece of my love」アコースティックギターの打ち込み 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第9回	練習曲(6)：「piece of my love」エレキギターの打ち込み(ピッチベンドの活用含む) 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第10回	練習曲(7)：「piece of my love」ストリングス(バイオリン、チェロ)の打ち込み 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・練習 (60分程度)
第11回	期末課題の制作(1)：「piece of my love」の別の部分の譜面を渡します。それを参考にし各自打ち込みを行う 事前学修：練習 (60分程度) 事後学修：授業の復習・課題制作 (60分程度)

第12回	<p>期末課題の制作(2)：前回に引き続き、楽譜の打ち込みを行います。          事前学修：練習(60分程度)          事後学修：授業の復習・課題制作(60分程度)</p>			
第13回	<p>期末課題の制作(3)：前回に引き続き、楽譜の打ち込みを行います。          事前学修：練習(60分程度)          事後学修：授業の復習・課題制作(60分程度)</p>			
第14回	<p>期末課題の制作(4)：前回に引き続き、楽譜の打ち込みを行います。          事前学修：練習(60分程度)          事後学修：授業の復習・課題制作(60分程度)</p>			
第15回	<p>期末課題の制作(5)：期末課題提出。          事前学修：練習(60分程度)          事後学修：授業の復習・課題制作(60分程度)</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>※ 実習は連続しているので、毎回の出席が必要です。欠席した分は自己責任で補うことになります。          ※ 授業へは、必ず各自でヘッドフォンまたはイヤフォン(ステレオ)を持参すること。          ※ 受講希望者が定員を超えた場合は抽選等で選抜を行います。掲示・メールに注意してください。          成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける</p>			
アクティブラーニング	<p>実習、フィールドワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>1. ただ音楽を聴いて楽しむだけでなく、どの楽器がどのように演奏されているか興味を持つよう          2. 各楽器の特性を理解しておく(Wikipediaなどでピアノ、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム、バイオリン、ピオラ、チェロを検索)          3. 小学校、中学校で学んだ音楽の教科書をもう一度読み直そう</p>			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	<p>授業への参加状況20%、平常課題40%、期末課題40%で評価します。          期末課題の提出がない場合は欠席の扱いとなります。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の実務経験と授業科目との関連)          アーティスト、声優などへの楽曲提供(作曲、編曲)をしており、その実務経験を本授業科目のMIDI制作演習の内容に活かした実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし。譜面はこちらで用意します。』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200023101
講義名	MIDI制作演習Ⅱ
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	柴山 一幸
ナンバリングコード	22M2C2301

科目概要	音楽制作ソフトGrageBandを使って、MIDIの打ち込みによるオリジナル楽曲の制作を行います。はじめにコード（和音）、次にリズム、メロディと学んでいきます。真剣に習得すること、地道な作業に忍耐強く取り組むことが要求されます。MIDI制作演習Ⅰの内容を踏まえ講義を進めます。
達成目標	1. コードの仕組み、曲作りの骨格を理解できる。 2. 簡単なオリジナル曲を制作できるようになる。 3. 標準的なポップスのアレンジを理解できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	MIDI制作演習Ⅰで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス：授業の概要、ソフトの紹介、評価方法。 事後学習として復習120分程度
第2回	音名とコード：英語音名とキーボード配列（ピアノ鍵盤）の関係。コードとは何か、基本的なコード。コードの仕組みとピアノロールビューでの段数の関係。コードの打ち込み練習。 事後学習として復習120分程度
第3回	コード進行：基本的なパターン。ダイアトニックコード。循環コードなど。 事後学習として復習120分程度
第4回	リズムセクション(1)：ドラムセットの扱い。基本的なドラムパターン(8ビート)。ピアノロールビューでの打ち込み。グループを出してみよう。 事後学習として復習120分程度
第5回	リズムセクション(2)：ドラムトラック制作の2回目。フィルインを知る。オリジナルなパターンの制作。基本パターンとフィルインを用いた8小節のドラムを打ち込む。 事後学習として復習120分程度
第6回	ベースライン：ベースラインを入れる。コードとベースの関係。ルート音のベース。コード構成音を使ったベース。メロディを奏でるベース。 事後学習として復習120分程度
第7回	メロディ、ソロを入れよう：メロディパートの制作。楽器の選定、リード音の活用。 事後学習として復習120分程度
第8回	ギターの打ち込みをしよう。アコースティックギターとエレキギターの違い。それぞれの表現方法を学ぶ。ポインティング（TAB譜）、コードの打ち込み。 事後学習として復習120分程度
第9回	ストリングスを学び打ち込みをする。楽器の種類と音域（ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバスなどの弦楽器）。音色の特徴。様々な表現方法。 事後学習として復習120分程度
第10回	楽曲の構成。定番の要素、構成の例を学んで期末課題に応用します。 事後学習として復習120分程度
第11回	期末課題の制作(1)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度

第12回	期末課題の制作(2)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度			
第13回	期末課題の制作(3)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度			
第14回	期末課題の制作(4)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度			
第15回	オリジナル作品の発表会：提出された作品の中から優秀なものを選んで鑑賞。特に優秀な作品は、Webで発表、CD化など。 事後学習として課題の振り返り等120分程度			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	※ 授業へは、必ず各自でヘッドフォンまたはイヤフォン（ステレオ）を持参すること。 ※ 3年次音楽系ゼミを希望する学生は必ず履修すること。 ※ MIDI制作演習1の内容を踏まえ講義を進めます。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	MIDI制作演習Iで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作を復習 コード楽器(ピアノ、ギター)に触れる機会を作りましょう			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	授業への参加状況20%、平常課題40%、期末課題40%で評価します。 授業への欠席が6回以上、期末課題の提出がない場合は欠席の扱いとなります。			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の实務経験と授業科目との関連) アーティスト、声優などへの楽曲提供(作曲、編曲)をしており、その実務経験を本授業科目のMIDI制作演習の内容に活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし。』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200016301
講義名	サウンドクリエーション
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	柴山 一幸
ナンバリングコード	22M2C4303

科目概要	実際の音楽制作現場で行われていることをミニマムな形で再現します。音楽制作ソフトを使用し、コンピュータによる音作りから、編集ミックスまで解説します。原音に対して効果的なエフェクト処理やそれぞれのエフェクト解説を行います。ソフトシンセで作成したオーディオデータ、実際の音を録音したオーディオデータの編集を行います。譜面が読めなくても一向に構いません。
達成目標	音楽制作ソフトの意義、方法を理解し実践できるようにする。1年生で音楽ソフト、Midiの基本を学んだ人は更にステップアップした作品を制作する。オリジナル作品作成のきっかけとなる知識を身につける。特に重点的にエフェクターを学び音響技術も同時に身に付ける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	MIDI制作演習Ⅰ・Ⅱで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：サウンド制作とはどのようなものなのか？ 事前学修：事前にシラバスを確認し授業全体の確認（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第2回	波形編集 事前学修：波形編集について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第3回	エフェクト処理(1)「インサートエフェクト、センドエフェクト、空間系、ダイナミクス系の解説」 EQ(イコライザー)解説 事前学修：エフェクト処理について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第4回	エフェクト処理(2)リバーブ 事前学修：エフェクト処理について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第5回	エフェクト処理(3)ディレイ 事前学修：エフェクト処理について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第6回	エフェクト処理(4)「コンプレッサー、リミッター、ディストーション」 事前学修：エフェクト処理について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第7回	Pan&Volume調整。autoミックスの方法。 事前学修：Pan&Volume調整について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第8回	ラジオジングル制作(1)実際の音を録音してみよう！オーディオインターフェース利用。 事前学修：ラジオジングル制作について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）
第9回	ラジオジングル制作(2)波形編集、エフェクト、Pan&Volume調整で大学のラジオジングルを制作。 事前学修：ラジオジングル制作について予習（60分程度） 事後学修：授業の復習（60分程度）

第10回	<p>マスタリング  事前学修：マスタリングについて予習（60分程度）  事後学修：授業の復習（60分程度）</p>			
第11回	<p>期末課題の制作(1)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。  事前事後学修：授業の復習と課題の制作（120分）</p>			
第12回	<p>期末課題の制作(2)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。  事前事後学修：授業の復習と課題の制作（120分）</p>			
第13回	<p>期末課題の制作(3)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。  事前事後学修：授業の復習と課題の制作（120分）</p>			
第14回	<p>期末課題の制作(4)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。  事前事後学修：授業の復習と課題の制作（120分）</p>			
第15回	<p>オリジナル作品の発表会：提出された作品の中から優秀なものを選んで鑑賞。特に優秀な作品は、Webで発表、CD化など。  事前事後学修：授業の復習と課題の制作（120分）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>※ 授業へは、必ず各自でヘッドフォンまたはイヤフォン（ステレオ）を持参すること。  ※ MIDI制作演習2の内容を踏まえ講義を進めます。  成績フィードバック期間において成績に関する質問やフィードバックを受け付ける。</p>			
アクティブラーニング	<p>実習、フィールドワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>MIDI制作演習Iで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作を復習</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>授業への参加状況20%、平常課題40%、期末課題40%で評価します。  期末課題の提出がない場合は欠席の扱いとなります。</p>			
教員の實務経験と授業科目との関連	<p>（教員の實務経験と授業科目との関連）  アーティスト、声優などへの楽曲提供（作曲、編曲）をしており、その實務経験を本授業科目のサウンドクリエーションの内容に活かした実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『使用しない』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200023901
講義名	舞台制作
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	大内 啓之
ナンバリングコード	22M2C6202、19M4C6203

科目概要	舞台催事について、企画、制作、実施までのプロセスを理解できる。 舞台催事に関わる業務の遂行に必要な基礎知識を実践できる。
達成目標	制作業務の内容の把握と、舞台制作に必要な基礎知識の習得、及び制作過程に必要な書類の作成、手続き、申請等の業務の遂行と各種調整業務、催事の実施および運営を実践できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	舞台芸術全般に関する理解。 舞台用語、劇場のシステムの理解。 音響、照明、舞台進行に関する基礎知識。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オリエンテーション・講義の進め方 舞台制作に関わる人々と業務内容 舞台制作の手順（制作プロセス）について ・企画、制作、実施、運営 事前学修：シラバスを確認し全体の流れを予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）
第2回	制作業務1（実施計画全体について） ・情報の整理（様々な「すべきこと」を「誰が」「いつまでに」「どのようにするか」を決めて文書化します。） ・実施計画書の内容（実施概要、制作スケジュール、当日スケジュール、実施運営組織図、スタッフなど） ・実施計画書の内容（会場図面、広告宣伝、サイン計画など、予算計画） 事前学修：制作業務について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）
第3回	劇場（舞台）に関する基礎知識 ・各種図面の読み方書き方（ステージ平面図、立面図等） ・舞台設備に関する実習（体育館で実施予定） 舞台制作に関わるスタッフの業務内容1 ・舞台美術スタッフの役割 事前学修：劇場（舞台）に関する基礎知識を予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）
第4回	制作業務2（運営組織とスタッフ編成について） ・主催、共催、後援、協賛、協力等、事業主体の組織編成 ・スタッフの選定と発注 事前学修：制作業務について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）
第5回	制作業務3（会場との調整、出演者との調整について） ・会場の選定、会場の確保（貸館業務の実際） ・会場との打合せ内容（どういう相手と何を確認するのか） ・出演者の選定～出演交渉 ・出演条件の交渉と契約 事前学修：制作業務について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）
第6回	制作業務4（予算管理と票券管理、営業、広告宣伝について） ・費用の算定と入金管理 ・チケット営業と広告宣伝 事前学修：制作業務について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）
第7回	制作業務5 ・記録、報告書の作成 ・会計処理 事前学修：制作業務について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）
第8回	制作業務6 ・リスクマネジメント（実際に運営するためにかなり細かい部分まで想定し対応を決めておきます。） ・保険などについて 事前学修：制作業務について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）

第9回	舞台制作に関わるスタッフの業務内容2 ・音響スタッフの役割 ・拡声、音だし等の実例を、簡易PAシステムを使用し解説 事前学修：舞台制作に関わるスタッフの業務内容について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）			
第10回	舞台制作に関わるスタッフの業務内容3 ・照明スタッフの役割 ・プランニングについて（実演内容の把握～打合せ～仕込図作成） ・現場での動きの実例を、簡易LED照明システムを使用し解説 ・舞台美術との関係について 事前学修：舞台制作に関わるスタッフの業務内容について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）			
第11回	舞台の構成演出 ・演出家の仕事について ・演出家の意図を具体化する各プランナーについて ・舞台演出の実例 （舞台装置によるもの、音響効果によるもの、照明効果によるもの、映像を使った効果、特殊効果、その他の効果の紹介） 事前学修：舞台の構成演出について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）			
第12回	舞台進行の実際1（イベント当日のスケジュールと業務内容） ・実施当日のスケジュールと具体的な舞台業務 ・舞台監督について ・テクニカルスタッフ（音響、照明、舞台等）との調整について 事前学修：舞台進行について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）			
第13回	舞台進行の実際2（イベント当日のスケジュールと業務内容） ・進行表、進行台本 ・当日タイムスケジュール、舞台図面について 事前学修：舞台進行について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）			
第14回	実施運営に関する業務 ・運営マニュアルについて ・運営（来場者対応等）のシミュレーションを実習体験 事前学修：実施運営について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）			
第15回	舞台進行の実際3 ・舞台業務の実例VTRを参考に解説 ・劇場設備、舞台機構について復習 ・専門用語と舞台用語のテスト実施 事前学修：舞台進行について予習（60分程度） 事後学修：授業内容の復習（60分程度）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	舞台制作現場での実例を織り交ぜ、各回の内容をレクチャーしたのち、関連する課題を示し授業内で資料収集や書類作成を行いません。また、舞台関連の専門用語を理解するため、随時、専門用語・舞台用語の理解度を小テストの形式で確認します。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	制作はあらゆる分野との調整業務が発生します。自分自身の意見を出来るだけ正確に相手に伝える能力が必要です。どんな良いアイデアも、相手(受け手)に伝わらないのでは実現しません。日常生活から得られるすべての知識や経験を活かして、どうすれば伝わるのかを考える事を心がけて下さい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	受講姿勢10%、課題レポート40%、授業内で作成する書類の提出状況30%、小テスト20%（締め切り厳守）を総合的に判断			
教員の実務経験と授業科目との関連	実務として、舞台・催事の音響に多く関わっており、本科目「舞台制作」へ、経験を活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『舞台技術の共通基礎』	劇場等演出空間運用基準協議会		978-4-904894-18-7	2014年
『舞台監督の仕事』	加藤正信	レクラム社	978-4-947575-31-9	1999年
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				

講義コード	1200023401
講義名	サウンドプロダクション
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	大内 啓之
ナンバリングコード	22M2C5202、19M4C5201

科目概要	音楽はエンターテインメントにおいて様々な役割を担っています。楽曲を鑑賞する目的だけでなく、音楽制作の現場では様々なニーズに対応する目的で音楽制作が求められています。この講座では、そういった様々なニーズに対応するオリジナル楽曲等を、音楽制作ソフトを使用し制作します。
達成目標	楽曲制作の発注者からの様々なオーダーに対応した音楽作品・音響作品を制作します。楽曲制作における納期を意識し、制作スピードの向上を目指します。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	MIDI制作演習Ⅰ、Ⅱで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	エンターテインメントの現場での音楽(音)が持つ役割について ・CM ・サウンドロゴ ・BGM ・ジングル ・劇伴 等 楽曲そのものを鑑賞する目的以外で作られる音楽(音)について考察します。 事前学修：シラバス等を使い授業全体の確認（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第2回	音楽(音)が人に与えるイメージと楽曲の構成要素について ・メロディー ・リズム ・ハーモニーの3要素 ・テンポ ・楽器構成 ・長調短調 など ・歌詞の長所、短所 事前学修：楽曲の構成要素について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第3回	ジングルの制作1 ・授業内で提示するいくつかの「この場面にふさわしいジングル」を制作（約5～15秒程度） 事前学修：ジングルの制作について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第4回	ジングルの制作2 ・授業内で提示するいくつかの「この場面にふさわしいジングル」を制作（約5～15秒程度）（継続） 事前学修：ジングルの制作について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第5回	ジングルの制作3 ・授業内で提示するいくつかの「この場面にふさわしいジングル」を制作（約5～15秒程度）（継続） ・中間発表 ～ 修正指示 ～ 修正作業 事前学修：ジングルの制作について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第6回	ジングルの制作4 ・作品発表 検討会 事前学修：ジングルの制作について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第7回	映像作品に合わせた音楽(音)の制作1 ・授業内で提示する映像(ワンシーン)の演出効果を高める音楽(音)を制作 事前学修：映像作品に合わせた音楽について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第8回	映像作品に合わせた音楽(音)の制作2 ・授業内で提示する映像(ワンシーン)の演出効果を高める音楽(音)を制作（継続） 事前学修：映像作品に合わせた音楽について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第9回	映像作品に合わせた音楽(音)の制作3 ・授業内で提示する映像(ワンシーン)の演出効果を高める音楽(音)を制作（継続） ・中間発表 ～ 修正指示 ～ 修正作業 事前学修：映像作品に合わせた音楽について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）
第10回	映像作品に合わせた音楽(音)の制作4 ・作品発表 検討会 事前学修：映像作品に合わせた音楽について予習（60分程度） 事後学修：事後学修として復習（60分程度）

第11回	舞台演出に合わせた音楽(音)の制作 1 ・舞台演出(舞台美術、装置、照明、人の動き、人の感情など)を効果的に高める音楽(音)の制作 ・舞台演出の設定は授業内でいくつが提示、または自身でストーリーを設定しても良い 事前学修:舞台演出に合わせた音楽(音)の制作について予習(60分程度) 事後学修:事後学修として復習(60分程度)			
第12回	舞台演出に合わせた音楽(音)の制作 2 ・舞台演出(舞台美術、装置、照明、人の動き、人の感情など)を効果的に高める音楽(音)の制作(継続) 事前学修:舞台演出に合わせた音楽(音)の制作について予習(60分程度) 事後学修:事後学修として復習(60分程度)			
第13回	舞台演出に合わせた音楽(音)の制作 3 ・舞台演出(舞台美術、装置、照明、人の動き、人の感情など)を効果的に高める音楽(音)の制作(継続) ・中間発表 ~ 修正指示 ~ 修正作業 事前学修:舞台演出に合わせた音楽(音)の制作について予習(60分程度) 事後学修:事後学修として復習(60分程度)			
第14回	舞台演出に合わせた音楽(音)の制作 4 ・作品発表 検討会 ※可能な限り舞台美術、照明、人の動きなどを実際に再現して作品を発表 事前学修:舞台演出に合わせた音楽(音)の制作について予習(60分程度) 事後学修:事後学修として復習(60分程度)			
第15回	舞台演出に合わせた音楽(音)の制作 5 ・作品発表 検討会 ※可能な限り舞台美術、照明、人の動きなどを実際に再現して作品を発表 総括 事前学修:舞台演出に合わせた音楽(音)の制作について予習(60分程度) 事後学修:事後学修として復習(60分程度)			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	実習は連続しているので、毎回の出席が必要です。欠席した分は自己責任で補うことになります。 授業へは、必ず各自でPC(音楽制作ソフト)またはiPad(GrageBand)、ヘッドフォンまたはイヤフォン(ステレオ)を持参すること。 フィードバックは成績フィードバック期間に実施する。			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	MIDI制作演習Iで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作を復習 コード楽器(ピアノ、ギター)に触れる機会を作りましょう			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	授業への参加と平常の課題提出、および授業内で制作する課題の作品によって評価します(100%)。 出席が規定回数に満たない場合は単位の取得資格喪失となります。			
教員の実務経験と授業科目との関連	実務として、舞台・催事の音響に多く関わっており、本科目「サウンドプロダクション」へ、経験を活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『使用しません』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200014702
講義名	デジタルアート入門
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	伊東 宣明
ナンバリングコード	22M2B1301

科目概要	Adobe社のグラフィック系ソフトウェアである「Illustrator」と「Photoshop」の基本操作と実践的な活用を、実習を通じて学びます。 デザインや画像編集のスキルを、小テストの実施や反復によって習得し、さまざまな表現に応用できる基礎力を身につけます。 また、「チュートリアル」や「模写」を多く行うことで、現代における多様な表現を習得します。 実践的な技術を学ぶだけでなく、デザインプロセスにおける思考力や観察眼も身につけます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IllustratorとPhotoshopの基本操作を身につける。</li> <li>・グラフィックデザインの基本的な考え方を身につける。</li> <li>・各自がさまざまな表現をできるようになる。</li> <li>・デジタル画像処理の基礎的な知識を身につける。</li> </ul>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	PCの基礎知識
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている</li> <li>2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。</li> <li>3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。</li> <li>5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。</li> </ol>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>1-1. 【授業ガイダンス】【Illustratorの基本操作】 デジタル画像の仕組みや、グラフィックデザインに関する基本事項を学習します。 PCの使い方やIllustratorの基本操作について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator、反復、基本ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第2回	<p>1-2. 【Illustratorの基本操作】 Illustratorの基本操作について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第3回	<p>1-3. 【Illustratorの基本操作】 Illustratorの基本操作について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作・文字レイアウトの復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第4回	<p>1-4. 【Illustratorの基本操作】 Illustratorの基本操作について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作・パスの復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>

第5回	<p>1-5. 【Illustratorの基本操作・小テスト】 Illustratorの基本操作に関する小テストを行います。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第6回	<p>1-6. 【Illustratorの基本操作・色彩】 Illustratorの基本操作や色彩選択について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、CMYK、RGB</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作・色彩の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第7回	<p>1-7. 【Illustratorの基本操作】 Illustratorの配置について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作・配置の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第8回	<p>1-8. 【Illustratorの基本操作・小課題】 Illustratorの小課題に取り組みます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、名刺</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第9回	<p>1-9. 【Illustratorの基本操作・小テスト】 Illustratorの小課題に取り組みます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作・小課題の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第10回	<p>2-1 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第11回	<p>2-2. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>

第12回	<p>2-3. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作と画像編集について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第13回	<p>2-4. 【Photoshop（基本操作）】 Photoshopの基本操作・画像編集について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshop（基本操作）の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第14回	<p>3-1. 【IllustratorとPhotoshopを用いた作品制作】 これまでの学習内容を踏まえ、IllustratorとPhotoshopを用いて制作する期末課題に取り組みます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、Photoshop基本操作、応用</p> <p>【授業外学習】 IllustratorとPhotoshopを用いた作品制作（120分以上）</p>
第15回	<p>3-2. 【IllustratorとPhotoshopを用いた作品制作・小テスト】 IllustratorとPhotoshopの小テストを行います。 これまでの学習内容を踏まえ、IllustratorとPhotoshopを用いて制作する期末課題に取り組みます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、Photoshop基本操作、応用</p> <p>【授業外学修】 IllustratorとPhotoshopを用いた作品制作（120分以上）</p>
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>「基本操作」は、IllustratorとPhotoshopを繰り返し操作しながら学習を進めることで、初心者でも着実に習得できることを目的としています。 「チュートリアル&amp;模写」を通じて、既存の表現を自分の表現へと昇華する力を身につけることを目標とし、考察を交えながら取り組みます。 また、複数回の「小テスト」を実施し、理解度を測定します。</p> <p>作成した各課題は提出し、採点の対象となります。 各授業ごとに、WEBCLASSを通じて小まとめや授業コメントを提出してもらい、学生の理解度を確認しながら、授業進行に応じて適宜内容を調整します。 成績フィードバック期間には、成績や課題に関する質問やフィードバックを受け付けます。</p>
アクティブラーニング	プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	授業時間外でも自由な時間を活用し、PhotoshopやIllustratorのスキルを向上させながら、さまざまな作品を制作することで、スキルアップにつながります。 授業の欠席が重なると、内容に追いつくことが難しくなるため、できるだけ休まずに出席してください。
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	小まとめ・授業コメント（15%）、指示された課題（25%）、複数回の授業内小テスト（30%）、期末課題（30%）により採点します。
教員の実務経験と授業科目との関連	美術家として、作品を国内外で多数発表しています。 また展覧会企画者・デザイナーとして、チラシやフライヤーの制作の実務経験多数。
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Illustrator 10年使える逆引き手帖【CC完全対応】	高野 雅弘	SBクリエイティブ	4797398272	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200028901
講義名	グラフィックデザイン
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	伊東 宣明
ナンバリングコード	22M2F2301

科目概要	Adobe社のグラフィック系ソフトウェアである「Photoshop」と「Illustrator」の基本操作と実践的な活用を、実習を通じて学びます。デザインや画像編集のスキルを、小テストの実施や反復によって習得し、さまざまな表現に応用できる基礎力を身につけます。また、「チュートリアル」や「模写」を多く行うことで、現代における多様な表現を習得します。実践的な技術を学ぶだけでなく、デザインプロセスにおける思考力や観察眼も身につけます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PhotoshopおよびIllustratorの基本操作から応用操作まで習得する。</li> <li>・グラフィックデザインにおける基本的な考え方やルールを理解する。</li> <li>・デジタル画像処理に関する基礎的な知識を身につける。</li> <li>・課題制作を通して、情報整理や画面構成を意識した表現ができるようになる。</li> </ul>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MacおよびIllustrator、Photoshopの基本操作ができることを前提とする。</li> <li>・前期のうちに「デジタルアート入門」を履修していることが望ましい。</li> <li>・IllustratorおよびPhotoshopの基本操作が事前に身につけていない場合、本科目の内容理解および単位取得が難しくなることがある。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<p>2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。</p> <p>3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。</p>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>1-1. 【授業ガイダンス】 【Photoshop基本操作】 作業環境とレイヤーの基礎 デジタル画像の仕組みや、グラフィックデザインに関する基本事項を学習します。 「Photoshop」の基本操作について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop、反復、基本ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第2回	<p>1-2. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作（選択範囲の基礎）について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作、ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第3回	<p>1-3. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作（マスクの基礎）について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作、ショートカット、マスク</p> <p>【授業外学修】 Photoshopの基本操作（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第4回	<p>1-4. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作（描画モードと重なり理解）について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作、ショートカット</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作・パスの復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>
第5回	<p>1-5. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作（色調補正の基礎）について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作、CMYK、RGB</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作の復習（60分） 授業を踏まえたオリジナル制作を行う（60分）</p>

第6回	<p>1-6. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作(色調補正の基礎)について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、CMYK、RGB、LUT</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作・色彩の復習(60分) 授業を踏まえた中間課題制作を行う(60分)</p>
第7回	<p>1-7. 【Photoshopの基本操作】修正・レタッチの基礎 Photoshopの基本操作(修正・レタッチの基礎)について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、CMYK、RGB、レタッチ</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作・色彩の復習(60分) 授業を踏まえた中間課題制作を行う(60分)</p>
第8回	<p>1-8. 【Photoshopの基本操作】 Photoshopの基本操作(簡単な画像合成)について学びます。</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、CMYK、RGB、レタッチ</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作・色彩の復習(60分) 授業を踏まえた中間課題制作を行う(60分)</p>
第9回	<p>1-9. 【Photoshopの基本操作】 中間課題講評</p> <p>【キーワード】 Illustrator基本操作、CMYK、RGB、レタッチ</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとPhotoshopの基本操作・色彩の復習(60分) 授業を踏まえたオリジナル制作を行う(60分)</p>
第10回	<p>2-1. 【PhotoshopとIllustratorの基本操作】 PhotoshopとIllustrator基本操作(文字の加工)について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作、Illustrator基本操作、文字</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作の復習(60分) 授業を踏まえたオリジナル制作を行う(60分)</p>
第11回	<p>2-2. 【PhotoshopとIllustratorの基本操作】 PhotoshopとIllustrator基本操作(文字の加工)について学びます。</p> <p>【キーワード】 Photoshop基本操作、Illustrator基本操作、文字</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポートとIllustratorの基本操作の復習(60分) 授業を踏まえたオリジナル制作を行う(60分)</p>
第12回	<p>3-1. 【期末課題制作】 デザインリサーチ</p> <p>【キーワード】 Photoshop、Illustrator、デザインリサーチ</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポート、PhotoshopとIllustratorの基本操作の復習(60分) 授業を踏まえたオリジナル制作を行う(60分)</p>
第13回	<p>3-2. 【期末課題制作】 実制作</p> <p>【キーワード】 Photoshop、Illustrator、デザインリサーチ</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポート、PhotoshopとIllustratorの基本操作の復習(60分) 授業を踏まえたオリジナル制作を行う(60分)</p>
第14回	<p>3-3. 【期末課題制作】 実制作</p> <p>【キーワード】 Photoshop、Illustrator</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポート、PhotoshopとIllustratorの基本操作の復習(60分) 授業を踏まえたオリジナル制作を行う(60分)</p>
第15回	<p>3-4. 【期末課題】 講評会・プレゼンテーション</p> <p>【キーワード】 Photoshop、Illustrator</p> <p>【授業外学修】 授業の小レポート、PhotoshopとIllustratorの基本操作の復習(60分) 事後学習(60分)</p>

講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>「基本操作」は、PhotoshopとIllustratorを繰り返し操作しながら学習を進めることで、着実に習得できることを目的としています。</p> <p>「チュートリアル&amp;模写」を通じて、既存の表現を自分の表現へと昇華する力を身につけることを目標とし、考察を交えながら取り組みます。</p> <p>また、複数回の「小テスト」「課題」を実施し、理解度を測定します。</p> <p>各授業ごとに、WEBCLASSを通じて小まとめや授業コメントを提出してもらい、学生の理解度を確認しながら、授業進行に応じて順番や内容を適宜内容を調整します。</p>			
アクティブラーニング	プレゼンテーション/実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>授業時間外でも自由な時間を活用し、PhotoshopやIllustratorのスキルを向上させながら、さまざまな作品を制作することで、スキルアップにつながります。</p> <p>授業の欠席が重なると、内容に追いつくことが難しくなるため、できるだけ休まずに出席してください。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	小まとめ・授業コメント（15%）、指示された複数回の課題・小テスト（45%）、期末課題（40%）により採点します。			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>美術家として、作品を国内外で多数発表しています。</p> <p>また展覧会企画者・デザイナーとして、チラシやフライヤーの制作の実務経験多数。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Photoshop 10年使える逆引き手帖	藤本 圭	SBクリエイティブ	4797398264	
Illustrator 10年使える逆引き手帖【CC完全対応】	高野 雅弘	SBクリエイティブ	4797398272	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200017601
講義名	システム開発論
開講期	2026年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	村山 聡江
ナンバリングコード	22M2A5301、19M4A5301

科目概要	<p>本講義は、システム開発の全体像を理解し、その過程で必要とされる知識とスキルを習得することを目的とする。まず、システム開発の流れや手法について基本的な理解を深めた後、開発プロセスの各段階について詳細に学ぶ。</p> <p>前半では、システム開発の流れや手法を学ぶとともに、開発プロセスにおける重要な理論を習得する。この内容は、基本情報技術者試験における「システム開発技術」や「プロジェクトマネジメント」の分野に関連する。後半では、身近なシステムの開発を想定したケースをテーマに総合演習を行い、理論の実践的な理解を深める。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム開発の流れ、開発手法、要件定義、業務のモデル化、外部設計、内部設計、テスト、プロジェクトマネジメント手法、見積、ITサービスマネジメントなどの基礎的な理論を説明できる。</li> <li>・総合演習を通じて、システム開発プロセスを体験し、プロジェクトで活用可能なドキュメント作成、設計スキルを身につける。</li> <li>・グループワークを通じて、チームでの開発プロジェクト運用に必要な役割分担、合意形成、情報共有を意識したコミュニケーション能力を身につける。</li> </ul>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<p>関連科目に「ソフトウェア基礎」「プログラミング」がある。</p> <p>また、Word、Excel、PowerPointの基本操作ができること。</p>
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている</li> <li>2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。</li> </ol>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>システム開発（全体）：システム開発プロセスの全体像 情報システムの基本的な概念を整理するとともに、システム開発プロセスの全体像について解説する。また、本講義の目的や進め方、成績評価方法等について説明し、以降の講義および演習に向けた導入を行う。</p> <p>事前学修：システム開発プロセスの全体像について予習しておく（60分） 事後学修：講義で学んだシステム開発プロセスの全体像を振り返り、各工程の役割や関係についてノートにまとめる（60分）</p>
第2回	<p>システム開発技術（1）：システム開発の流れ システム開発の全体的な流れを概説し、「調達」「要件定義」「システム設計」「プログラミング」「テスト」の各項目について説明する。特に、「調達」と「要件定義」に焦点を当て、それぞれの手順や必要なドキュメントについて詳しく解説する。</p> <p>事前学修：システム開発の一般的な流れについて調べ、各工程の概要を簡単に整理しておく（60分） 事後学修：講義で学んだシステム開発の流れを振り返り、「調達」と「要件定義」の目的や役割、関連するドキュメントについてノートにまとめる（60分）</p>
第3回	<p>システム開発技術（2）：システム開発手法 システム開発の手法について解説し、代表的な開発手法である「ウォーターフォールモデル」「プロトタイプモデル」「スパイラルモデル」「アジャイルモデル」の特徴と適用場面を説明する。特に「アジャイルモデル」については、代表的な手法であるスクラム及びエクストリーム・プログラミング（XP）を取り上げ、それぞれの考え方やポイントについて詳しく解説する。その後、レビュー、リバースエンジニアリング、マッシュアップ、APIを利用した開発についても取り上げ、それぞれの概要を解説する。</p> <p>事前学修：代表的なシステム開発手法について、それぞれの特徴や違いを簡単に整理しておく（60分） 事後学修：講義で学んだ各開発手法について整理するとともに、レビューなどの関連技術がどのような場面で活用されるかをノートにまとめる（60分）</p>
第4回	<p>システム開発技術（3）：要件定義と業務のモデル化 システム開発の初期段階で重要となる要件定義と業務のモデル化について解説する。業務のモデル化の中でも代表的な業務フロー図、DFD、ER図について解説したのち、演習を通して実際に簡単なDFD図を作成し、理解を深める。</p> <p>事前学修：要件定義と業務のモデル化について概要を確認しておく（60分） 事後学修：講義および演習で作成したDFD図を振り返り、各モデル化手法の特徴や使い分けについてノートにまとめる（60分）</p>
第5回	<p>システム開発技術（4）：外部設計 システム設計における外部設計段階の重要な要素であるUI（ユーザーインターフェース）およびUX（ユーザーエクスペリエンス）について解説する。UIについては、GUIとGUIの違いを説明した上で、ユーザビリティを考慮したUI設計の考え方について、具体的な実例を用いて解説する。 また、画面遷移図や画面レイアウト（ワイヤーフレーム）を用いて、画面構成や画面間の遷移関係を整理する方法を説明するとともに、外部設計における設計項目として、入力項目の設計や入力データのチェック方法（入力制御）についても取り上げる。</p> <p>事前学修：身の回りのWebサイトやアプリについて、使いやすいと感じる点・使いにくいと感じる点を簡単に整理しておく（60分） 事後学修：講義で学んだ外部設計の内容を振り返り、UI設計や画面構成において重要だと感じたポイントをノートにまとめる（60分）</p>

第6回	<p>システム開発技術（5）：内部設計、プログラミング、テスト システム設計における内部設計で行われる、モジュールの分割と構造化について概説する。また、モジュールの独立性を評価する尺度についても解説する。 さらに、プログラミングにおける基本事項として、3つの制御構造について説明する。 テスト工程については、「ブラックボックステスト」「ホワイトボックステスト」「トップダウンテスト」「ボトムアップテスト」「リグレッションテスト」などの代表的なテスト手法を取り上げ、それぞれの特徴を解説する。あわせて、バグ管理図を用いたバグの管理方法や、実運用における品質改善の手法として「A/Bテスト」の概要についても解説する。</p> <p>事前学修：プログラミングの基本的な制御構造について概要を確認するとともに、代表的なテスト手法の名称を調べておく（60分） 事後学修：講義で学んだモジュールの分割や独立性、テストの各手法について振り返り、重要だと感じたポイントをノートにまとめる（60分）</p>
第7回	<p>システム周りの各種マネジメント（1）：プロジェクトマネジメントとスケジュール管理 プロジェクトマネジメントの技法を体系的にまとめたPMBOK (Project Management Body of Knowledge) について概説する。また、プロジェクトの作業内容を分解・整理する手法であるWBS (Work Breakdown Structure) についても説明する。 スケジュール管理に関しては、「ガントチャート」「アローダイアグラム」「プレシデンスダイアグラム」について、それぞれの特徴と使い方を解説する。その後、演習を通じてこれらの図を実際で作成し、理解を深める。</p> <p>事前学修：プロジェクトマネジメントの基本的な考え方について調べるとともに、PMBOKやWBSといった用語の意味を簡単に確認しておく（60分） 事後学修：講義および演習で作成したスケジュール図を振り返り、作成ポイントについて整理する（60分）</p>
第8回	<p>システム周りの各種マネジメント（2）：開発コストの見積もりとITサービスマネジメント 開発コストの見積もりについて、その目的や重要性を説明するとともに、主な見積もり手法について概説する。 さらに、ITサービスを継続的かつ効果的に提供し、顧客の要求を満たすための管理手法であるITサービスマネジメント (ITSM) について解説する。ITサービスマネジメントでは、ITILの考え方を踏まえ、「サービスサポート」「サービスデリバリー」「SLA (サービスレベル合意)」「ファシリティマネジメント」などの各領域を取り上げ、それぞれの役割や特徴を説明する。 あわせて、情報システムが適切に運用・管理されているかを評価するための仕組みとして、システム監査の概要についても解説する。</p> <p>事前学修：システム開発における見積りの役割について調べるとともに、ITサービスマネジメントに関する用語の概要を確認しておく（60分） 事後学修：講義で学んだ見積、ITサービスマネジメント、システム監査について振り返り、それぞれ重要だと感じた点をノートにまとめる（60分）</p>
第9回	<p>総合演習（1）：ジャーニーマップ作成 身近なシステムの開発を想定したケースをテーマに、総合演習を行う。はじめに、ユーザー視点を深く理解するため、グループで想定するシステム利用者のペルソナを設定する。その後、ペルソナに基づいて、ユーザーがシステムを利用する一連の過程や、その際の行動・思考・感情を整理し、グループで議論しながらジャーニーマップを作成する。 作成した内容をもとに、各自がジャーニーマップを所定のフォーマットにまとめ、ユーザー体験の可視化について理解を深める。</p> <p>事前学修：グループ演習の準備として、ペルソナおよびジャーニーマップに関する基礎事項を予習する（60分） 事後学修：既存のシステムを対象に、ユーザー視点から分析・評価を行う（60分）</p>
第10回	<p>総合演習（2）：業務整理と機能の構造化 想定するシステムを題材に、業務内容を踏まえながら、必要となるシステム機能の洗い出しと整理を行う。グループ演習を通じて、機能の関連性を整理し、機能一覧としてまとめるとともに、個人作業により機能を階層構造として整理・構造化する。これらの作業を通じて、システム開発において要求を整理し、機能として構造化するための基本的な考え方と手法について理解を深める。</p> <p>事前学修：業務整理と機能の構造化に関する基本知識を復習（60分） 事後学修：グループでの検討結果を踏まえ、個人で表形式にまとめる（60分）</p>
第11回	<p>総合演習（3）：要件定義 これまでの演習で整理した業務内容および機能をもとに、要件定義工程について学ぶ。要件定義プロセスの概要を解説するとともに、要件定義書のサンプルを参照しながら、要件定義書に記載すべき項目やその役割について理解を深める。 その後、演習を通じて、想定するシステムに対する要件定義書の作成を行う。特に、システム開発の背景や目的、システムに関わる関係者、機能要件について整理し、文章としてまとめる。</p> <p>事前学修：要件定義の目的や役割について予習し、前回作成した機能構成を確認しておく（60分） 事後学修：作成した要件定義書を見直し、内容の過不足や不明確な点について整理する（60分）</p>
第12回	<p>総合演習（4）：見積 システム開発における見積の目的や重要性、および代表的な見積手法について解説する。 演習では、前回の演習で整理した要件をもとに、アジャイル開発でも用いられるプランニングポーカーを用いた見積をグループで行い、機能規模や作業量に対する見積の考え方を体験的に理解する。さらに、プランニングポーカーの結果をもとに、三点見積法を用いた個人演習を行い、見積におけるばらつきや不確実性を考慮した見積方法について理解を深める。</p> <p>事前学修：要件定義書の内容を確認し、見積の対象となる作業や機能について整理しておく（60分） 事後学修：作成した見積結果を振り返り、見積手法による結果の違いや課題について整理する（60分）</p>
第13回	<p>総合演習（5）：外部設計 これまでに整理した要件定義の内容をもとに、外部設計工程について復習し、外部設計における成果物やその役割について理解を深める。 演習では、グループごとに担当する画面を選択し、ワイヤーフレームを作成することで、画面構成や画面間の関係を整理する。さらに、作成したワイヤーフレームをもとに、個人作業として画面デザインを行い、ユーザビリティや視認性を考慮した外部設計について理解を深める。</p> <p>事前学修：外部設計およびUI設計の基本的な考え方について復習しておく（60分） 事後学修：作成したワイヤーフレームおよび画面デザインを見直し、改善点を整理する（60分）</p>
第14回	<p>総合演習（6）：テスト これまでに作成した外部設計の成果物を対象として、テスト工程の役割や目的について理解を深める。 演習では、他のグループが設計した画面を対象にユーザビリティテストを行い、設計した画面が利用者にとって使いやすいかどうかを評価する。さらに、グループで行ったテスト結果をもとに、個人作業として画面の改善案を検討するとともに、設計者としての視点から振り返りをまとめる。</p> <p>事前学修：ユーザビリティおよびテストの基本的な考え方について復習しておく（60分） 事後学修：ユーザビリティテストの結果と改善案を整理し、設計と評価の関係について振り返る（60分）</p>
第15回	<p>システム開発（全体） これまでの演習を振り返り、システム開発における各フェーズおよび全体像について整理する。あわせて、前半の講義内容についても振り返り、重要な用語や開発手法を再確認するとともに、実際のビジネスケースとの関連性を踏まえながら理解を深める。</p> <p>事前学修：これまでの演習課題を振り返り、学習内容を整理しておく（60分） 事後学修：配布資料全体を復習し、システム開発の流れと各工程の役割を再確認する（60分）</p>

講義進行方法、課題へのフィードバック方法	前半は、講義スライドおよび配布資料を用いて講義を進める。講義資料の一部はWebClassにも掲載する。講義内容の理解を深めるため、確認テストやミニ演習課題を適宜実施する。 後半は、身近なシステムの開発を想定したケースをテーマに、実際の開発プロセスを踏まえた総合演習を行う。確認テストについては授業中に解説を行い、提出された課題についてはWebClassを通じてフィードバックを行うとともに、必要に応じて次回講義の冒頭で解説を行う。			
アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/実習、フィールドワーク/グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	実際の開発現場では、インターネットの活用が不可欠である。講義前には、シラバスに記載されているキーワードについて、インターネットや生成AIを活用して事前に調査するなど、情報活用能力を高めることを意識してほしい。この取り組みは、情報収集スキルの向上にもつながる。 総合演習の課題は、それぞれ評価のポイントを具体的に示すので、返却された課題の振り返りに役立ててほしい。 講義後は、身の回りのソフトウェア等を観察し、講義で学んだ技術や考え方が、どのように社会で製品やサービスとして活用されているかを意識してほしい。こうした実践を通じて、学んだ知識を実世界の事例と結び付け、理解を深めることができる。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	定期試験（60%）、授業時の確認テスト及びミニ課題（10%）、総合演習の提出・達成状況（30%）により評価する。また、講義及び確認テスト、総合演習時の取組状況及び積極的な質問等も評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	大手モバイル通信事業会社にて、システム開発やアプリ開発をした実務経験を有する。また、プロジェクトマネージャーとして、プロジェクトを牽引した経験を有する。本講義では、企業における基本情報技術者試験合格レベルの知識の必要性を交えながら講義し、実際のシステム開発部門で発生しがちな事案や求められる人物像についても教授している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者 令和08年	きたみりゆうじ	技術評論社	978-4297153014	
令和7-8年度版 基本情報技術者試験対策テキスト（よくわかるマスター）	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	978-4867751350	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1100004001
講義名	芸術
開講期	2026年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	24F1Z9202、22M1Z9202

科目概要	自然や人間に対するまなざしから文化としての芸術を捉えながら、様々な表現による実践を通して芸術に親しむことで、豊かな発想や想像力を育む。芸術の歴史から最先端の表現方法まで、幅広い視点から「みる力」と「表現する力」をつけ、今日の芸術の理解につなげる。
達成目標	芸術表現を通して、豊かな発想や想像力で「つくる（表現する）力」とともに、幅広い視点や観察力で「みる（鑑賞する）力」を身に付ける。描画材によるトレーニングをはじめ、様々な表現手法による作業を通じた発見から自分のアイデアを表現できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	制作に必要な道具や材料を適宜購入してもらうことがある。
学位授与方針との関連	5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。（情報メディア学科） 5. 社会人としての教養に関わる科目等（フードビジネス学科）
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：芸術とは何か 芸術の基礎知識について説明 キーワード：芸術 予習・復習として、キーワードについて調査して考えをまとめること（120分）
第2回	鉛筆デッサン1：デッサン基礎～鉛筆を使った陰影表現 デッサン、描画 キーワード：陰影 予習・復習として、鉛筆デッサンを練習すること（120分）
第3回	鉛筆デッサン2：デッサン応用～写真をモチーフにした陰影表現 モチーフデッサン キーワード：観察 予習・復習として、鉛筆デッサンを練習すること（120分）
第4回	鉛筆デッサン3：パースによる立体感の表現 立体デッサン演習 キーワード：パース、遠近法 予習・復習として、立体物のデッサンを練習すること（120分）
第5回	コラージュ作品制作1：要素とする素材収集 コラージュ素材集め キーワード：コラージュ 予習・復習として、身の周りのコラージュ制作物を探してまとめること（120分）
第6回	コラージュ作品制作2：要素とする素材収集 レイアウト、糊付け キーワード：レイアウト 予習・復習として、作品の不足素材を収集すること（120分）
第7回	コラージュ作品制作3：作品展示 作品の完成と鑑賞 キーワード：展示、鑑賞 予習・復習として、外部の展示スペースに足を運ぶこと（120分）
第8回	美術と表現：表現とは何か 近代芸術におけるドキュメンタリー作品の鑑賞、意見交換 キーワード：コンセプト、メッセージ 予習・復習として、芸術に関する映画やドキュメンタリーを鑑賞すること（120分）
第9回	美術館に行こう！：作品鑑賞力を鍛えてみよう 荻須記念美術館に行き作品鑑賞、模写 キーワード：鑑賞、模写 予習・復習として、他の美術館に足を運ぶこと（120分）
第10回	紙を使った表現I：ステンシル切り絵1～導入 切り絵モチーフを作成する キーワード：ステンシル 予習・復習として、切り絵の仕組みを練習して理解すること（120分）

第11回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵2～モチーフの作成 準備した下絵の補正作業を進める キーワード：下絵制作 予習・復習として、デザインナイフを使った切り絵を練習すること（120分）			
第12回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵3～切り出し 下絵をもとに切り絵を制作する キーワード：デザインナイフ 予習・復習として、デザインナイフを使った切り絵を練習すること（120分）			
第13回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵4～スプレーアート 完成した切り絵を版にスプレーで仕上げる キーワード：ステンシルアート 予習・復習として、ステンシルの仕組みについて理解を深め下絵作成を練習すること（60分）			
第14回	紙を使った表現1 I：ポップアップ1～制作練習 ポップアップ技術の基礎知識演習 キーワード：ポップアップ 予習・復習として、ポップアップの設計を練習すること（60分）			
第15回	紙を使った表現1 II：ポップアップ2～構成要素制作 テーマに合ったポップアップを制作 キーワード：仕組み、動き 予習・復習として、ポップアップの設計を練習すること（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定の教科書は指定しないが、講義によるスクリーンに基づき制作することで理解を深める。制作課題のテーマは一般的な事象やワードを提示するが、自由な発想でテーマを捉えオリジナリティを持った作品制作を期待する。基礎としてのデッサンおよびドローイングなど技術的養成だけでなく、コラージュなど感覚的養成を取り組むが、制作では積極性、意欲を評価するので、講義を聞くと同時に自らのアイデアや制作について意欲的な取り組みが求められる。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	講義では課題制作が主になるが、自分の中で制作物を「完成」させるために、積極的に制作に取り組んでほしい。授業時間内に完成できなかった場合は、時間外にて補完して完成させること。また、興味を持って美術館や展覧会に出かけることが望ましい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業での課題で制作した作品を総合して評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 企業における美術製作に関する実務経験を有しており、その実務経験を、本授業科目では「作品というものの多様性」また「作品制作のモチベーション」という観点から指導することで、作品制作における実践的な教育として実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『バンクシー ビジュアルアークタイプ』	ザビエル・タピエス	グラフィック社	476613141X	2018
『きりのなかのサーカス』	ブルーノ・ムナーリ	フレーベル館	4577036975	2009
『実物で学ぶしかけ絵本の基礎知識ポップアップ』	デビッド・A・カーター他著	大日本絵画	4499279100	2000
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	なし			
2.				
3.				
4.				
5.				